AV Center

DTX-7.7

取扱説明書

Integra

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

主な特長

■各種サラウンド方式に対応した7.1チャンネルアンプ
■THX規格*1に基づき、THXサラウンドEXデコーダーを搭載
■ドルビー*2デジタル、ドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIx、ドルビーデジタルEXサラウンド再生可能
■DTS*3、DTS-ES Discrete、DTS-ES Matrix、DTS Neo : 6、DTS 96/24サラウンド再生可能
■MPEG-2 AAC再生可能
■192kHz/24ビットD／Aコンバーター搭載
■飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成するVLSC*4（Vector Linear Shaping Circuitry）を全チャンネルに搭載
■再生周波数の広帯域化を図るWRAT（ワイド・レンジ・アンプリファイアー・テクノロジー）
■ダウンミックスによるフロントL/Rチャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用
■デジタル音声/映像信号を1本のケーブルで伝送可能なHDMI*5入力2系統、出力1系統装備
■ビデオコンバーター搭載*6〔ビデオ(コンポジット)/Sビデオ信号をD4/コンポーネント端子に出力、ビデオ(コンポジット)/Sビデオ/D4/コンポーネント信号をHDMI端子に出力〕
■D4/コンポーネント映像入力端子3系統、出力端子1系統装備
■5.1/7.1マルチチャンネル入力端子装備、DVD-Audioプレーヤーやスーパーオーディオ CDプレーヤーへの拡張性を実現
■デジタル入力端子として光5系統/同軸2系統、デジタル出力端子として光1系統装備
■RS232端子装備
■付属のマイクで簡単スピーカー設定
■モニターを見ながら、簡単設定ができるOSD（オンスクリーンディスプレイ）機能
■他機の操作を可能にするラーニング＆プリプログラム、マクロ機能搭載のリモコン付属

*1 THX、Select 2は、THX社の商標または登録商標です。
Re-Equalization、Re-EQロゴは、THX社の商標です。

*2 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
“Dolby”、“ドルビー”、“Pro Logic”、“Surround EX” およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

*3 本機は、デジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
“DTS”、“DTS 96/24”、“DTS-ES”および“Neo : 6”は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

*4 VLSCは、オンキヨー株式会社の登録商標です。

*5 HDMI、HDMIロゴ及びHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

*6 本機は、合衆国特許権と知的所有権上保障されたマクロビジョンコーポレーションの許可が必要な著作権保護技術を搭載しており、改造または分解は禁止されています。

AAC パテントマーキング
Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225
5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671
07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036
5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547
5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240 5,197,087
5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

目次

はじめに

接続をする

初期設定をする

こんなこともできます

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

こんなこともできます

ゾーン2（別室）で音楽を鑑賞する

接続した製品を本機のリモコンで操作する

困ったときは

その他

設定をする（応用編）

設定をする（リスニングモード編）

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について
この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意(警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⦸記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容(左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

●本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

●本機を使用できるのは日本国内のみです。
●表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧や船舶などの直流(DC)電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

●本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。
次の点に気をつけてご使用ください。
•本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
•本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
•テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、ふとんの上に置いて使用しないでください。
•本機を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

■ 水のかかるところに置かない

水場での
使用禁止

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ
禁止

●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

●本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセント
から抜いてください

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますのでご注意ください。
●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない

●本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー、電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセント
から抜いてください

●万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触
禁止

●雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

●乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠注意

■ 設置上の注意

●強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
●本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
●本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器と接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
●キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
●移動させる場合は、必ず本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 電池について

●電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
●電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて

●スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

●お手入れの際は、安全のため本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

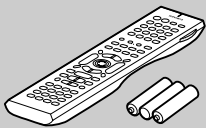
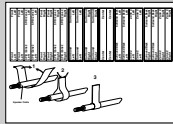
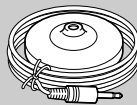
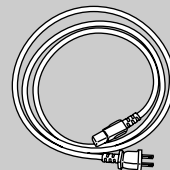
●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。

●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

●表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

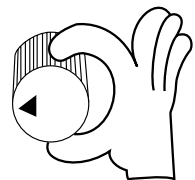
■付属品を確認する

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。

リモコン（RC-621M)…(1)
乾電池（単三形、R6)…(3)

スピーカーコード用ラベル…(1)

簡単スピーカー設定用マイク…(1)

電源コード(2m)…(1)

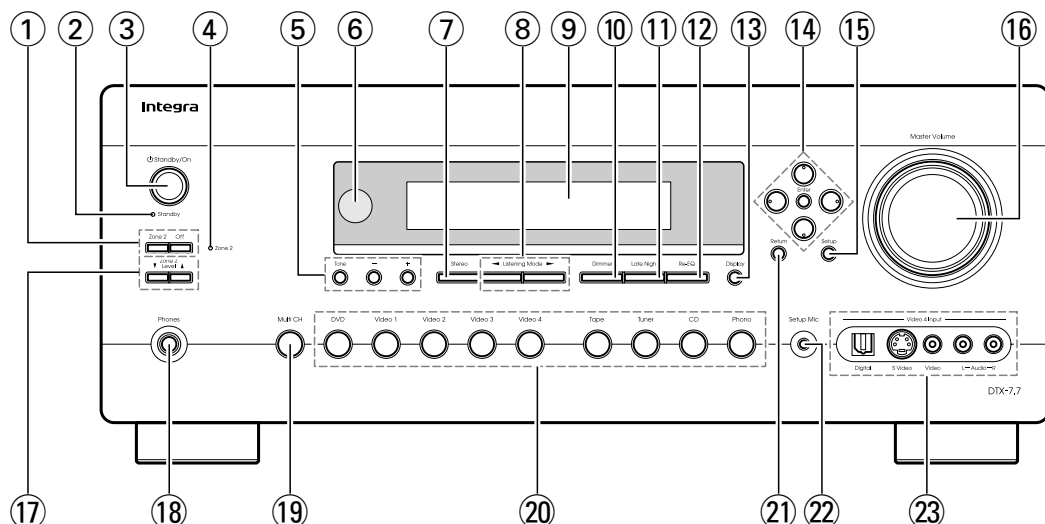
取扱説明書（本書）…(1)
保証書…（1)

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

〔　　〕内のページに主な説明があります。

① **Zone 2/Offボタン**〔73〕
Zone 2ボタンは、ゾーン2（別室）への出力を「オン」にするときや、ゾーン2の入力を切り換えるときに押します。ゾーン2への出力を「オフ」にするときは、Offボタンを押します。

② **Standbyインジケーター**〔35〕
スタンバイ状態のときやリモコンからの信号を受信すると点灯します。

③ **Standby/Onボタン**〔35〕
電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

④ **Zone 2インジケーター**〔72､73〕
ゾーン2（別室）への出力が「オン」のときに点灯します。

⑤ **Tone－/＋ボタン**〔53〕
高音、低音を調整するときに使用します。

⑥ **リモコン受光部**〔16〕
リモコンからの信号を受信します。

⑦ **Stereo ボタン**〔48〕
リスニングモードをステレオにします。

⑧ **Listening Mode◀/▶ボタン**〔48〕
リスニングモードを選びます。

⑨ **表示部**
次ページをご覧ください。

⑩ **Dimmerボタン**〔45〕
表示部の明るさを切り換えます。

⑪ **Late Nightボタン**〔53〕
レイトナイト機能をオン/オフします。

⑫ **Re-EQボタン**〔53〕
Re-EQ機能をオン/オフします。

⑬ **Displayボタン**〔47〕
表示部の情報を切り換えます。

⑭ **▲/▼/◀/▶Enterボタン**
カーソルを上下左右に移動し、設定項目を選択します。中央のボタンを押すと選択している項目を確定します。

⑮ **Setupボタン**
本機の設定を行います。

⑯ **Master Volumeつまみ**〔44〕
音量を調整します。
音量は基本的に－∞・－81・－80…＋18の範囲で調整できます。

⑰ **Zone 2 Level▲/▼ボタン**〔73〕
ゾーン2（別室）のスピーカー音量を調整します。

⑱ **Phones端子**〔45〕
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑲ **Multi CHボタン**〔46〕
DVDの音声をマルチチャンネル入力に切り換えます。

⑳ **入力切換ボタン（DVD、Video1～4、Tape、Tuner、CD、Phono）**〔44〕
再生する機器を選びます。

㉑ **Returnボタン**
設定中に1つ前の表示に戻します。

㉒ **Setup Mic端子**〔36〕
付属の簡単スピーカー設定用マイクを接続して、スピーカーの数や位置を検知します。

㉓ **Video 4 Input端子**〔24〕
ビデオカメラやゲーム機などを接続します。

表示部

〔　　〕内のページに主な説明があります。

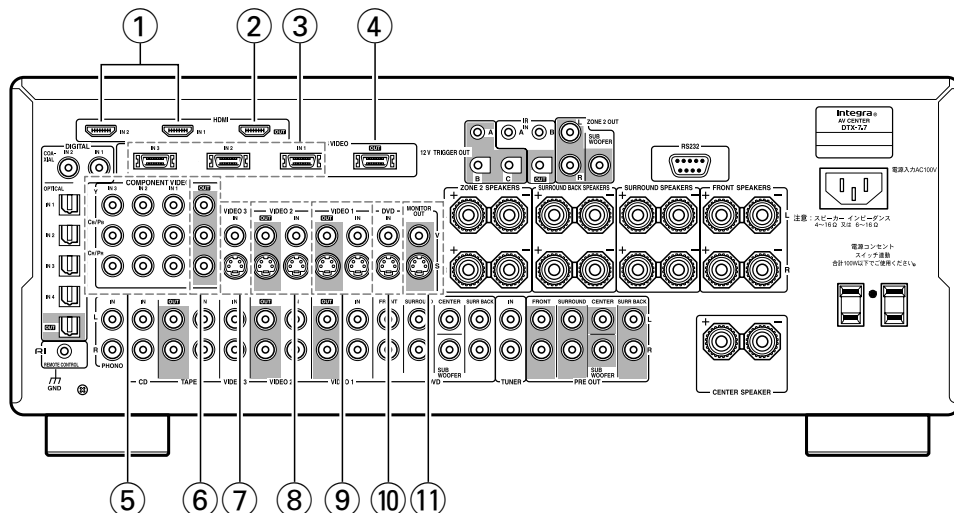
入力信号表示

表示	入力信号
D	Dolby Digital
dts	DTS
PCM	PCM
AAC	AAC
MULTI CH	アナログマルチチャンネル

本体、リモコンボタンの名前と働き

後面パネル

〔　　〕内のページに主な説明があります。

■映像端子と映像/音声端子

① HDMI IN1/2端子〔28、29〕
接続した機器からデジタル映像信号とデジタル音声信号を入力する端子。

② HDMI OUT端子〔28、29〕
本機からデジタル映像信号をテレビに出力する端子。
設定により、デジタル音声信号も同時に出力することができます。

③ D4 VIDEO IN 1/2/3端子〔23、25、26〕
接続した機器からD映像を入力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

④ D4 VIDEO OUT端子〔22〕
接続しているモニターやテレビにD映像を出力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

⑤ COMPONENT VIDEO IN 1/2/3端子〔23、25、26〕
接続した機器からコンポーネント映像を入力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

⑥ COMPONENT VIDEO OUT端子〔22〕
接続しているモニターやテレビにコンポーネント映像を出力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

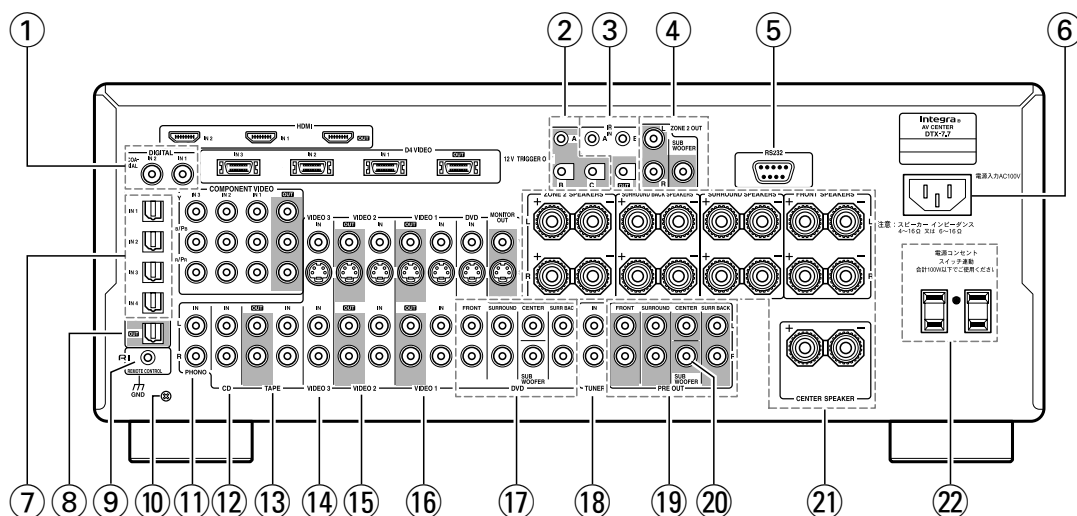
⑦ VIDEO 3 IN端子〔25、32〕
接続した機器からビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を入力する端子。

⑧ VIDEO 2 IN/OUT端子〔27〕
ビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を入出力する端子。

⑨ VIDEO 1 IN/OUT端子〔26、27〕
ビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を入出力する端子。

⑩ DVD IN端子〔23〕
接続したDVDプレーヤーからビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を入力する端子。

⑪ MONITOR OUT端子〔22〕
接続しているモニターやテレビにビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を出力する端子。

■音声端子とその他の端子

① DIGITAL IN1/2（COAXIAL）端子〔22、23、25、26、30、31〕
デジタル音声の入力端子。
デジタル再生機器を接続します。

② 12V TRIGGER OUT A/B/C端子〔74〕
他機の12Vトリガー入力端子と接続します。

③ IR IN（A/B)/OUT端子〔75〕
ゾーン2（別室）からリモコン操作したいときや、本機をラックに入れたときにリモコンセンサーを接続する端子です。（この接続には、マルチルームシステム用キットが必要です。）

④ ZONE 2 OUT L/R、SUBWOOFER端子〔70〕
ゾーン2（別室）で使用するアンプとサブウーファーを接続します。

⑤ RS232コネクター
外部のコントロール機器から本機をコントロールすることができます。

⑥ AC INLET〔35〕
付属の電源コードを接続します

⑦ DIGITAL IN1/2/3/4（OPTICAL）端子〔22、23、25、26、30、31〕
デジタル音声の入力端子。
デジタル再生機器を接続します。

⑧ DIGITAL OUT（OPTICAL）端子〔27、31〕
デジタル音声の出力端子。
デジタル録音機器を接続します。

⑨ RI REMOTE CONTROL端子〔32～34〕
RI端子付きインテグラ/オンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。
RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

⑩ GND端子〔31〕
レコードプレーヤーのアース線を接続します。

⑪ PHONO IN端子〔31〕
レコードプレーヤーと接続します。本機はムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。

⑫ CD IN端子〔30〕
CDプレーヤーを接続します。

⑬ TAPE IN/OUT端子〔31、32〕
テープデッキ、MDレコーダーなどの録音機器や次世代ハードディスク対応機器を接続します。

⑭ VIDEO 3 IN端子〔25、32〕
BSチューナーや次世代ハードディスク対応機器などの音声出力端子と接続します。

⑮ VIDEO 2 IN/OUT端子〔27〕
ビデオデッキなどの音声入出力端子と接続します。

⑯ VIDEO 1 IN/OUT端子〔26、27〕
ビデオデッキなどの音声入出力端子と接続します。

⑰ DVD IN端子〔23、24〕
DVDプレーヤーを接続します。

⑱ TUNER IN端子〔30〕
チューナーを接続します。

⑲ PRE OUT端子〔32〕
本機をプリアンプとして使用する場合、パワーアンプと接続します。

⑳ SUBWOOFER PRE OUT端子〔19〕
アンプ内蔵サブウーファーと接続します。

㉑ スピーカー端子〔18、19、70〕
スピーカーを接続します。

㉒ 電源コンセント〔32〕
本機に接続するオーディオ機器の電源プラグを接続します。

本体、リモコンボタンの名前と働き

リモコン（RC-621M）

AMPモード（本機を操作するとき）

〔　〕内のページに主な説明があります。

本機を操作する前に、AMP（Receiver/Tape）ボタンを押してください。

Onボタン〔35〕
本機の電源を入れます。

Input Selectorボタン〔44〕
再生する機器を選びます。

Remote Modeボタン
リモコンで操作する機器を選びます。
本機を操作するときは、AMP (Receiver/Tape) ボタンを押してください。
ゾーン2（別室）の入力切り換えや音量調節のときは、Zone2ボタンを押してください。

Dimmerボタン〔45〕
表示部の明るさを切り換えます。

Returnボタン
設定中に、1つ前の表示に戻します。

Displayボタン〔47〕
表示部の表示を切り換えます。

Listening Modeボタン〔48〕
Stereo、Surround、◀/▶ボタンはどのリモコンモード時でも使用できます。

Stereoボタン
リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

Surroundボタン
DTSやドルビーデジタルなどのリスニングモードを選びます。

◀/▶ボタン
リスニングモードを選びます。

Directボタン
リスニングモードを「Direct」に切り換えます。

THXボタン
THXのリスニングモードを選びます。

All STボタン
リスニングモードを「All Ch Stereo」に切り換えます。

Standbyボタン〔35〕
本機をスタンバイ状態にします。

Lightボタン
リモコンのボタンを点灯/消灯させます。
どのリモコンモード時でも働きます。

Multi CHボタン〔46〕
DVDの音声をマルチチャンネル入力に切り換えます。

Macroボタン〔82〕
マクロ機能を使用するときに使います。

▲/▼/◀/▶/Enterボタン
設定中に上下左右に押して項目を選択します。中央のEnterボタンを押すと、選択した項目を確定します。

Sleepボタン〔45〕
スリープタイマーを設定します。

VOL▲/▼ボタン〔44〕
音量を調整します。
どのリモコンモード時でも使えます。

Mutingボタン〔45〕
音を一時的に小さくします。

Setupボタン
本機の設定を行います。

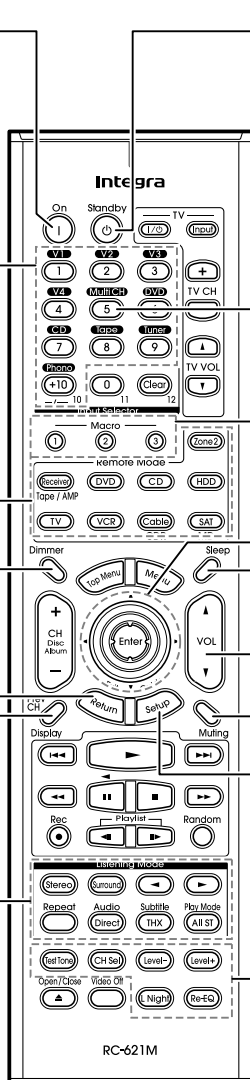
オーディオ設定ボタン

Test Toneボタン〔61〕
スピーカーの音量レベルを設定するときに使用します。

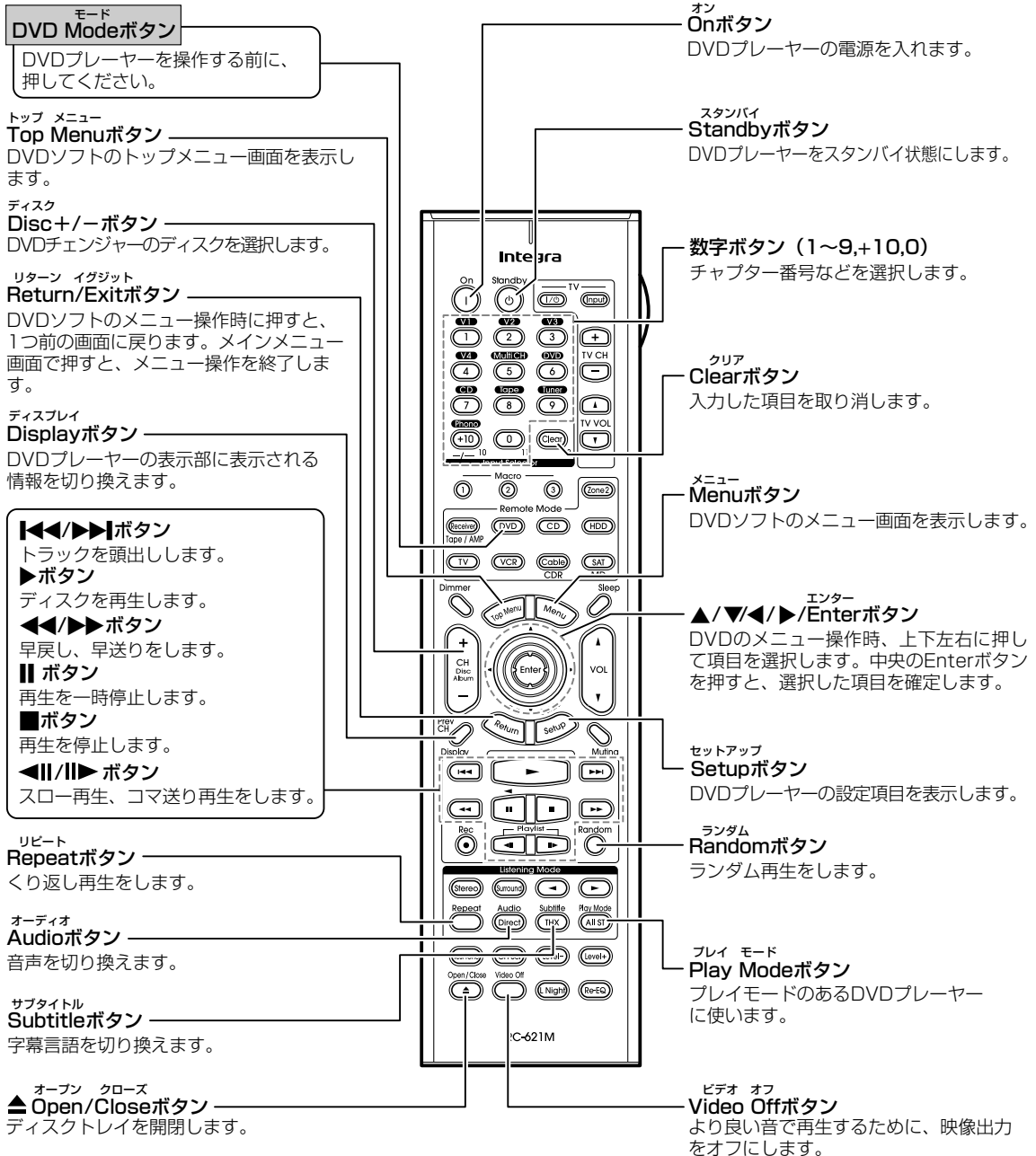
CH Selボタン〔46、61〕
音量レベルを調整したいスピーカーを選択します。

Level－/＋ボタン〔46、61〕
CH Selボタンで選択したスピーカーの音量レベルを調整します。

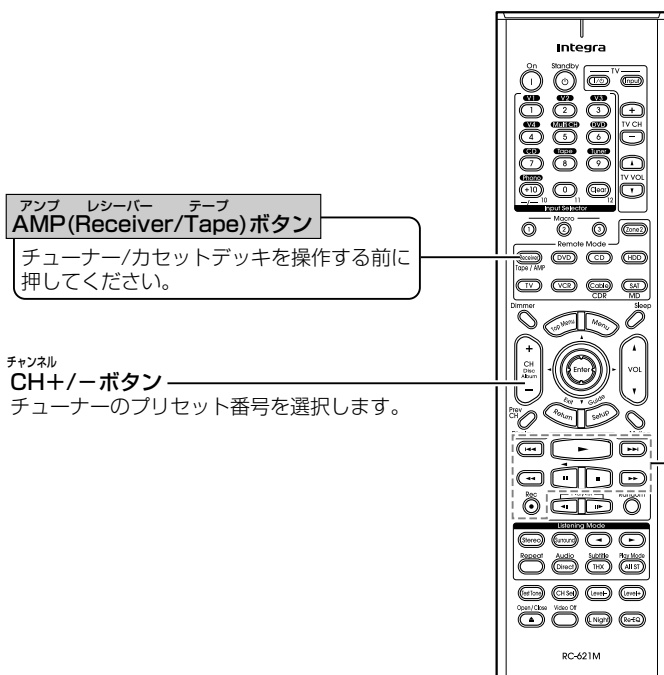
L Nightボタン〔53〕
レイトナイト機能をオン/オフします。

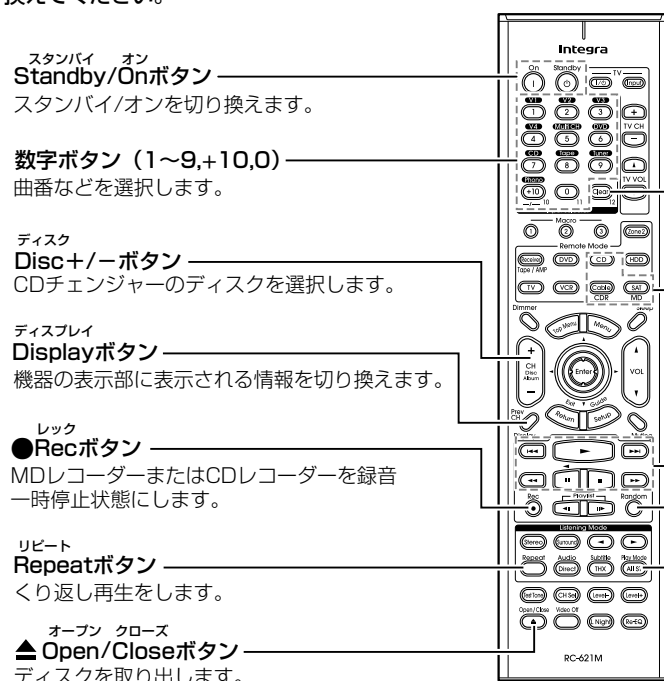
Re - EQボタン〔53〕
Re-EQ機能をオン/オフします。

お買い上げ時の設定では、インテグラ/オンキヨー製DVDプレーヤーを操作することができます。他社の製品を操作するときは、76ページでリモコンコードを登録してください。

DVDモード（本機に接続したDVDプレーヤーを操作するとき）

接続するDVDプレーヤーや再生するディスクによっては、対応していない機能もあります。

本体、リモコンボタンの名前と働き

TUNER/TAPEモード（本機にRI接続したチューナー/カセットデッキを操作するとき）

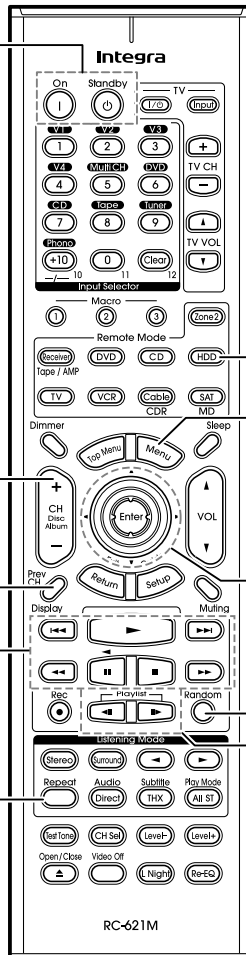
RI接続したチューナーやカセットデッキを操作する前に、Remote Mode AMP（Receiver/Tape）ボタンを押して、リモコンをTUNER/TAPEモードにしてください。

CD、MD、CDRモード（本機に接続したCDプレーヤー、MDレコーダーやCDレコーダーを操作するとき）

MDレコーダー、CDレコーダーを操作するときは、76ページでリモコンコードを登録して、43ページで入力表示を切り換えてください。

HDDモード（本機にRI接続した次世代ハードディスク対応機器を操作するとき）

2006年現在、HDDモードでRI接続したオンキヨー リモート インタラクティブ ドックが操作できます。

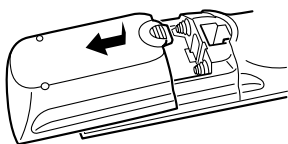
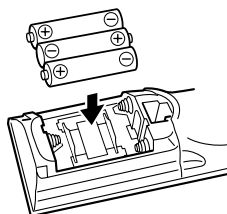
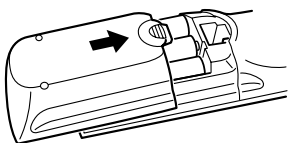
リモートインタラクティブドックを組み合わせるときは：

1. 本機のTAPE IN端子またはVIDEO 3端子に接続する
2. リモートインタラクティブドックのRI MODE切換スイッチを「HDD」に合わせる
3. 入力表示を「HDD」に切り換える（☞43ページ）

ご注意

- ＊のついているボタンは、第3世代のiPodでは使用できません。
- リモートインタラクティブドックの取扱説明書もご覧ください。
- iPodは、米国及びその他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標または登録商標です。

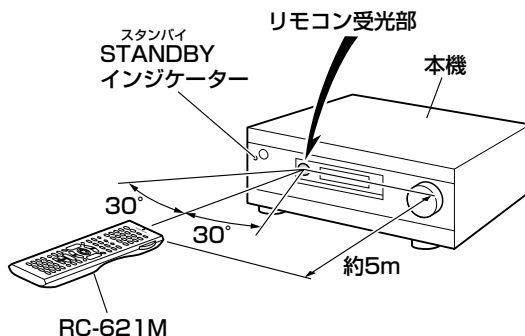
本体、リモコンボタンの名前と働き

乾電池を入れる

1. カバーを矢印の方向にずらして開ける

2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池3個を＋（プラス）と−（マイナス）を間違えないように入れる

3. カバーを戻す

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して3本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単3形をご使用ください。

リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。リモコンからの信号を受信すると、本機のStandby（スタンバイ）インジケーターが点灯します。

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていたり、装飾フィルムを貼っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

ホームシアターとは

ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。
再生する信号によって、DTSやドルビーデジタル再生、オンキヨー独自のリスニングモードをお楽しみいただけます。
THXのリスニングモードを聞くときは、THX社認定スピーカーのご使用をおすすめします。

スピーカーの使いかた
2つお持ちの場合、左右フロントスピーカーとして使用します。(2チャンネル再生)
3つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。(3チャンネルサラウンド)
4つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(4チャンネルサラウンド)
5つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(5チャンネルサラウンド)
6つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーとして使用します。(6チャンネルサラウンド)
7つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーとして使用します。(7チャンネルサラウンド)
サブウーファーをお持ちの場合、スピーカーの数に関係なく、重低音効果を発揮するために使用します。(○.1チャンネル再生)

- 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、付属の簡単スピーカー設定用マイクを使って簡単スピーカー設定を行ってください。(☞36ページ)

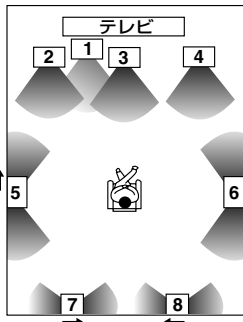
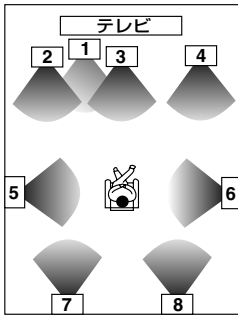
接続をする

スピーカーを接続する

サラウンドバックスピーカーの配置について

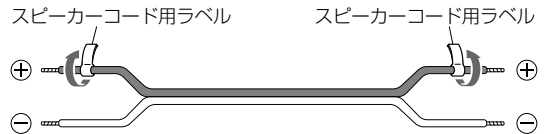
サラウンドバックスピーカーは、Dolby(ドルビー) Digital(デジタル) EX、Dolby(ドルビー) Pro(プロ) Logic(ロジック) IIx、DTS-ES Matrix(マトリックス)、DTS-ES Discrete(ディスクリート)、THX Surround(サラウンド) EXなどのリスニングモードを楽しむときに必要です。
設置例1は、ダイポール型スピーカーを設置した場合です。ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど、二つの方向に同じ音を出す、双指向性スピーカーのことです。
ダイポール型スピーカーでは位相*を合わせるため、多くはスピーカーに矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカーは矢印（↑）がテレビへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカーは、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

*位相 ： 正弦波の1周期（0～360度）における波形の位置を示す言葉。各スピーカー間の距離や取り付け角度、＋、－の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聞きづらさがあったりします。

設置例1

設置例2

1 サブウーファー
2 左フロントスピーカー
3 センタースピーカー
4 右フロントスピーカー
5 左サラウンドスピーカー
6 右サラウンドスピーカー
7 左サラウンドバックスピーカー
8 右サラウンドバックスピーカー

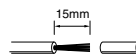
左右サラウンドバックスピーカーは、できるだけ間隔をあけずに配置してください。（THX社推奨）

スピーカーコード用ラベルの使いかた

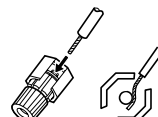
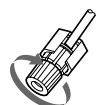
本機はスピーカー端子の⊕側を色分けして識別しやすくしています。付属のスピーカーコード用ラベルをお持ちのスピーカーコード両端のプラス⊕に貼ると識別が簡単になります。スピーカー端子は以下のように色分けしています。

左フロント ：**白** 左フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に白いラベルを貼る
右フロント ：**赤** 右フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に赤いラベルを貼る
センター ：**緑** センタースピーカーのコード両端（⊕側）に緑のラベルを貼る
左サラウンド ：**青** 左サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に青いラベルを貼る
右サラウンド ：**灰** 右サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に灰色のラベルを貼る
左サラウンドバック ：**茶** 左サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）に茶色のラベルを貼る
右サラウンドバック ：**ベージュ** 右サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）にベージュのラベルを貼る

スピーカーコードの接続

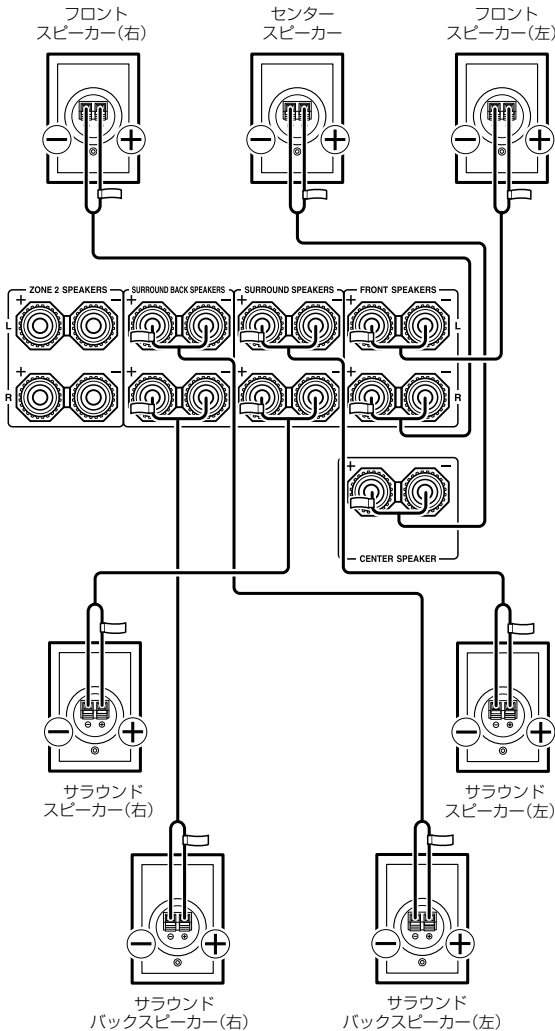
本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子にラベルを貼った側のスピーカーコードを接続します。本機のスピーカー端子のマイナス⊖とスピーカーのマイナス⊖端子とをラベルの貼っていない側のスピーカーコードで接続します。

①スピーカーコードの被覆を15mmカットする

② しん線の先端をしっかりとよじる

③ねじをゆるめる

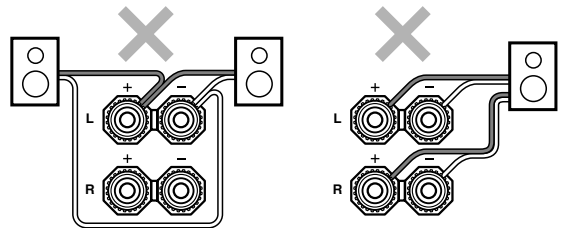
④しん線を差し込む

⑤ねじを締め付ける

ご注意

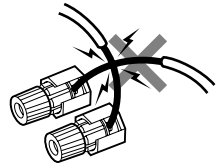
しん線はしっかりとよじり、後面パネルなどの金属に接触しないようにしてください。

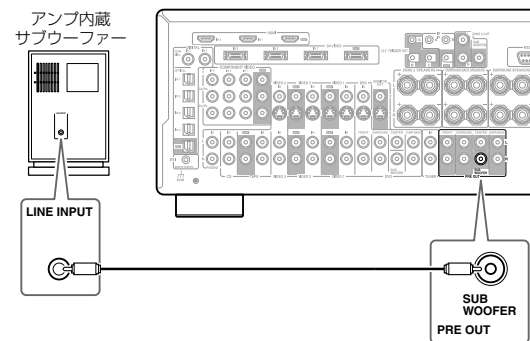
スピーカーの配置については「ホームシアターとは」（☞17ページ）および「サラウンドバックスピーカーの配置について」（☞18ページ）をご覧ください。
本機にはインピーダンスが4Ω～16Ωのスピーカーを接続してください。ただし、インピーダンスが4Ω以上6Ω未満のスピーカーを接続するときは、42ページで「スピーカーインピーダンス」を4Ωに設定してください。

サラウンドバックスピーカーを１つだけ使用する場合は、SURROUND BACK SPEAKERS（L）端子に接続してください。

5.1chの場合は、FRONT SPEAKERS(L/R)、CENTER SPEAKER、SURROUND SPEAKERS(L/R）端子に接続してください。

ご注意

- プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、１台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。

サブウーファーを接続する

パワーアンプ内蔵のサブウーファーを
PRE OUT SUBWOOFER端子に接続します。

！ヒント

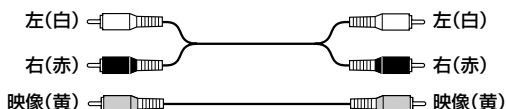
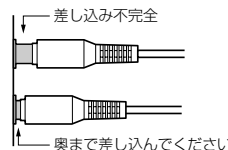
- 再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または1/3の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。
- サブウーファーの設定については、37ページの「ヒント」の項をご覧ください。

接続をする

接続の前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。

ビデオ用、オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクターを右チャンネル（Rの表示）、白いコネクターを左チャンネル（Lの表示）、黄色のコネクターをビデオチャンネル（Vの表示）に接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- ビデオコード、オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。

光デジタル入力端子/出力端子について

本機の光デジタル端子はすべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

ご注意

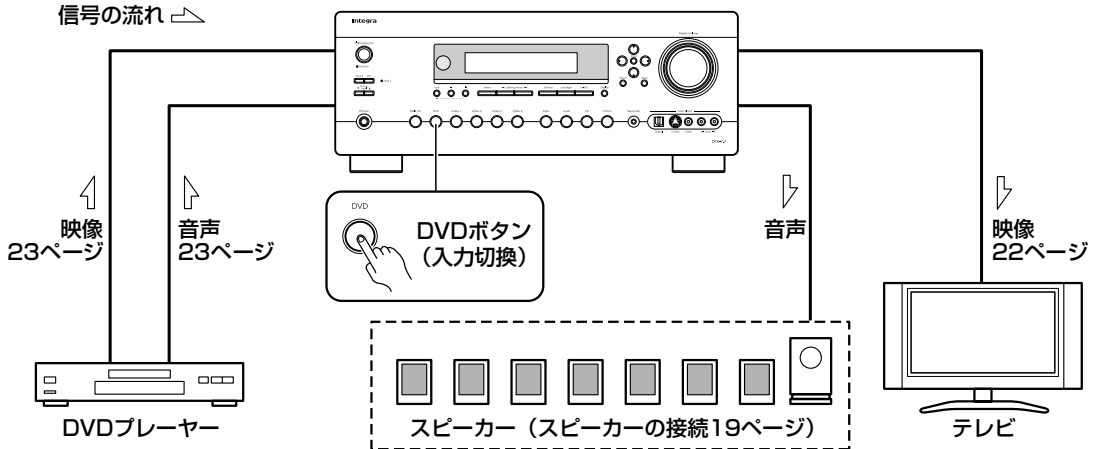
光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。
ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

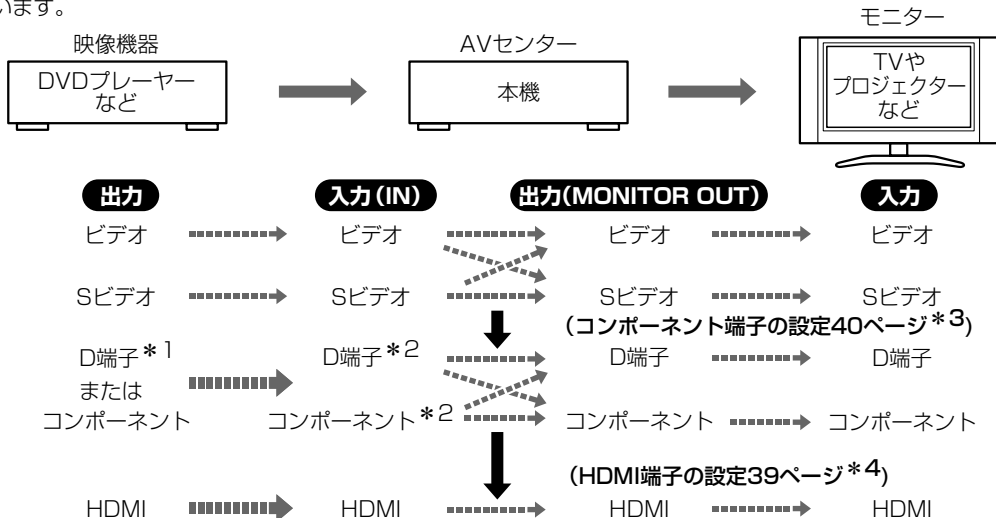
映像/音声ケーブルと端子の種類について

	ケーブルと端子の種類			
	ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
映像	コンポーネントビデオコード		Y / CB/PB / CR/PR	画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
映像	D端子用接続コード		D4	画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることができます。
映像	Sビデオコード		S VIDEO	コンポジットの映像より良い画質が得られます。本機では映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
映像	ビデオコード（コンポジット）		VIDEO	標準的な映像信号で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。
音声	光デジタルケーブル（OPTICAL（オプティカル））		OPTICAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はCOAXIALと同レベルです。
音声	同軸デジタルケーブル（COAXIAL（コアキシャル））		COAXIAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はOPTICALと同レベルです。
音声	オーディオ用ピンコード		L / R	アナログ音声を伝送します。
音声	オーディオ用ピンコード	×4	FRONT SURROUND CENTER SURR BACK SUB WOOFER	DVDオーディオ対応のDVDプレーヤーなどとの接続に使用します。 アナログマルチチャンネル音声を伝送します。
映像と音声	HDMIケーブル			映像と音声をデジタル伝送します。 本機はHDMI Version 1.1に対応しています。

AVセンターを使う

DVDプレーヤーなど、映像機器は映像接続と音声接続を行ってください。本機の入力を切り換えるだけでその機器の映像と音声を選ぶことができます。

例：DVDプレーヤーと組み合わせる場合

映像接続のしくみ

本機にはビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネント、HDMIの5種類の映像入出力端子があります。接続する機器に合わせて使います。

*1 映像機器の映像出力からモニターの映像入力までD端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

*2 D4 VIDEO（ビデオ） IN（イン）端子とCOMPONENT（コンポーネント） VIDEO IN端子は内部で並列になるように設計されていますので、1つの系統に両方を接続しないでください。たとえば、D4 VIDEO 1 IN端子に映像機器を接続した場合は、COMPONENT VIDEO 1 IN端子には何も接続しないでください。

*3 映像機器とビデオ端子またはSビデオ端子を使って接続するときは、コンポーネント端子の設定（☞40ページ）をすると、D端子接続やコンポーネント端子接続したモニターからも映像を出力することができます。

*4 映像機器とビデオ端子、Sビデオ端子、コンポーネント端子またはD端子接続するときは、HDMI端子の設定（☞39ページ）をすると、HDMI端子接続したモニターからも映像を出力することができます。

THXは、より良い映像をお楽しみいただくために、アップコンバートせず同じ入出力の信号をご使用いただくことを推奨します。（例えば、ビデオ入力はビデオ出力から、Sビデオ入力はSビデオ出力からの信号をお楽しみください。）

またTHXは、66ページの「Immediate Display（イミディエイト ディスプレイ）」の設定を「Off（オフ）」にすることをお勧めします。

接続をする

テレビやプロジェクターと接続する

ステップ1：映像接続をする

A、B、C、D の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと映像接続をしてください。

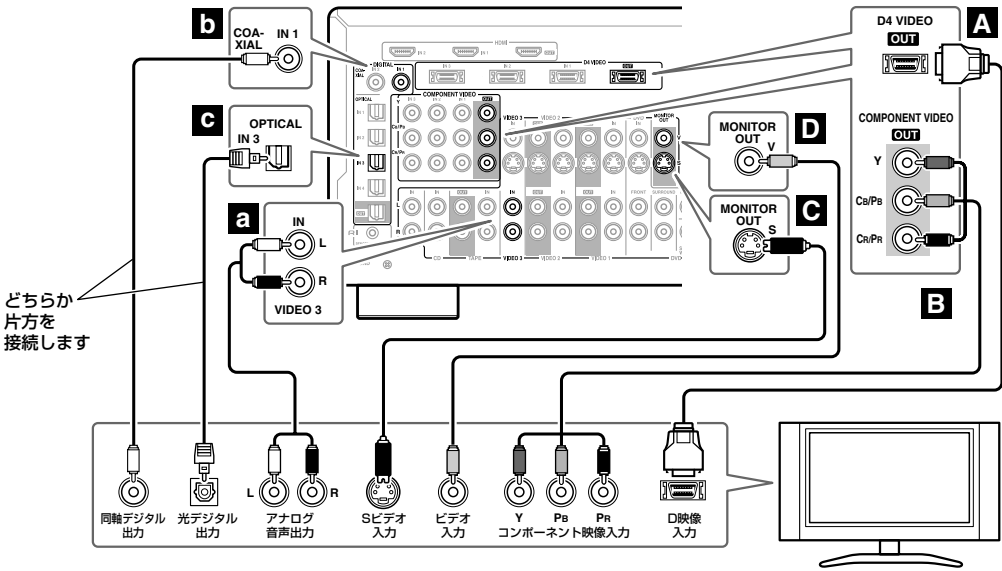
！ヒント 21ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- テレビの音声をアナログ録音したいときや、ゾーン2（別室）で聞きたいときに必要です。
- RIオーディオコントロール端子付テレビと連動させるときに必要です。（☞34ページ）

BSデジタルや地上デジタルのサラウンド放送を楽しみたいときは b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	テレビ/プロジェクター	画質
A	D4 VIDEO OUT端子	➡	D映像入力端子	最良
B	COMPONENT VIDEO OUT端子	➡	コンポーネント映像入力端子	最良
C	MONITOR OUT S端子	➡	Sビデオ入力端子	良い
D	MONITOR OUT V端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子	標準
a	VIDEO 3 IN L/R端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL IN COAXIAL 1端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL IN OPTICAL 3端子	⬅	光デジタル出力端子	

！ヒント

テレビに音声出力端子がないときは、ビデオデッキの音声出力端子と本機のVIDEO 1 IN L/R端子を接続してください。ビデオデッキに内蔵されているチューナーからテレビの音声をお楽しみいただけます。

DVDプレーヤーと接続する

ステップ1：映像接続をする

A、B、C の接続から１つ選んでDVDプレーヤーと映像接続をしてください。

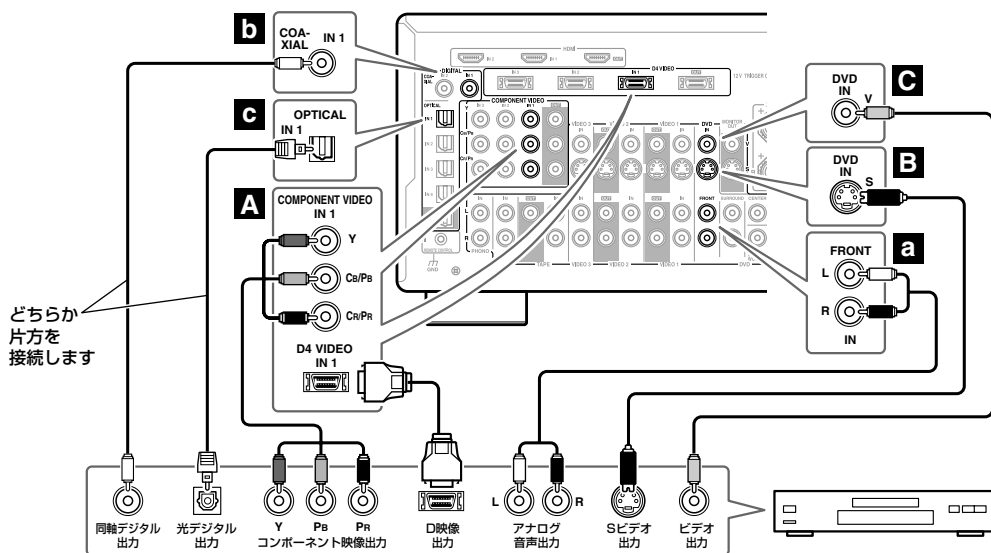
！ヒント 21ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでDVDプレーヤーと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- DVDの音声をアナログ録音したいときや、ゾーン2（別室）で聞きたいときに必要です。
- RI端子付インテグラ/オンキヨー製DVDプレーヤーと連動させるときに必要です。(☞33ページ)

ドルビーデジタルやDTSなどのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	DVDプレーヤー	画質
A	D4 VIDEO IN 1端子 または COMPONENT VIDEO IN 1端子	⬅	D映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	DVD IN S端子	⬅	Sビデオ出力端子	良い
C	DVD IN V端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	DVD IN FRONT L/R端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL IN COAXIAL 1端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL IN OPTICAL 1端子	⬅	光デジタル出力端子	

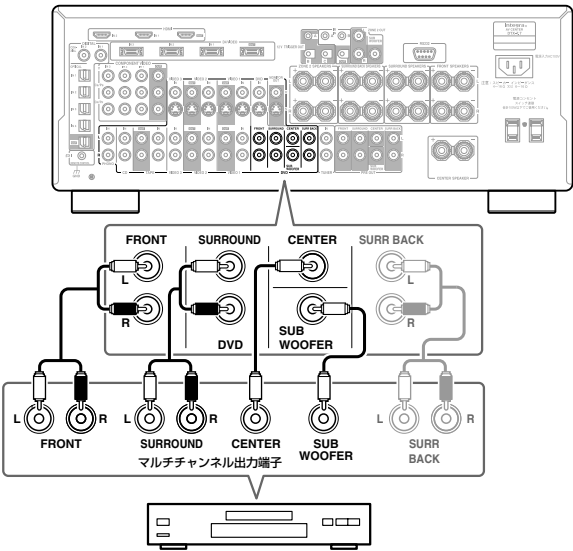
！ヒント

DVDプレーヤーにマルチチャンネルと2チャンネルの両方の出力端子がある場合で、本機のDVD IN FRONT L/R端子だけを接続するときは、DVDプレーヤーの2チャンネル出力端子と接続してください。マルチチャンネル接続は次ページをご覧ください。

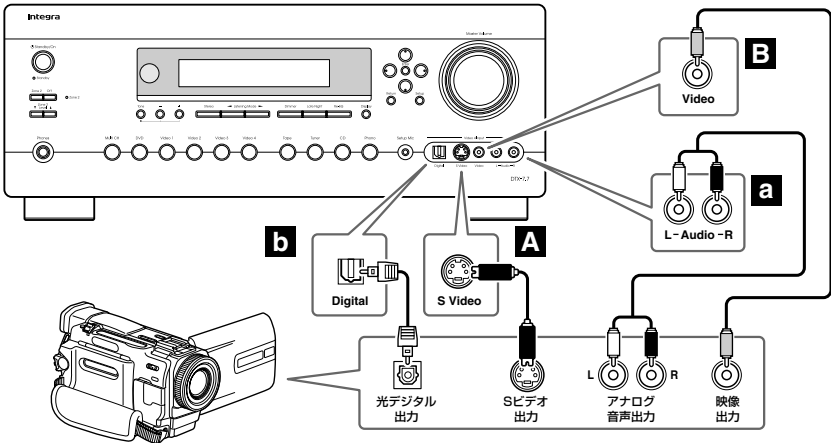
接続をする（映像機器を接続する）

■マルチチャンネル（5.1/7.1ch）出力端子があるDVDプレーヤーと接続する

DVDオーディオなどのマルチチャンネル音声に対応している機器の場合、DVDオーディオなどの再生がお楽しみいただけます。
5.1チャンネル接続するときは、マルチチャンネル接続コードまたは、オーディオ用ピンコード3本を使ってDVDプレーヤーのマルチチャンネル出力端子と本機のDVD IN FRONT L/R、SURROUND L/R、CENTER、SUBWOOFER端子を接続します。

7.1チャンネル接続するときは、5.1チャンネル接続に加え、オーディオ用ピンコードを使ってSURR BACK L/R端子を接続してください。57ページの「マルチチャンネル再生時の設定」で「Input Channel」を「7.1ch」に設定してください。

ビデオカメラやゲーム機と接続する

ステップ1：A または B の映像接続をしてください。

ステップ2：a または b の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオカメラ/ゲーム機	画質
A	Video 4 Input S Video端子	⬅	Sビデオ出力端子	良い
B	Video 4 Input Video端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	Video 4 Input Audio L/R端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	Video 4 Input Digital端子	⬅	光デジタル出力端子	

BSチューナー、LDプレーヤーなどと接続する

ステップ1：映像接続をする

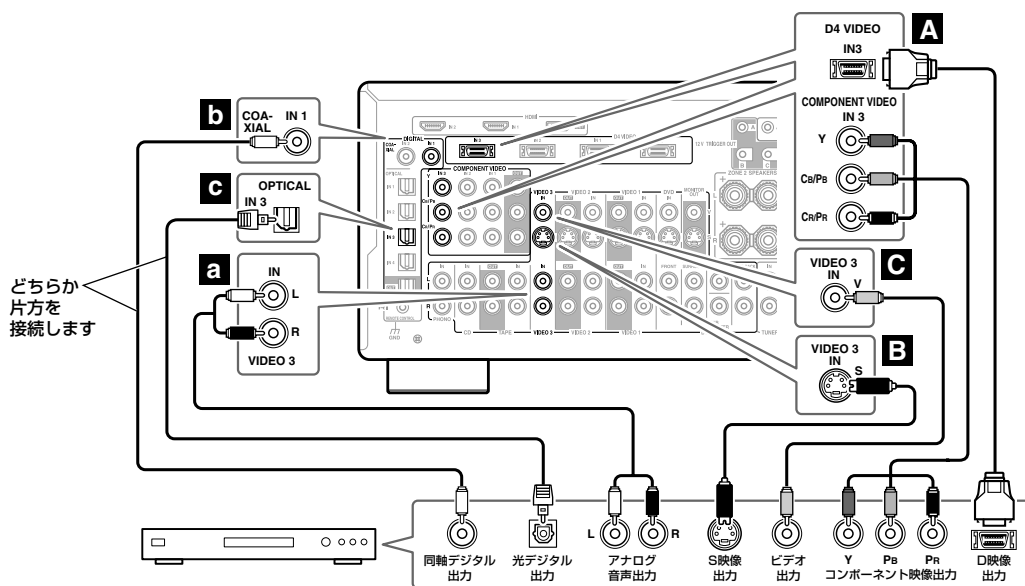
A、B、C の接続から１つ選んでBSチューナーやLDプレーヤーと映像接続をしてください。

！ヒント 21ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでBSチューナーやLDプレーヤーと音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。ゾーン2（別室）で聞くときは a の接続が必要です。

ドルビーデジタルやDTSなどのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	BSチューナー/LDプレーヤー	画質
A	D4 VIDEO IN 3端子 または COMPONENT VIDEO IN 3端子	⬅	D映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	VIDEO 3 IN S端子	⬅	Sビデオ出力端子	良い
C	VIDEO 3 IN V端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	VIDEO 3 IN L/R端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL IN COAXIAL 1端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL IN OPTICAL 3端子	⬅	光デジタル出力端子	

ご注意 本機にLDプレーヤーのAC-3RF出力端子は直接接続できません。LDプレーヤーでドルビーデジタル5.1chソフトをお楽しみいただくには、市販のデモジュレーターが必要です。

接続をする（映像機器を接続する）

ビデオデッキやDVDレコーダーと接続する（再生編）

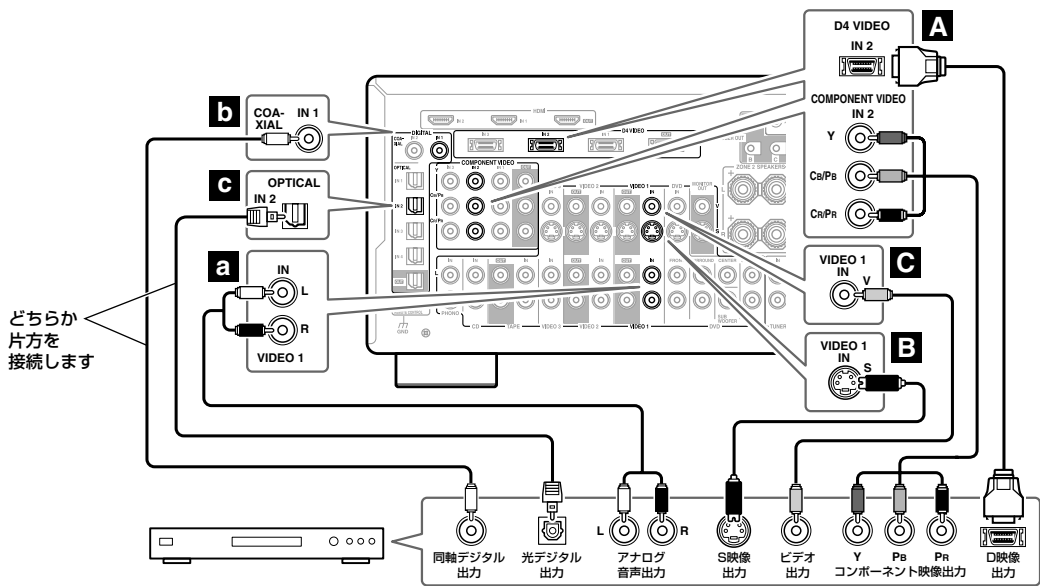
ステップ1：映像接続をする

A、B、C の接続から1つ選んでビデオデッキやDVDレコーダーと映像接続をしてください。

！ヒント　21ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ2：音声接続をする

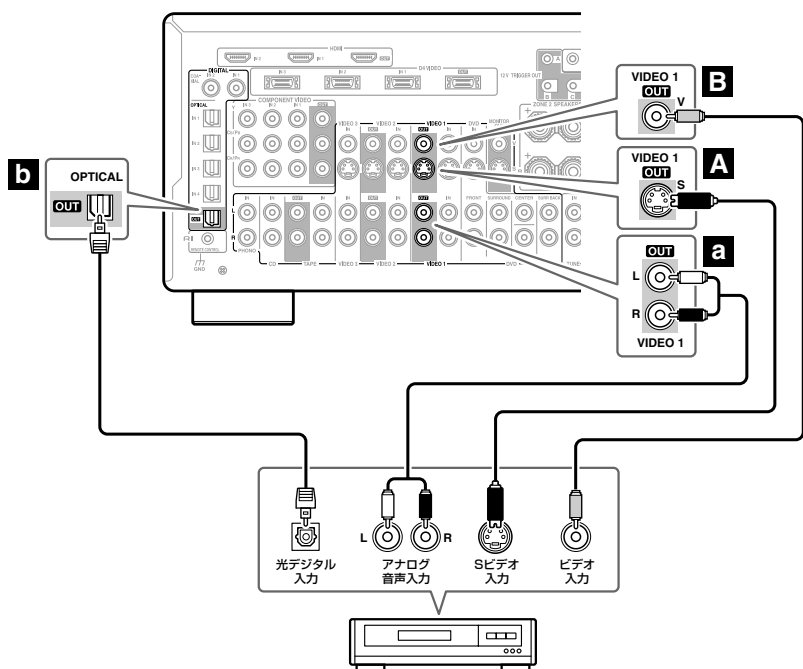
a、b、c の接続から必要な接続を選んでビデオデッキやDVDレコーダーと音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。ゾーン2（別室）で聞くときは a の接続が必要です。
ドルビーデジタルやDTSなどのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ/DVDレコーダー	画質
A	D4 VIDEO IN 2端子 または COMPONENT VIDEO IN 2端子	⬅	D映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	VIDEO 1 IN S端子	⬅	Sビデオ出力端子	良い
C	VIDEO 1 IN V端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	VIDEO 1 IN L/R端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL IN COAXIAL 1端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL IN OPTICAL 2端子	⬅	光デジタル出力端子	

ビデオデッキやDVDレコーダーと接続する（録画編：本機を通して録画する）

ステップ1： ビデオデッキやDVDレコーダーと A または B の映像接続をしてください。

！ヒント 21ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ2： アナログ録音する場合は a 、デジタル録音する場合は b の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ/DVDレコーダー	画質
A	VIDEO 1 OUT S端子	➡	Sビデオ入力端子	良い
B	VIDEO 1 OUT V端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子	標準
a	VIDEO 1 OUT L/R端子	➡	アナログ音声入力端子	
b	DIGITAL OUT OPTICAL端子	➡	光デジタル入力端子	

ご注意　録画をするときは、本機の電源を入れる必要があります。本機がスタンバイ状態では録画できません。

！ヒント

ビデオデッキとDVDレコーダーなど録画機器を2台お持ちの場合は、同様にVIDEO 2 IN/OUT端子に接続してください。

HDMI端子を使って接続する

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）とは

放送のデジタル化などの変化に対応して、家庭内でテレビ/プロジェクター間をデジタル接続することを目的として策定されたインターフェース規格です。
従来のDVI（Digital Visual Interface）*1規格をさらに発展させて、オーディオ信号およびコントロール信号を伝送する機能を追加しています。従来は機器間の接続に、ビデオ、オーディオ、コントロールの各信号用に複数のケーブルを使用していましたが、HDMIケーブルを1本接続するだけで、HDMI端子対応の機器間で映像や音声をデジタルで伝送することができます。（本機はコントロール信号の伝送には対応していません。）

HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVIと原理的に互換性があります。DVI端子を装備したテレビ/モニターなどに接続するにはHDMI→DVI変換ケーブルを用いて可能ですが、機器の組み合わせによっては映像が出ない場合があります。本機はHDCPを使用しており、対応の受像機でのみ映像が出ます。

本機のHDMIインターフェースは、以下の規格に基づいています。
High-Definition Multimedia Interface Specification Informational Version 1.1

対応音声フォーマット
- 2チャンネルリニアPCM（32～192kHz、16/20/24bit）
- マルチチャンネルリニアPCM（5.1ch、32～96kHz、16/20/24bit）
- ビットストリーム（ドルビーデジタル、DTS、AAC）

ただし、プレーヤー側も上記のフォーマットに対応している必要があります。

著作権保護について

本機はHDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）*2に対応しています。HDCPとは、デジタル映像信号に対する著作権保護技術です。
本機と接続する機器もHDCPに対応していることが必要です。

本機のHDMI OUT端子とテレビ/プロジェクターなどのHDMI入力端子を接続します。接続には、市販のHDMIケーブルをご使用ください。

*1 DVI（Digital Visual Interface）：DDWG*3が、99年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。

*2 HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）：Intelが開発したHDMI/DVI用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP準拠のHDMI/DVIレシーバーが必要になる。

*3 DDWG（Digital Display Working Group）：Intel、Silicon Image、Compaq Computer、富士通、Hewlett-Packardなどが中心となって運営する、ディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

接続のしかた

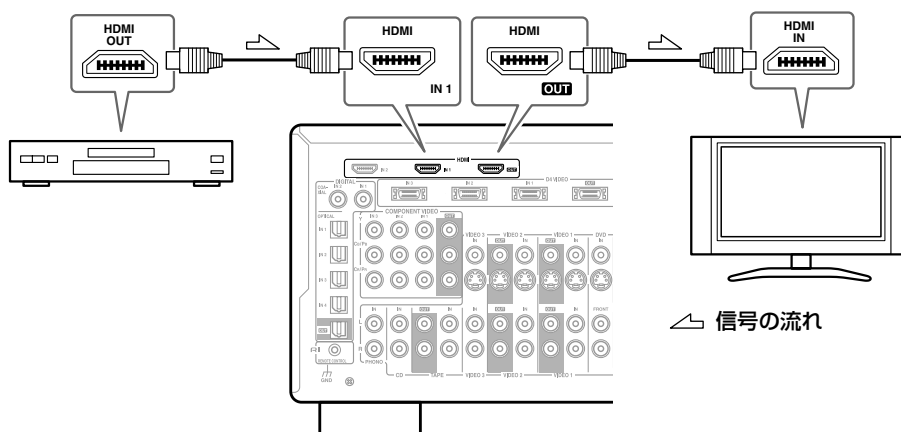
本機では、22〜27ページの接続方法のかわりに、HDMIケーブルで映像信号と音声信号を伝送することができます。

ステップ1： 市販のHDMIケーブルを使って本機のHDMI端子とDVDプレーヤー、テレビまたはプロジェクターなどのHDMI端子と接続してください。

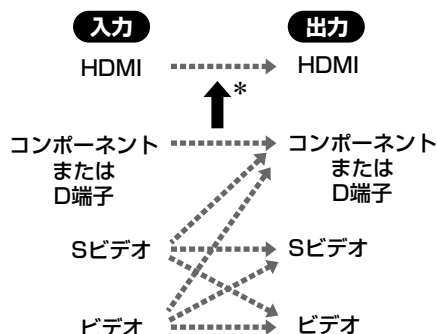
ステップ2： 接続したHDMI IN端子を39ページの「HDMI端子の設定」で割り当ててください。

HDMI IN 1/2端子から入力したデジタル映像は、HDMI OUT端子からテレビへ、デジタル音声は本機に接続されたスピーカーやヘッドホンへ出力されます。

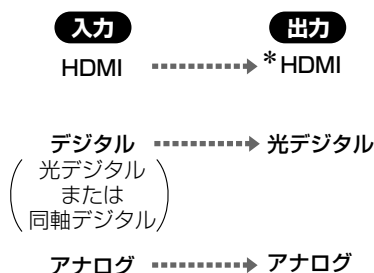
ご注意

HDMI IN端子から入力した音声信号を、HDMI OUT端子から出力したテレビなどのスピーカーで聞きたい場合は、66ページで「HDMI Audio Out」設定を「On」にしてください。

信号の流れ

●映像入力/出力

HDMI IN 1/2端子から入力したデジタル映像信号は、HDMI OUT端子からのみ出力されます。

＊映像機器とビデオ（コンポジット）、Sビデオ、コンポーネントまたはD端子接続するときは、HDMI端子の設定（☞39ページ）とコンポーネント端子の設定（☞40ページ）をすると、HDMI端子接続したモニターからも映像を出力することができます。

●音声入力/出力

HDMI IN 1/2端子から入力したデジタル音声信号は、HDMI OUT端子からのみ出力されます。ただし、DVDオーディオなど音声信号の種類によっては出力されないこともあります。

＊HDMI OUT端子と接続したテレビのスピーカーを使って、HDMI入力した音声を聞きたいときは、66ページで「HDMI Audio Out」設定を「On」にしてください。
ただし、テレビが対応していないフォーマットやサンプリング周波数の信号は出力されません。音が出ない場合

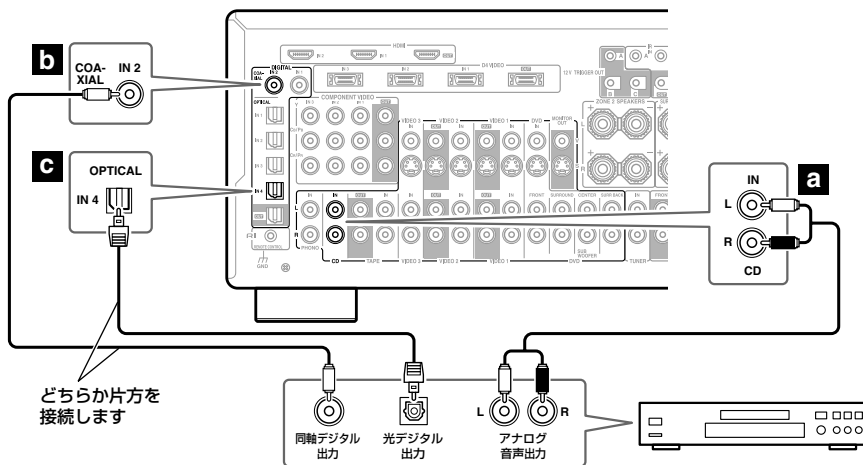
CDプレーヤーと接続する

ステップ1：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

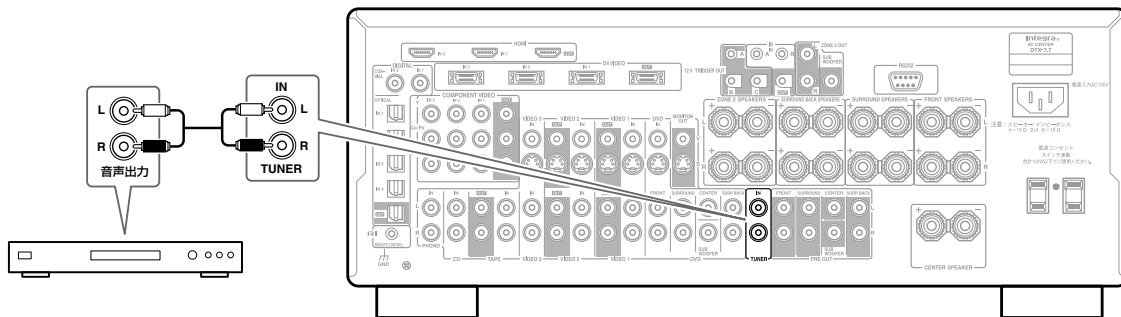
基本的な接続 a

- CDの音声をアナログ録音したいときや、ゾーン2（別室）で聞きたいときに必要です。
- RI端子付オンキヨー製CDプレーヤーと連動させるときに必要です。（☞33ページ）

PCMやDTS信号のリスニングモードを楽しみたいときは、b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	CDプレーヤー
a	CD IN L/R端子	⬅	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL IN COAXIAL　2端子	⬅	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL IN OPTICAL 4端子	⬅	光デジタル出力端子

チューナーを接続する

ステップ1：音声接続をする

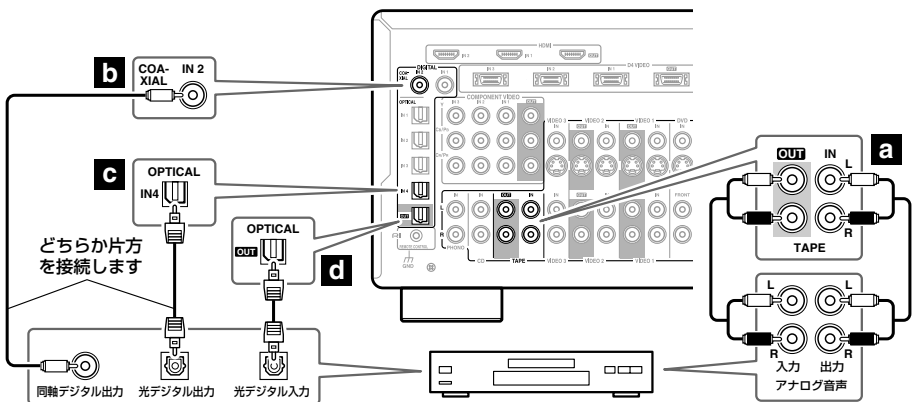
オーディオ用ピンコードでチューナーの音声出力端子と本機のTUNER IN L/R端子を接続してください。

カセットデッキ、MDレコーダー、CDレコーダーを接続する

ステップ1：音声接続をする

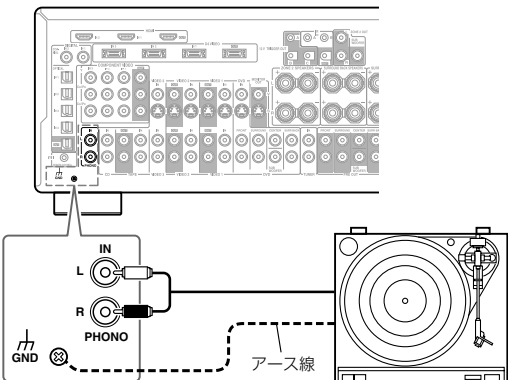
a、b、c、d の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- アナログ録音することができます。
- ゾーン2（別室）で聞くことができます。
- RI端子付オンキヨー製品と連動させるときに必要です。（☞33ページ）

PCMやDTS信号のリスニングモードを楽しみたいときは、b または c の接続をしてください。
デジタル録音するときは、d の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	録音機器
a	TAPE IN L/R端子 TAPE OUT L/R端子	⬅ ➡	アナログ音声出力端子 アナログ音声入力端子
b	DIGITAL IN COAXIAL 2端子	⬅	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL IN OPTICAL 4端子	⬅	光デジタル出力端子
d	DIGITAL OUT OPTICAL端子	➡	光デジタル入力端子

レコードプレーヤーを接続する

本機は、ムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。レコードプレーヤーの接続コードを本機のPHONO IN L/R端子に接続します。

ご注意

- アース（接地）線のあるレコードプレーヤーは、アース線を本機のGND端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなることがあります。その場合は、アース線を接続する必要はありません。
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをご使用になる場合は、レコードプレーヤーに昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続します。次に、昇圧トランスやヘッドアンプの音声出力端子と本機のPHONO IN L/R端子を接続します。

接続をする（オーディオ機器を接続する）

リモートインタラクティブドック（RIドック）と接続する

ステップ1：映像接続をする

映像に対応する機器をRIドックにセットする場合は、RIドックの映像出力端子と本機のVIDEO 3 IN端子を接続します。

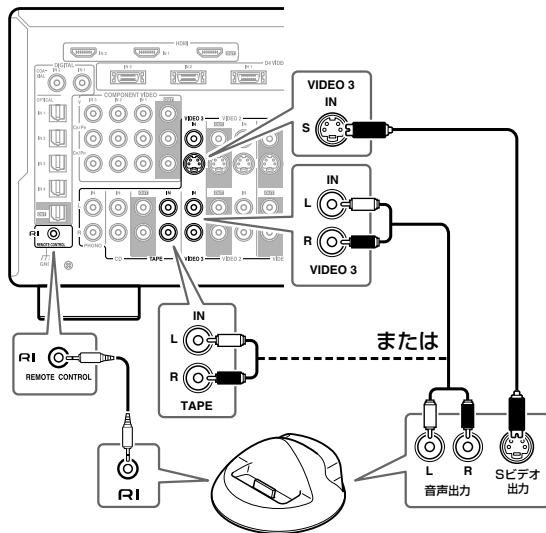
ステップ2：音声接続をする

オーディオ用ピンコードで、RIドックの音声出力端子と本機のVIDEO 3 IN L/R端子を接続します。
音声接続のみの場合は、TAPE IN L/R端子と接続してください。

ステップ3：RI接続をする

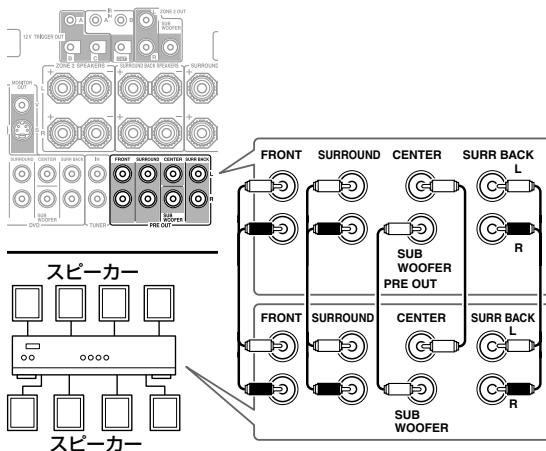
RIケーブルで、RIドックのRI端子と本機のRI端子を接続します。

- RIドックのMODEスイッチは、「HDD」にしてください。
- 本機の入力表示を「HDD」に切り換えてください。（☞43ページ）

（接続例はDS-A1の場合です。）

ご注意

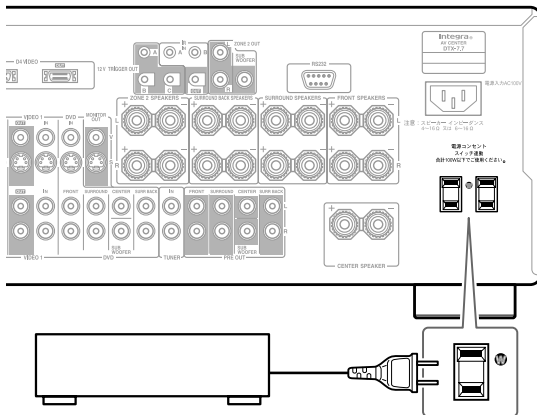
- 本機にはRIケーブルは付属していません。RIドックに付属のケーブルをお使いください。
- RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。
- 本機のリモコンでRIドックを操作するには、リモコンコードを登録する必要があります。（☞76ページ）

パワーアンプを接続する

パワーアンプを本機に接続し、本機をプリアンプとして使用することができます。本機だけでは出力できない大音量で再生できるようになります。
パワーアンプを使用する場合、各スピーカーやサブウーファーはパワーアンプに接続してください。パワーアンプの音声入力端子と本機のPRE OUT端子を接続します。

オーディオ機器の電源プラグを本機につなぐ

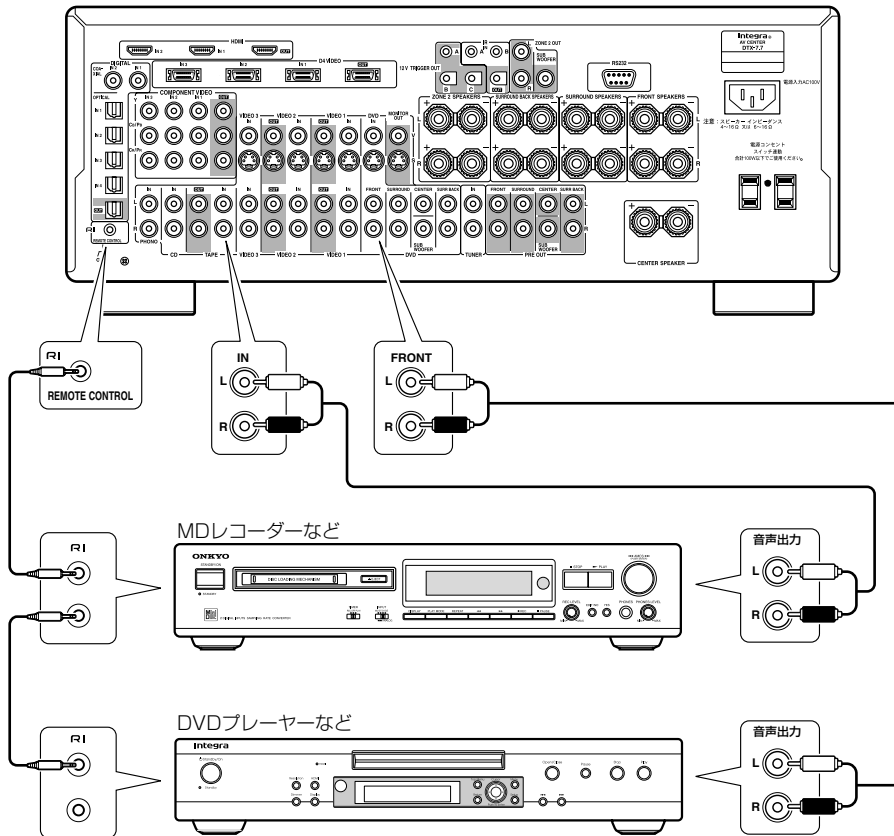
本機は後面に電源コンセントがありますので、組み合わせて使用する製品の電源プラグを差し込むことができます。本機の電源を入れると他機の電源も連動して入ります。
RI端子付きのインテグラ/オンキヨー製品は、常時通電しているコンセントにつないでください。

ご注意

本機には2つの電源コンセントがありますが、合計で100Wを超える機器は接続しないでください。

よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。他機の電源コードに目印がある場合は目印線側を本機の電源コンセントのⓦ側に合わせてください。他機の電源コードに目印がない場合はどちらを接続してもかまいません。

インテグラ/オンキヨー製品と連動させる接続

RI端子付きのインテグラ/オンキヨー製品にRIケーブルとオーディオ用ピンコードを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RIケーブルとは、インテグラ/オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。（本機には付属していません）
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。23～32ページを参照し、オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

オートパワーオン機能

本機がスタンバイ状態のとき、接続した機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を切ると接続されている機器全体の電源も切れます。

ご注意

RI接続した機器の電源コードが本機の電源コンセント(AC OUTLET)に接続されている場合はこの機能は働きません。

ダイレクトチェンジ機能

RI接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。
DVDプレーヤーのマルチチャンネル再生をする場合は、Multi CH（マルチ チャンネル）ボタンを押す必要があります。(☞46ページ)

リモコン操作機能

本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます。(☞13～15ページ)

ご注意

- 43ページの「入力表示を切り換える」もご覧ください。
- 製品によってはRI接続をしても一部の機能が働かないことがあります。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RIケーブルの接続は順序の指定はありません。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにも接続できます。
- 新旧製品の連動動作の対応/非対応については、コールセンターにお問い合わせください。

RIオーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

本機はRI端子を持つテレビと接続すると次の動作が可能になります。

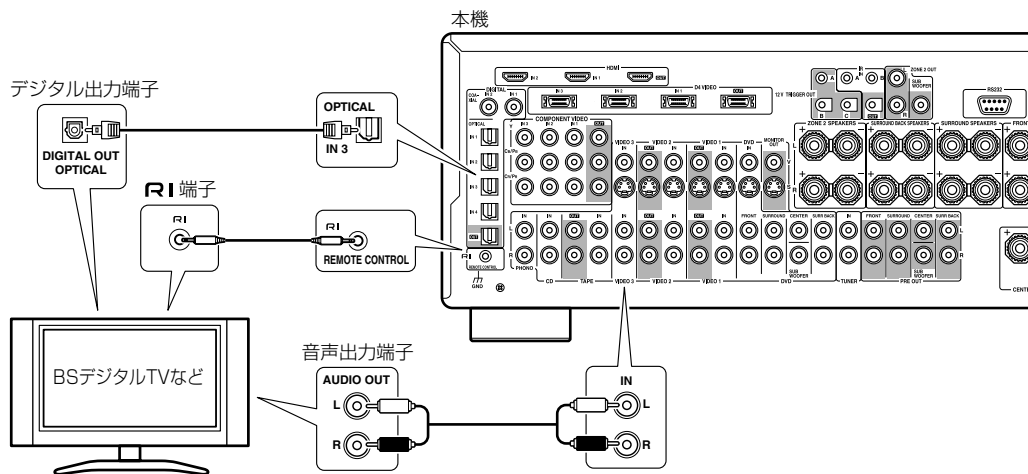
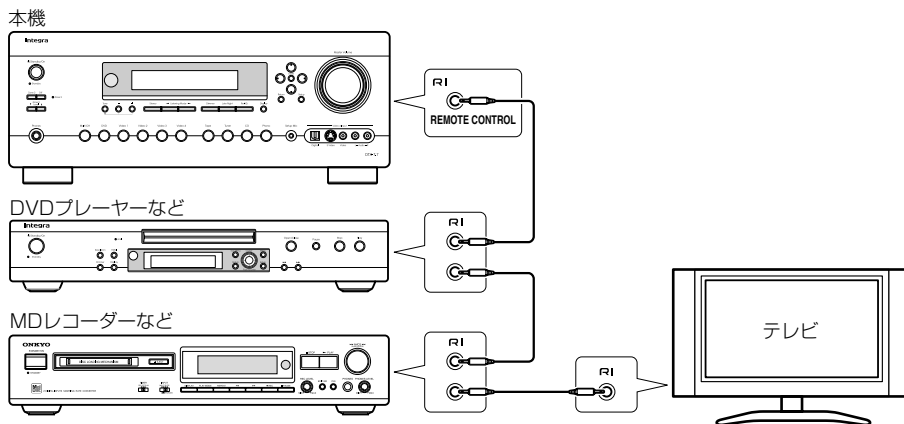
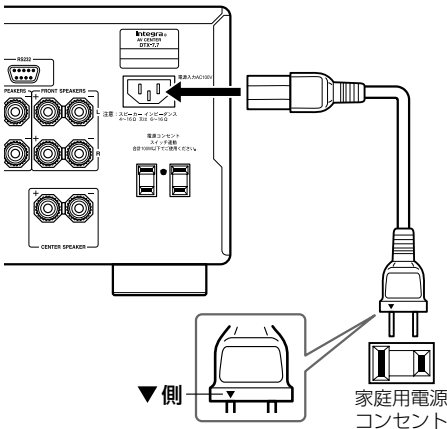
① テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
このときテレビの音は消え、本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビを切る（スタンバイにする）と、本機もスタンバイ状態になります。ただし、本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態になりません。

② テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング（消音）ができます。

③ 本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）をコントロールできるようになります。

> 連動動作が可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RI端子が装備されているかどうかをご確認ください。
> 本機にケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード（抵抗なし）を別途お求めください。

接続のしかた

- 本機のVIDEO 3音声入力（VIDEO 3 IN L/R）端子を接続する
- モノラルミニプラグコードでテレビのRIオーディオコントロール端子と本機のRI端子を接続する
- テレビの光デジタル音声出力端子と本機のDIGITAL IN 3（OPTICAL）端子と接続する
（テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は接続する必要はありません）

- 他のインテグラ/オンキヨー製品を接続する場合は、RIケーブルでRI端子どうしを接続してください。
- RI端子が2つある製品の場合、2つの働きは同じですのでどちらにでも接続できます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

電源コードを接続する

電源コードを接続する前に

すべての接続が完了していることを確認してください。

付属の電源コード以外は使用しないでください。この電源コードは本機専用です。

家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態でAC INLETから電源コードを抜くと、感電する可能性があります。電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。

本機の電源を入れると，瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

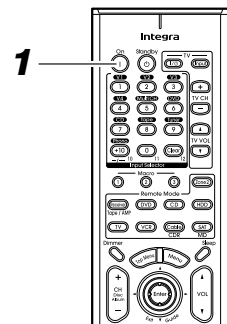
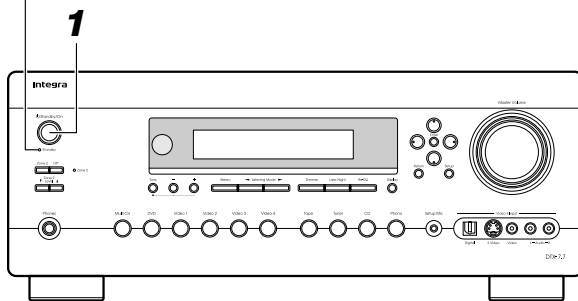
よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。

電源を入れる

1

本体

または

リモコン

本体の Standby/On ボタン、またはリモコンの On ボタンを押す

Standbyインジケーターが消え、表示部が点灯します。

！ヒント

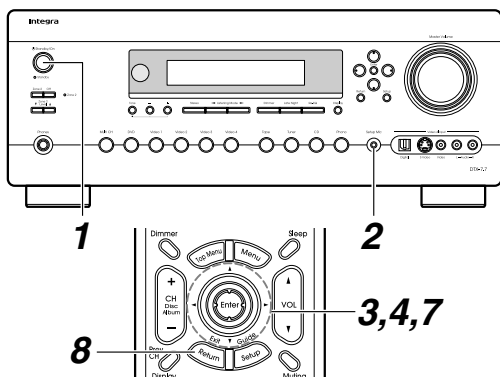
スタンバイ状態のとき、本体の入力切換ボタン、Multi CHボタンやリモコンのInput Selectorボタンを押しても電源を入れることができます。また、リモコンのOnボタンをもう一度押すと、RI接続したすべての機器の電源が入ります。

スタンバイ状態に戻すには

本体のStandby/Onボタンまたはリモコンのスタンバイボタンを押します。

初期設定をする

簡単スピーカー設定をする

接続したスピーカーの数や視聴位置までの距離などを自動で測定し、設定します。設定の前に、使用するすべてのスピーカーの接続と設置を行ってください。

1

Standby/On

本機の電源を入れ、接続したテレビの電源を入れる

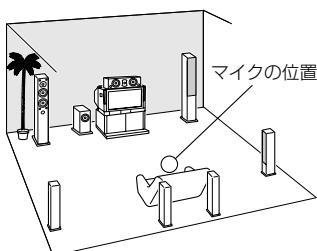
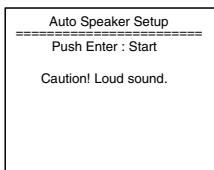
テレビの入力を本機を接続した入力に切り換えてください。

2

Setup Mic

付属の簡単スピーカー設定用マイクを視聴位置に設置してから、マイクのプラグを本機のSetup Mic端子に接続する

テレビに下記の画面が表示されます。

```
Auto Speaker Setup
========================
Push Enter : Start

Caution! Loud sound.
```

（Enterボタンを押すとスタートします。大きな音が出るのでご注意ください。）

ご注意

- ヘッドホンを接続しているときは、測定できません。
- マイクは水平に置いてください。
- それぞれのスピーカーからマイクの間に障害物があると、正しく設定できません。通常の視聴時と同じ環境にしてください。
- ミュート機能が設定されていると、解除されます。

！ヒント

視聴するときの耳に近い位置にマイクを設置すると、正確に設定できます。三脚や水平な台を使用すると高さを調節できます。

3

Enterボタンを押す

```
Auto Speaker Setup
========================
Do not unplug Setup Mic.

Please, keep quiet.

Wait a moment, Please
```

（マイクを抜かないでください。静かにしてしばらくお待ちください。）

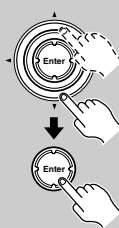
表示が出た後、自動設定を開始します。設定には約2分かかります。

```
Auto Speaker Setup
========================
Do not unplug Setup Mic.

Please, keep quiet.

Now measuring

Left
```

（マイクを抜かないでください。静かにしてください。現在測定しているのは＊＊です。）

＊＊には、「Left」など測定中のスピーカーが表示されます。

接続したスピーカーからテスト音を出しながら、マイクで測定します。測定中に外部からの雑音が入ると正しく測定できないことがありますので、気をつけてください。

4

測定が完了すると測定完了画面が表示されます。

```
Auto Speaker Setup
========================
→ Apply the Results
  Check the Results
  Retry
  Retry with
   Test noise Level up
  Cancel
```

▲/▼ボタンで項目を選び、Enterボタンを押す

Apply the Results：
測定結果を反映して終了するときに選びます。通常はこれを選び、手順***5***に進みます。

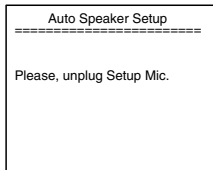
Check the Results：
測定結果を確認するときに選びます。
「測定結果を確認するには」に進みます。

Retry：
再測定するときに選びます。
手順***2*** に戻ります。

Retry with Test noise Level up：
テスト音の音量を上げて再測定するときに選びます。
手順***2*** に戻ります。

Cancel：
測定結果を反映しないで終了するときに選びます。
手順***5*** に進みます。

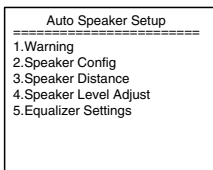
5 マイクのプラグを抜く

測定途中で止めたい場合も、マイクのプラグを抜いてください。

（マイクを抜いてください。）

測定結果を確認するには

6

手順***4*** で「Check the Results」を選ぶと確認画面が表示されます。

Auto Speaker Setup
========================
1.Warning
2.Speaker Config
3.Speaker Distance
4.Speaker Level Adjust
5.Equalizer Settings

1. 注意
2. スピーカーの有/無とクロスオーバー周波数
3. 視聴位置からスピーカーまでの距離
4. 視聴位置から換算した各スピーカーの最適な音量
5. 各スピーカーの音域レベル

7 ▲/▼ボタンで確認したい項目を選び、Enterボタンを押す

測定された内容が表示されます。

- Returnボタンを押すと、1つ前の画面に戻ります。

＊「1. Warning（注意）」では、以下に該当するスピーカーの略称が表示されます。

Not Detect ：
スピーカーが検出されませんでした。接続を確認してください。

Distance Error：
設置位置が近すぎる/遠すぎる。または、距離が測定できなかった。

8 内容を確認したらReturnボタンを押して、前項の手順 *4* の画面に戻る

ご注意

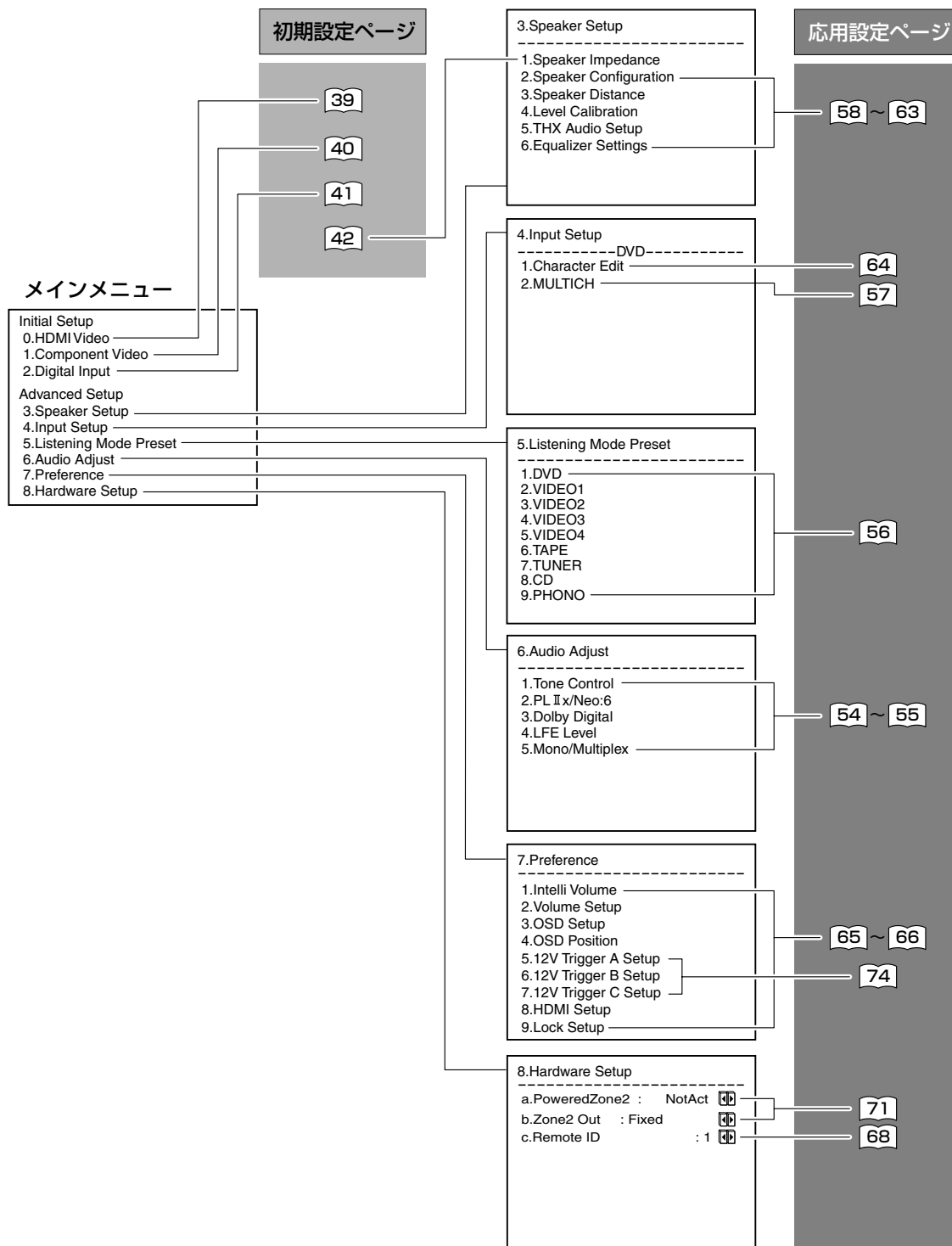
使用環境によっては、正しく測定されないことがあります。再測定しても結果に変更がない場合は、手動でスピーカー設定を行ってください。（☞58〜63ページ）

！ヒント

アンプ内蔵サブウーファーを接続している場合
サブウーファーの音声は、超低域で低い位置から出力されるために、簡単スピーカー設定で認識されない場合があります。
測定結果を確認する画面で、サブウーファー（SW）が「Not Detect」に設定されるときは、サブウーファーの音量を八分目に、周波数を最大にした状態でご使用ください。また、カットオフフィルター切換スイッチがある場合は、「DIRECT」の状態にしてご使用ください。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

初期設定をする

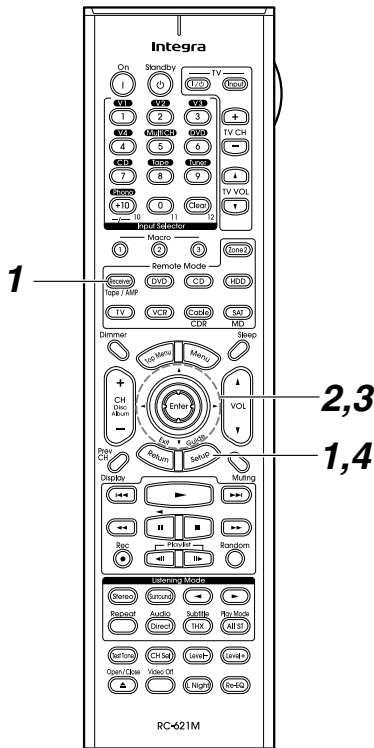
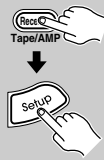
OSDマップ

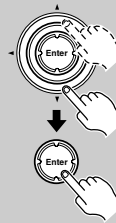
OSDとはOn Screen Display（オン スクリーン ディスプレイ）の略で、本機での設定や操作内容を接続したテレビなどのモニターに大きく表示して操作をしやすくする機能です。
簡単スピーカーの設定が完了したら、初期設定を行ってください。応用設定は、お好みで設定してください。

入力の設定をする

HDMI端子の設定

HDMI IN 1/2端子に、HDMI出力端子のあるDVDプレーヤーなどを接続しているときや、ビデオ（コンポジット）、Sビデオ、コンポーネント、D端子からの映像入力をHDMI出力したいときに設定します。

たとえば、DVDプレーヤーを本機のHDMI IN 1端子に接続したときは、DVDに「IN 1」を割り当ててください。
また、DVDプレーヤーを本機のDVD IN S端子に接続しているときは、「−−−」を割り当てて、「コンポーネントビデオ端子の設定」でも「−−−」を割り当てるとS映像をHDMIに変換して出力することができます。
DVD、VIDEO1から4までの各入力に設定できます。

- HDMI IN 1またはIN 2を設定した入力のデジタル音声入力端子設定には、自動的に「HDMI 1」または「HDMI 2」入力が割り当てられます。（☞41ページ）

1

AMP（アンプ）ボタンを押してからSetup（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「0. HDMI Video（ビデオ）」を選び、Enter（エンター）ボタンを押す

0.HDMI Video	
a.DVD	: ---
b.VIDEO 1	: ---
c.VIDEO 2	: ---
d.VIDEO 3	: ---
e.VIDEO 4	: ---

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「設定する入力」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

IN（イン）1：
映像機器をHDMI IN（イン）1端子に接続した場合に選びます。

IN（イン）2：
映像機器をHDMI IN2端子に接続した場合に選びます。

−−−：
ビデオ（コンポジット）、Sビデオ、コンポーネント、D端子から入力した映像をHDMI出力したいときに選びます。
「コンポーネントビデオ端子の設定」（☞40ページ）で「−−−」を選んだときは、ビデオ、Sビデオ端子からの入力がHDMI出力します。「IN 1」、「IN 2」、「IN 3」を選んだときは、設定したコンポーネント端子からの入力がHDMI出力します。

4

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

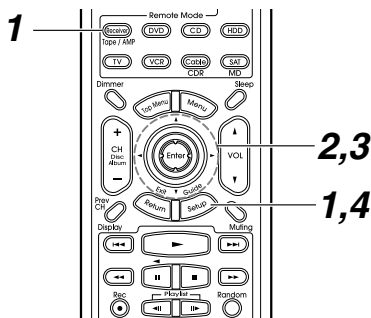
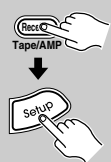
！ヒント

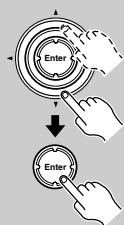
本体のSetup（セットアップ）ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter（エンター）ボタンでも操作することができます。

初期設定をする

コンポーネントビデオ端子の設定

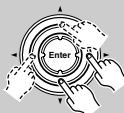
D4 VIDEO OUT端子またはCOMPONENT VIDEO OUT端子にテレビなどのモニターを接続しているときに設定します。お買い上げ時の設定では、以下の表のように設定されています。
ここで設定した映像入力端子からの映像が、D4 VIDEO OUT端子またはCOMPONENT VIDEO OUT端子から出力されます。
DVD、VIDEO 1からVIDEO 4までの各入力ごとに設定できます。

入力	映像入力端子の初期設定
DVD	IN 1
VIDEO 1	―――
VIDEO 2	―――
VIDEO 3	―――
VIDEO 4	―――

1

AMPボタンを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「1. Component Video」を選び、Enterボタンを押す

```
1.Component Video
------------------------
a.DVD         : ---
b.VIDEO 1     : ---
c.VIDEO 2     : ---
d.VIDEO 3     : ---
e.VIDEO 4     : ---
```

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「設定する入力」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

IN1：
映像機器をD4 VIDEO IN1端子またはCOMPONENT VIDEO IN1端子に接続した場合に選びます。

IN2：
映像機器をD4 VIDEO IN2端子またはCOMPONENT VIDEO IN2端子に接続した場合に選びます。

IN3：
映像機器をD4 VIDEO IN3端子またはCOMPONENT VIDEO IN3端子に接続した場合に選びます。

―――：
映像機器をVIDEOまたはS VIDEO端子に接続した場合に選びます。

4

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

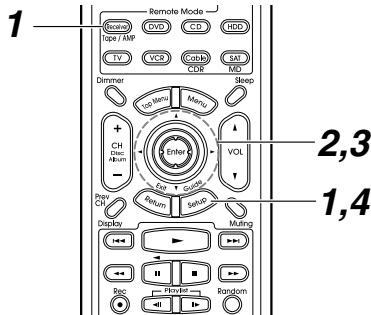
本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

ご注意

この設定を「IN 1」、「IN 2」、「IN 3」にしているときは、VIDEOからS VIDEOまたはS VIDEOからVIDEOへの変換機能は働きません。

デジタル音声入力端子の設定

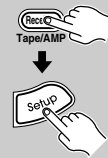
デジタル音声入力端子の接続は、ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむために必要です。各デジタル音声入力端子は、お買い上げ時の設定で以下の表のようにそれぞれの機器に割り当てられています。

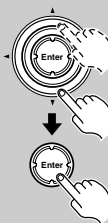
- 接続した機器がデジタル音声入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。
- 初期設定でデジタル音声入力端子が設定されている機器とアナログ接続のみをしたとき、設定を「－－－－－」にする必要があります。

入力	デジタル 音声入力端子の初期設定
DVD	Opt 1
VIDEO 1	Opt 2
VIDEO 2	－－－－－
VIDEO 3	Opt 3
VIDEO 4	Front
TAPE	－－－－－
TUNER	－－－－－
CD	Opt 4
PHONO	－－－－－

- 39ページでHDMI端子を割り当てた入力には、本設定にも自動的にHDMI端子が割り当てられます。また、この入力に他のデジタル音声入力を割り当てることもできます。

例：
本機後面のOPTICAL 2端子にCDプレーヤーを接続した場合
CDのデジタル音声入力端子の初期設定は「Opt4」のため、「Opt2」に設定を変更します。

DVDプレーヤーとアナログ接続のみをした場合
DVDのデジタル音声入力端子の初期設定は「Opt1」のため、「－－－－－」に設定を変更します。

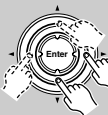
1

AMPボタンを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「2. Digital Input」を選び、Enterボタンを押す

2.Digital Input

a .DVD	: Opt 1
b .VIDEO 1	: Opt 2
c .VIDEO 2	: ------
d .VIDEO 3	: Opt 3
e .VIDEO 4	: Front
f .TAPE	: ------
g .TUNER	: ------
h .CD	: Opt 4
i .PHONO	: ------

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「設定する入力」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

以下のデジタル音声入力端子を割り当てることができます。

Coax1：(COAXIAL 1端子)
Coax2：(COAXIAL 2端子)
Opt1：(OPTICAL 1端子)
Opt2：(OPTICAL 2端子)
Opt3：(OPTICAL 3端子)
Opt4：(OPTICAL 4端子)
－－－－－：(アナログ)

- 入力がVIDEO 4のときは、Front(前面パネルドア内のデジタル入力端子)または「－－－－－」が選べます。
- 39ページでHDMI端子を設定した入力に、そのHDMI端子を割り当てることができます。

4

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

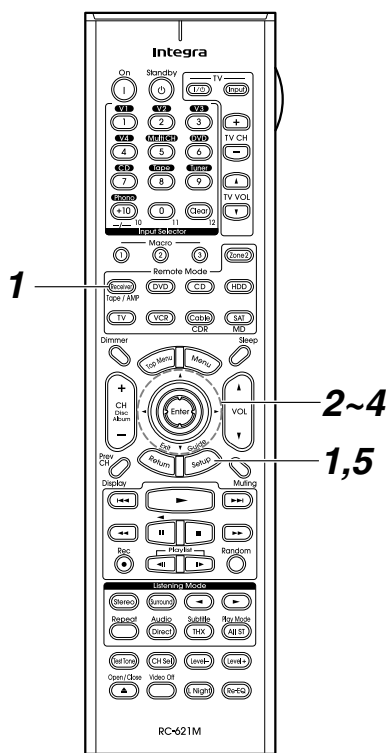
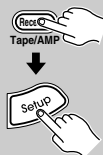
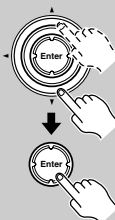
本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

スピーカーインピーダンスの設定をする

この項目は簡単スピーカー設定(☞36ページ)では自動設定されていません。
この設定を変更した場合、もう1度簡単スピーカー設定を行ってください

接続したスピーカーのインピーダンス(Ω)を設定します。
接続したスピーカーの中に1台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがある場合はここで設定してください。
ご使用になるスピーカーの背面や取扱説明書でインピーダンス(Ω)をご確認ください。

ご注意

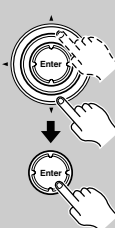
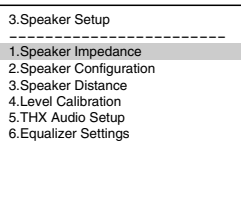
設定を変更するときは、必ず本機の音量を最小にしてください。

1

AMP(アンプ)ボタンを押してから Setup(セットアップ)ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「3. Speaker(スピーカー) Setup(セットアップ)」を選び、Enter(エンター)ボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して「1. Speaker(スピーカー) Impedance(インピーダンス)」を選び、Enterボタンを押す

```
3.Speaker Setup
-------------------------
1.Speaker Impedance
2.Speaker Configuration
3.Speaker Distance
4.Level Calibration
5.THX Audio Setup
6.Equalizer Settings
```

設定画面が表示されます。

4

◀/▶ボタンを押して「4 ohms(オーム)」または「6 ohms(オーム)」を選ぶ

4 ohms(オーム): 接続したスピーカーの中に1台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがある場合に選択します。

6 ohms(オーム): 接続したスピーカーがすべて6Ω以上の場合に選択します。

5

Setupボタンを押す

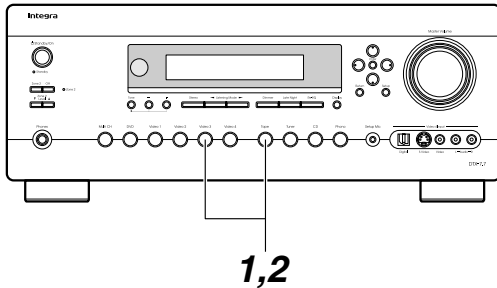
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

! ヒント

本体のSetup(セットアップ)ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter(エンター)ボタンでも操作することができます。

入力表示を切り換える

インテグラ/オンキヨーのRI端子付きMDレコーダー、CDレコーダーや次世代ハードディスク対応機器を本機のTAPE端子やVIDEO 3端子に接続した場合、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、入力表示を切り換える必要があります。

1

入力切換ボタンの「Tape（テープ）」または「Video（ビデオ） 3」を押し、表示部に「TAPE」または「VIDEO 3」を表示させる

2

TapeボタンまたはVideo 3ボタンを約3秒押し続けて、表示を切り換える

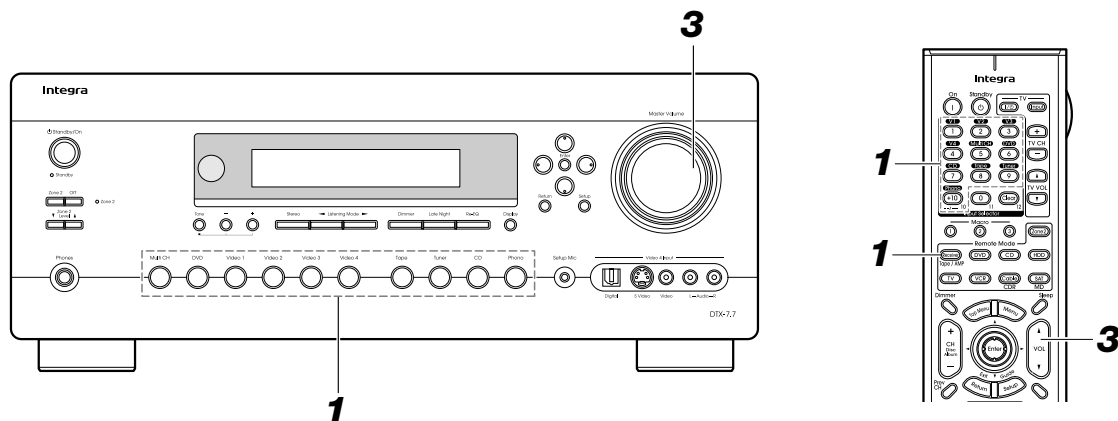
この手順をくり返すと以下のように表示が切り換わります。

Tapeボタン：
「TAPE」→「MD」→「CDR」→「HDD」→「TAPE」

Video 3ボタン：
「VIDEO 3」→「HDD」→「VIDEO 3」

「HDD」は、「TAPE」または「VIDEO 3」のどちらか片方でしか表示できません。
どちらかで「HDD」の表示に切り換えたときは、もう片方では切り換えることができません。

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

接続した機器を再生する

1

再生する機器を選ぶ

本体の入力切換ボタンを押します。または、リモコンのAMPボタンを押してからInput Selectorボタンを押します。

！ヒント

リモコンのV1、V2、V3、V4ボタンは、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、VIDEO 4を表しています。

2

選んだ機器の再生を始める

映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換えてください。
また、DVD対応のゲーム機などの再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

3

Master Volume

または

VOL

本体　　リモコン

本体のMaster Volumeつまみ、またはリモコンのVOL▲/▼ボタンで音量を調整する

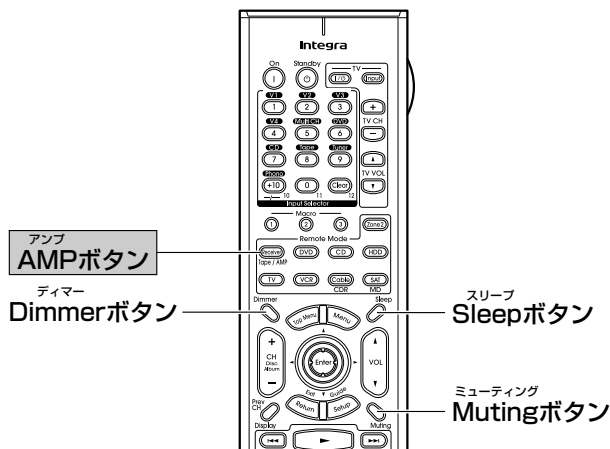
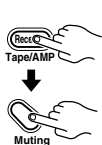
音量は基本的に－∞・－81・－80‥‥＋18までの範囲で調整できます。
（65ページで「Volume Display」を「Relative」に設定時）

！ヒント

本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

4

リスニングモードを楽しむ

詳しくは48ページをご覧ください。

一時的に音量を小さくする

リモコンのAMPボタンを押してから、Mutingボタンを押す

表示部に「MUTING」が点滅します。
65ページでミュート時の音量レベルを設定することができます。

■解除するには

もう一度Mutingボタンを押してください。
（音量を変えたり、Standbyボタンを押した場合にも解除されます。）

スリープタイマーを使う

リモコンのAMPボタンを押してから、Sleepボタンを押す

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になります。
ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

- スリープタイマー設定中はSLEEPインジケーターが点灯します。

■残り時間を確認するには

スリープタイマー設定中にSleepボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間が10分以下のときに再びSleepボタンを押すと、スリープタイマーは解除されます。

■スリープタイマーを解除するには

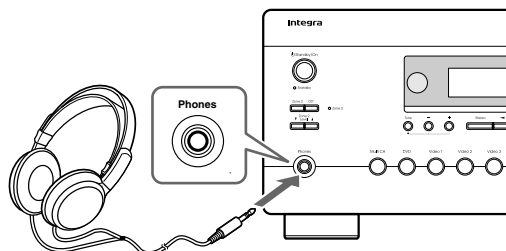
SLEEPインジケーターが消えるまで、くり返しSleepボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れるとスリープタイマーは解除されます。

表示部の明るさを変える

表示部の明るさを変えることができます。本体のDimmerボタンでも操作できます。

リモコンのAMPボタンを押してから、Dimmerボタンを押す

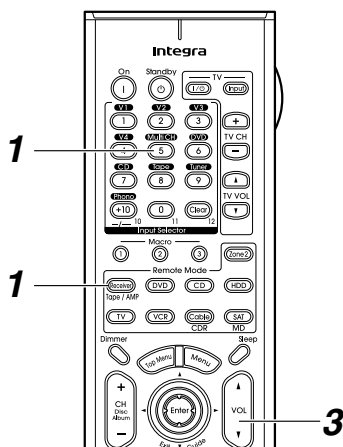
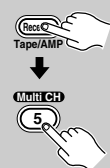
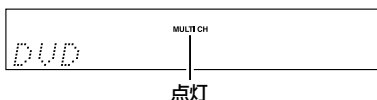
押すたびに以下のように明るさが変わります。

ヘッドホンで聞く

Phones端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続する

- 接続する時は音量を下げてください。
- ヘッドホン使用中はスピーカーからの音が消えます。（ゾーン2スピーカーからは、音が出ます。）
- ヘッドホン接続時は、「Mono」、「Direct」または「Stereo」のリスニングモードが選択できます。

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

マルチチャンネル接続した機器を再生する

DVDプレーヤーとマルチチャンネル接続をしている場合、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどの再生をお楽しみいただけます。24ページの通り正しく接続されていることを確認してください。

1 AMPボタンを押してからMulti CHボタンを押して、「MULTICH」表示を点灯させる

MULTI CH
DVD
点灯

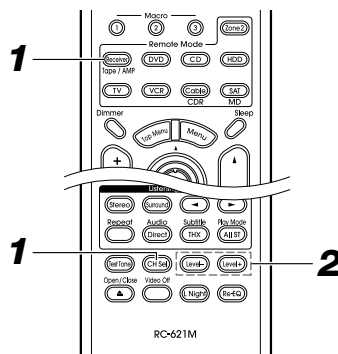
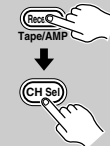
2 DVDプレーヤーを再生する

3 VOL▲/▼ボタンで音量を調整する

!ヒント

本体の入力切換ボタン、Master Volumeつまみでも操作できます。

スピーカーの音量を一時的に調整する

一時的に各スピーカーの音量をお好みに調整することができます。本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1 リモコンのAMPボタンを押してから、CH Selボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

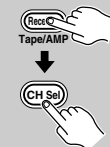
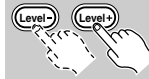
ご注意

スピーカー環境の設定（☞５８ページ）で「No」または「None」を選択したスピーカーは調整できません。

2 Level－/＋ボタンを押して、音量を調整する

スピーカーは－12ｄB～＋12ｄB、サブウーファーは－15ｄB～＋12ｄBの範囲で調整できます。

■ヘッドホンの音量を調整する

ヘッドホン接続中に、左右の音量をお好みに調整することができます。スタンバイ状態にしても設定を記憶しています。

1 リモコンのAMPボタンを押してからCH Selボタンを押して、「HP Left」（左）または「HP Right」（右）を選ぶ

2 Level－/＋ボタンを押して、音量を調整する

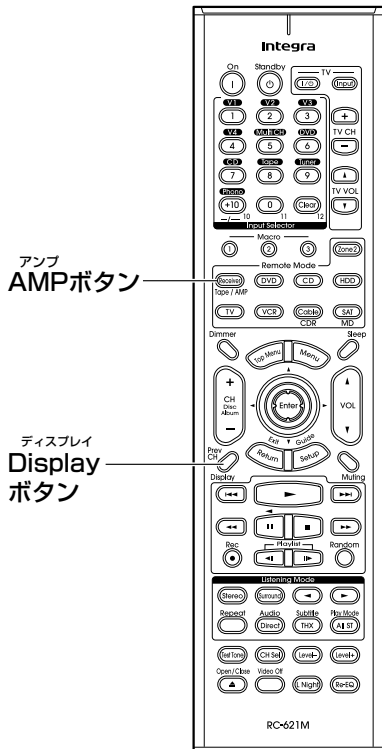
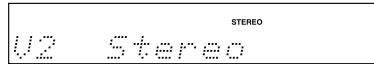
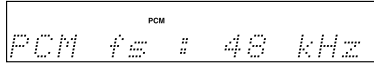
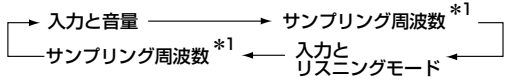
－12dB～+12dBの範囲で調整できます。

表示を確認する

1

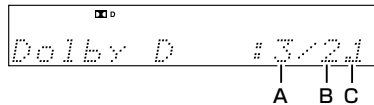
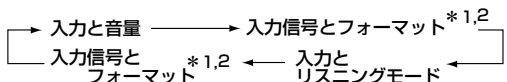
AMPボタンを押してから、Displayボタンを押す

本体のDisplayボタンでも操作できます。

- 入力されている信号により、表示される内容は異なります。
- Displayボタンを押すたびに、表示内容が右記のように切り換わります。

● 入力信号がアナログのとき

● 入力信号がPCMのとき

マルチチャンネルPCM信号が入力されたときは、*1 にサンプリング周波数とフォーマットが表示されます。

● 入力信号がPCM以外のデジタル信号のとき

入力と音量 → 入力信号とフォーマット*1,2 → 入力とリスニングモード → 入力信号とフォーマット*1,2

*1 入力信号にプログラム情報がないときは、表示されません。サンプリング周波数やフォーマット表示状態で、約3秒経過すると、元の表示に戻ります。

*2 フォーマット表示の意味

A :入力信号に含まれているフロントチャンネルの数
　3: 左フロント、センター、右フロントスピーカーの3チャンネル
　2: 左フロント、右フロントスピーカーの2チャンネル
　1: モノラル（1チャンネル）

B :入力信号に含まれているサラウンドチャンネルの数
　3: 左サラウンド、右サラウンド、サラウンドバックスピーカーの3チャンネル
　2: 左サラウンド、右サラウンドスピーカーの2チャンネル
　1: モノラル（1チャンネル）

C :入力信号に含まれているLFE（低域効果音）の有無
　1: あり
　 : なし

たとえば、「3/2.1」と表示された場合は、フロント3チャンネルとサラウンド2チャンネル、それにLFEがそれぞれ独立して記録されたソースで、5.1チャンネルソースであることを表しています。

● 入力信号がAACの音声多重放送（2ヶ国語放送など）のとき

入力と音量 → 入力信号と音声の数 → 入力と選択音声 → 入力信号と音声の数

AAC :1+1

リスニングモードを選ぶ

本体のボタンで選ぶ

1 入力切換ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2 選んだ機器を再生する

3 Listening Mode◀/▶ボタンまたは Stereo ボタンでリスニングモードを選ぶ

または

Listening Mode◀/▶：
対応できるすべてのリスニングモードに切り換えます。

Stereo：
リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

リモコンで選ぶ

1 AMPボタンを押してからInput Selectorボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2 選んだ機器を再生する

3 リスニングモードボタンを押してリスニングモードを選ぶ

Stereo：
リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

Surround：
Dolby DigitalやDTSのリスニングモードに切り換えます。

◀/▶：
対応できるすべてのリスニングモードに切り換えます。

Direct：
リスニングモードを「Direct」に切り換えます。

THX：
THXのリスニングモードに切り換えます。

All ST：
リスニングモードを「All Ch Stereo」に切り換えます。

入力信号の種類と対応するリスニングモード

リスニングモード ＼ 入力信号の種類と主なソース		PCM[*1]またはアナログ	Dolby Digital				DTS/DTS 96/24[*2]				AAC				マルチチャンネル*6
			3/2.1 2/2.1	2/0	1/0,1+1	その他	3/2.1 2/2.1	2/0	DTS-ES Discrete	DTS-ES Matrix	3/2.1 2/2.1	2/0	1/0,1+1	その他	
		CD ビデオ ラジオ テレビなど	DVD、ビデオなど				DVD、ビデオ、CDなど				BSデジタル放送など				DVD
Direct Stereo		●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●
Mono		●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	
Multich															●
PLIIx Movie/Music/Game[*3] Neo:6 Cinema Neo:6 Music[*4]		●		●				●				●			
AAC	AAC										●			●	
AAC	AAC+Dolby EX AAC+PLIIx Music										●				
AAC	AAC+PLIIx Movie										●				
Dolby	Dolby Digital		●			●									
Dolby	Dolby D EX Dolby D+PLIIx Music		●												
Dolby	Dolby D+PLIIx Movie		●												
DTS	DTS, DTS 96/24						●		●[*5]						
DTS	DTS-ES Discrete								●						
DTS	DTS-ES Matrix									●					
DTS	DTS+Neo:6 DTS+Dolby EX DTS+PLIIx Music						●								
DTS	DTS+PLIIx Movie						●								
THX[*4]	THX Cinema	●	●	●		●	●	●	●		●	●		●	
THX[*4]	THX Surround EX		●				●				●				
THX[*4]	THX Select 2 Cinema THX Music Mode		●				●				●				
THX[*4]	THX Games	●	●	●			●	●			●	●			
オンキヨー独自のリスニングモード	Mono Movie[*4] Orchestra[*4] Unplugged[*4] Studio-Mix[*4] TV Logic[*4] All Ch Stereo Full Mono	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	

*1 Directのとき、PCMでサンプリング周波数が32、44.1、48kHzの場合はそれぞれ64、88.2、96kHzとして処理されます。また、サンプリング周波数が96kHzの場合、 Direct、Stereo以外では48kHzとして処理されます。
*2 Direct、Stereo、DTS96/24のときは、DTS96/24として処理されます。これら以外では、通常のDTSとして処理されます。
*3 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合や、ZONE 2 SPEAKERS端子に接続したスピーカーを使用しているときは、PLIIになります。
*4 サラウンドスピーカーを接続していない場合は選べません。
*5 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合や、ZONE 2 SPEAKERS端子に接続したスピーカーを使用しているときは、DTSになります。
*6 マルチチャンネルPCMにも対応しています。HDMI入力した176.4/192kHzのPCM信号では、Multichリスニングモードは選べません。

サラウンドバックスピーカーを1つ以上接続しているときに選べます。（6.1または7.1チャンネル再生時）*

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1チャンネル再生時）*

* ただし、ZONE 2 SPEAKERS端子に接続したスピーカーを使用しているときは、選べません。

！ヒント

入力信号の種類は、 Display（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。
AACなどで多重音声の場合は55ページのMultiplex（マルチプレックス）の設定で主音声または副音声を選択します。

リスニングモードを使う

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わって頂けます。本機には以下のリスニングモードがあります。

Direct（ダイレクト）

もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。入力ソースのチャンネルのまま音声を出力します。

Stereo（ステレオ）

左右フロントスピーカーから出力されます。

Mono（モノ）

モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVDなどに記録された音声多重のサウンドトラックに適しています。

Dolby Pro Logic IIx（ドルビー プロ ロジック）

2チャンネルで収録された音楽や映画を6.1から7.1チャンネルで再生できます。
明瞭なサウンドはそのままに、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CDや映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。
5.1チャンネルで収録された音楽や映画を7.1チャンネルで再生できます。

- PL IIx Movie（ムービー）
  VHSやDVDビデオ、またはテレビ番組再生時に楽しむことができます。
- PL IIx Music（ミュージック）
  CDなどのステレオ音楽や、ライブを記録したDVDに適しています。
- PL IIx Game（ゲーム）
  ゲームディスクを楽しむときに使用できます。

Dolby Pro Logic II（ドルビー プロ ロジック）

サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、Dolby Pro Logic IIxのかわりに、このリスニングモードになります。
2チャンネルで収録された音楽や映画を5.1チャンネルで再生できます。

Dolby Digital（ドルビー デジタル）

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。DOLBY DIGITAL マークのついたDVD、LDなどの再生時に楽しむことができます。

Dolby Digital EX/Dolby EX（ドルビー デジタル／ドルビー）

5.1チャンネルで収録された音楽や映画を6.1/7.1チャンネルで再生できます。
5.1チャンネルに背面のサラウンドチャンネルを増やし、6.1/7.1チャンネルにすることで、より空間表現力を高め、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。サラウンドバックチャンネルの音声は左右サラウンドチャンネルに振り分けられるため、通常の5.1チャンネル環境で再生することも可能です。5.1チャンネルで記録された DOLBY DIGITAL マークのついたDVD,LDの再生時はDolby Digital EXとなり、その他のソースではDolby EXとなります。

DTS

完全に分離させた5.1チャンネルで膨大となる音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。再生するにはDTS出力が可能なDVDプレーヤーが必要です。dts マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS 96/24

dts 96/24 マークのついたCD、DVD、LDなどに使用できるリスニングモードです。きめ細やかな音声をお楽しみいただけます。

DTS-ES Discrete（ディスクリート）

DTSにサラウンドバックを追加した、6.1/7.1チャンネルサラウンドです。
追加されたサラウンドバックチャンネルを含めてすべてのチャンネルが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。dts ES のついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Matrix（マトリックス）

DTS-ES収録ソフトを6.1/7.1チャンネル再生します。
DTS-ES収録ソフトにはサラウンドバックチャンネルの情報も組み込まれているため、それぞれのチャンネルを6.1/7.1チャンネルに復元して再生します。
dts ES マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS Neo：6（ネオ）

2チャンネルで収録されたソースを5.1/6.1/7.1チャンネルで再生するモードです。すべてのチャンネルに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。
映画に最適なCinema（シネマ）モードと音楽再生に最適なMusic（ミュージック）モードが選択できます。
5.1チャンネルで収録されたdtsマークのついたDVDやCDの再生時はNeo：6となり、6.1/7.1チャンネルで再生します。

- Neo：6 Cinema（シネマ）
  リアルで移動感にあふれたサラウンドが再現され、2チャンネルのVHSやDVDビデオ、テレビ番組に適しています。
- Neo：6 Music（ミュージック）
  サラウンドチャンネルを使用することで通常の2チャンネル出力では得られない自然な音場を生み出します。2チャンネルで収録されたCDなどに適しています。

AAC
MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。
地上デジタル、BS/CSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。

THX
- THX Cinema
  映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された劇場用映画を見るときに適しています。5.1チャンネルソースや他のフォーマットでデコードされた2チャンネルのソースで楽しむことができます。サラウンドバックの音声は、ソースやデコードモードによって異なります。
- THX Surround EX
  ドルビーラボラトリーズとTHX社で共同開発されたホームシアター用フォーマットです。ドルビーデジタルEXの技術で従来の左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファーの各チャンネルに加えて、視聴者の背後に新たな音場を作り出し、総計7.1チャンネルとなります。
- THX Select 2 Cinema
  5.1チャンネルで収録された音楽や映画を7.1チャンネルで再生できます。再生するサラウンド成分を分析し、雰囲気や方向感を最適化するようサラウンドバックに振り分けます。横と後方の広がりと定位感をさらに高めます。
- THX Music Mode
  音楽ソース用モードです。5.1チャンネルで収録されたソフトを7.1チャンネルで再生します。
- THX Games Mode
  ゲームソース用モードです。

Multich
アナログのマルチチャンネル接続やHDMI接続をしているときに使用できるリスニングモードです。

■オンキヨー独自のリスニングモード

Mono Movie
古い映画などモノラル信号の映画ソースを再生するのに適したモードです。センターチャンネルからはそのままの音声を、他のスピーカーからは適度に残響処理を施した音を出力します。
モノラルでも臨場感をお楽しみ頂けます。

Orchestra
クラシックやオペラに適したモードです。
音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged
アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージをつくります。

Studio-Mix
ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。

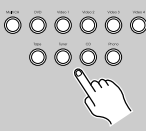
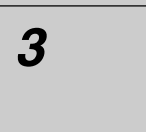
TV Logic
放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。
局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

All Ch Stereo
BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。

Full Mono
すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聞くことができます。

THX Select 2
THX Select 2の認証を取得したホーム·シアター·コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質/性能試験に合格しています。このような製品にのみ付与されているTHX Select 2のロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THX Select 2の要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル/アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。またTHX Select 2レシーバーは、劇場用映画のサウンドトラックを正確にホーム・シアターで再現するための特許技術である、THX技術を備えています。

聴きたいリスニングモードが選べない
- デジタル接続はしましたか？またはHDMI接続はしましたか？
  ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむときは、デジタル接続をする必要があります。
- 再生機器側のデジタル出力設定は、正しいですか？
  ドルビーデジタルやDTSロゴのついたDVDの本編を再生中に、本機のPCM表示が点灯していたら、再生機器側のデジタル出力設定がPCMになっている場合があります。再生機器側で他の信号も出力するように設定してください。

録音・録画する

あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意

- サラウンド効果は録音されません。
- 著作権保護されたDVDなどはデジタル録音・録画できません。
- マルチチャンネル音声は録音できません。
- DIGITAL IN（COAXIALまたはOPTICAL）端子から入力したデジタル信号は、DIGITAL OUT（OPTICAL）端子からのみ出力されます。
  アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音するときは、録音機器の取扱説明書もご覧ください。
- DTS対応のCDやLDをアナログ録音すると、DTS信号はノイズとして録音されることがあります。
- VIDEO 1 IN端子に入力された映像や音声は、VIDEO 1 OUT端子に出力されません。同様にVIDEO 2 INとTAPE IN端子に入力された音声は、それぞれVIDEO 2 OUT端子とTAPE OUT端子に出力されません。これは出力と入力にループができて故障するのを防ぐためです。

再生しながら録画する

現在再生中の音楽や映画を録画します。

1 入力切換ボタンを押して録画する機器（再生側）を選ぶ

2 録画する機器（録画側）の準備をする

- 録画する機器を録画待機状態にします。
- 録音レベルの調整は録画機器で行ってください。
- 録画のしかたについては、録画機器の取扱説明書をご覧ください。

3 録画を始める

手順***1*** で選んだ再生機器を再生します。

異なるソースの音楽と映像を録音・録画する

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオが作成できます。以下の手順は、CD端子に接続したCDプレーヤーの音声とVIDEO 4 INPUT端子に接続したビデオカメラの映像をVIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキで録音･録画する例です。

1 録画する機器（再生側）の準備をする

例：VIDEO 4 INPUT端子に接続したビデオカメラとCD IN端子に接続したCDプレーヤーを準備する

2 Video 1 OUT端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

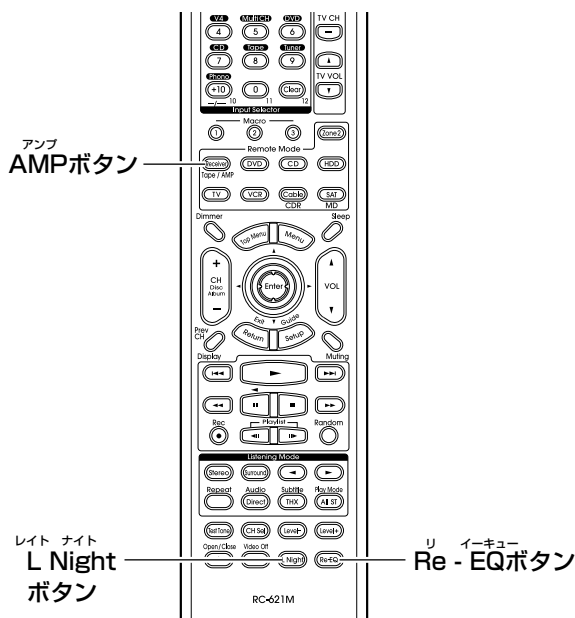
3 入力切換ボタンの「Video 4」を押す

4 入力切換ボタンの「CD」を押す

音声出力はCDに変わりますが、映像出力は手順***3*** で選んだVIDEO 4のまま変わりません。VIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキで録画を開始し、VIDEO 4 INPUT端子に接続したビデオカメラとCDプレーヤーの再生を始めます。
映像はビデオカメラから録画し、音声はCDプレーヤーから録音されます。

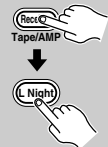
ご注意

この方式で録音できるのはTUNER、TAPE、CD、PHONO端子に接続した機器の音声のみです。

設定をする（リスニングモード編）

レイトナイト機能を使う（ドルビーデジタル時のみ）

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。
この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1

AMPボタンを押してから、L Nightボタンを（くり返し）押す

Late Night:Off

Off：レイトナイト機能をオフにします。
Low：音量幅を小さくします。
High：音量幅をさらに小さくします。

本体のLate Nightボタンでも設定できます。

ご注意

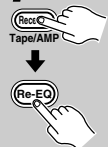
- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトにのみ効果があります。
- レイトナイト効果は、ドルビーデジタルソフトによって効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

！ヒント

「6. Audio Adjust」メニューからも設定できます。（☞54ページ）

Re-EQ機能を使う

高音域が強調されたサウンドを、ホームシアター用に補正します。高音域が強すぎる場合に設定します。Re-EQの設定は、リスニングモードがDolby Digital、Dolby Digital EX、Dolby Pro Logic II Movie、Dolby Pro Logic IIx Movie、DTS、DTS-ES、DTS Neo:6 Cinema、DTS 96/24、THX Cinema、THX Surround EX、THX Select 2 Cinema、Multichannelの場合に働きます。

1

AMPボタンを押してから、Re-EQボタンを（くり返し）押す

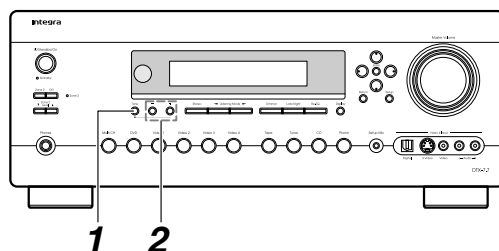
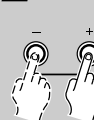
ONまたはOFFを切り換えます。
本体のRe-EQボタンでも設定できます。

低音、高音（Bass、Treble）を調整する

「Direct」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーのみ音質を調整することができます。

1

Toneボタンをくり返し押して、「Bass（低音）」または「Treble（高音）」を選ぶ

2

Tone－/＋ボタンを押して、レベルを調整する

お買い上げ時は「0」ですが、－10dB～＋10dBの範囲内で1dBずつ調整できます。

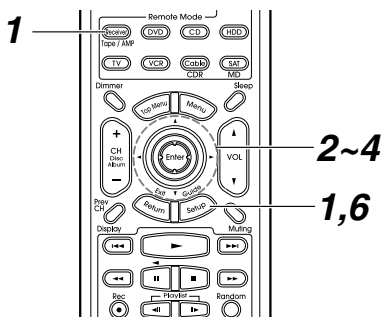
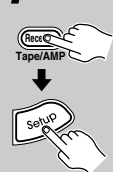
！ヒント

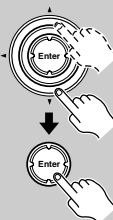
「6. Audio Adjust」メニューからも設定できます。（☞54ページ）

ご注意

THX のリスニングモードには効果がありません。

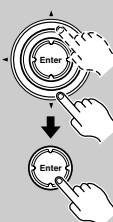
音響効果を調整する

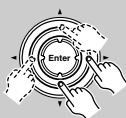
リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに調整することができます。

1

AMPボタンを押してから Setupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「6. Audio Adjust」を選び、Enterボタンを押す

```
6.Audio Adjust
--------------------------
1 .Tone Control
2 .PLⅡx/Neo:6
3 .Dolby Digital
4 .LFE Level
5 .Mono/Multiplex
```

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「設定したい項目」を選び、Enterボタンを押す

4

▲/▼ボタンを押して設定したいメニューを選び、◀/▶ボタンで調整する

1つ前の画面に戻るときは、Returnボタンを押します。

5

手順3と手順4をくり返す

6

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

Tone Controlの設定

53ページの「低音、高音（Bass、Treble）を調整する」と同じ設定です。

PL IIx/Neo：6の設定

■PL IIx Music（2ch only）の設定

2チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ/PCM信号を、「PLIIx Music」リスニングモードで再生するときの設定をします。
サラウンドバックスピーカーを接続していない場合、「PLIIx」は「PLII」と表示されます。

Panorama

音場を横方向に広げることができます。

On：パノラマ効果を「オン」にします。
Off：パノラマ効果を「オフ」にします。
（お買い上げ時の設定）

Dimension

音場を前方または後方へ移動させることができます。お買い上げ時は「3」に設定されています。

！ヒント

- 「3」を中心に、「2」、「1」、「0」にすると後方へ、「4」、「5」、「6」にすると前方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は、音場を前方に調整するとバランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は、音場を後方に調整するとバランスが良くなります。

Center Width

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。
Dolby Pro Logic IIx では、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。
お買い上げ時の設定は「3」ですが、0〜7の範囲で選択できます。

■Neo：6 Musicの設定

Center Image

「Neo:6 Music」は、2チャンネルで収録されたソースを6チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。
どの程度音声を差し引いてセンターチャンネルのイメージを作るかを調整します。
お買い上げ時の設定は「3」ですが、0〜5の範囲で選択できます。

！ヒント

- 「0」は左右のチャンネルから半分（−6dB）差し引いてセンターイメージを作るため、より中央に寄った感じになります。視聴位置が中央からかなりずれている場合に便利です。
- 「5」は左右のチャンネルから音声が差し引かれないため元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。

Dolby Digitalの設定

Dolby EX

ドルビーデジタルEX信号の再生方法を設定します。
サラウンドバックスピーカーを接続していないときや、ZONE 2 SPEAKERS端子に接続したスピーカーを使用しているときは、設定できません。

- **Auto**：ドルビーデジタルの6.1チャンネル識別信号があるとき、Dolbyのリスニングモードは Dolby Digital EX、THXのリスニングモードはTHX Surround EXが選べます。（お買い上げ時の設定）
- **Manual**：リスニングモード表の通りに選べます。

Late Night

53ページの「レイトナイト機能を使う」と同じ設定です。

LFE Levelの設定

各入力信号の低域効果（LFE）レベルを設定します。
Dolby Digital、DTS、AAC、マルチチャンネルPCM（MCH PCM）、マルチチャンネルアナログ（MCH Ana）信号の設定ができます。

お買い上げ時の設定はすべて「0dB」ですが、−∞dB、−20dB、−10dB、0dBから選べます。
低域効果音が強調されすぎる場合は、−20dBや−∞dBを選んでください。

Mono/Multiplexの設定

■Monoの設定

Input Ch

2チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ/PCM信号を、「Mono」リスニングモードで再生するときに使用する信号チャンネルを設定します。

- **Auto L＋R**：左右チャンネルの信号両方を再生します。（お買い上げ時の設定）
- **Left**：左チャンネルの音声を再生します。
- **Right**：右チャンネルの音声を再生します。

Output Sp

「Mono」リスニングモードを選んだときに、どのスピーカーからモノラル音声を出力するか設定することができます。

- **Front**：左右フロントスピーカーから出力します。
- **Center**：センタースピーカーから出力します。（お買い上げ時の設定）

■Multiplexの設定

Multiplex

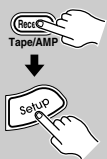
多重音声や多重言語の放送などで音声や言語を選択します。
DISPLAYボタンを押して表示部に音声の数が「1＋1」と表示されたら、音声多重放送です。

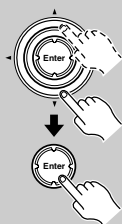
- **Main**：主音声を出力します。（お買い上げ時の設定）
- **Sub**：副音声を出力します。
- **Main/Sub**：主音声と副音声の両方を出力します。

設定をする（リスニングモード編）

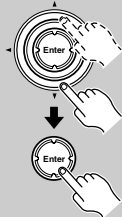
よく使うリスニングモードを設定しておく

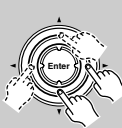
入力される信号によって、よく使うリスニングモードを設定しておくことができます。
再生中に切り換えることもできますが、一度スタンバイ状態にすると設定されたモードに戻ります。

1

AMPボタンを押してから Setupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「5. Listening Mode Preset」を選び、Enterボタンを押す

```
5.Listening Mode Preset
-------------------------
1 .DVD
2 .VIDEO 1
3 .VIDEO 2
4 .VIDEO 3
5 .VIDEO 4
6 .TAPE
7 .TUNER
8 .CD
9 .PHONO
```

3

▲/▼ボタンを押して「入力ソース」を選び、Enterボタンを押す

4

▲/▼ボタンを押して「設定したい信号の種類」を選び、◀/▶ボタンでリスニングモードを選ぶ

選択できるリスニングモードは設定する入力信号によって異なります。

- 「Last Valid」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

5

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

Ana/PCM

CDなどのPCM信号やレコード、カセットテープなどのアナログ信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

Dolby D

ドルビーデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

DTS

DTS信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

AAC

AAC信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

D. F. 2ch

2チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

D. F. Mono

モノラルで記録されたドルビーデジタル、AACなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

176.4/192kHz

DVDオーディオなど､サンプリング周波数が176.4/192kHzの信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

MCH PCM

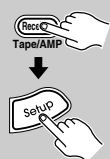
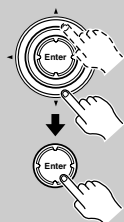
HDMI IN端子から入力したDVDオーディオなどのマルチチャンネルPCM信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

MCH Ana

入力がDVDのときのみ表示されます。アナログマルチチャンネルを再生するときのリスニングモードを設定します。

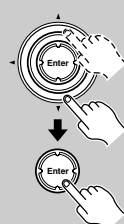
マルチチャンネル再生時の設定

入力にDVDまたはマルチチャンネルを選んでいるときに設定できます。

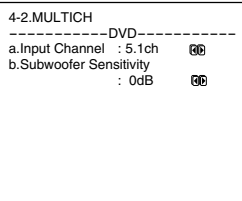
1

**AMPボタンを押してから
Setupボタンを押して、
「メインメニュー」を表示させる**

2

**▲/▼ボタンを押して
「4. Input Setup」を選び、
Enterボタンを押す**

3

**▲/▼ボタンを押して
「MULTICH」を選び、
Enterボタンを押す**

```
4-2.MULTICH
-----------DVD-----------
a.Input Channel   : 5.1ch
b.Subwoofer Sensitivity
                  :  0dB
```

4

**▲/▼ボタンを押して
設定したい項目を選び、
◀/▶ボタンで調整する**

5

手順4をくり返す

6

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、Returnボタンを押してください。

！ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

Input Channel

24ページで7.1chのマルチチャンネル接続をしたときは、「7.1ch」を選択してください。
5.1chのマルチチャンネル接続をしたときは、「5.1ch」を選択してください。
お買い上げ時の設定は「5.1ch」です。

Subwoofer Sensitivity

DVDプレーヤーによっては、マルチチャンネル出力時にLFE（低域効果音）チャンネルが＋15dB高く出力されるものがあり、サブウーファーの音量が大きくなることがあります。
この設定では、マルチチャンネル入力時のサブウーファーの音量を調整することができます。
0(お買い上げ時の設定)、＋5、＋10、＋15dBから選択できます。
サブウーファーが大きすぎる場合は、＋10dBや＋15dBを選んでください。

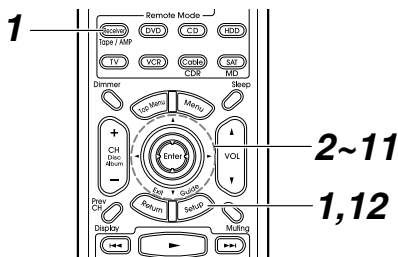
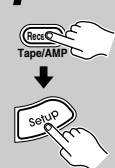
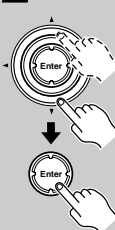
スピーカーの設定をする

この中の多くのメニューは簡単スピーカー設定（36ページ）で自動設定されています。簡単スピーカー設定の後に使用するスピーカーを変更した場合や手動で設定したい場合、簡単スピーカー設定で自動設定された内容を確認するときに使用します。
ヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

スピーカー環境の設定

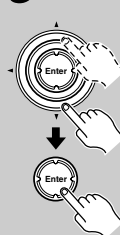
簡単スピーカー設定（☞36ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

接続したスピーカーの「有/無」と「クロスオーバー周波数」を設定します。
クロスオーバー周波数は、各チャンネルの低音域を何Hzからサブウーファーで出力するか設定しておくことができます。
サブウーファーを接続していないときには、フロントスピーカーが自動的に「Full Band」に設定され、他のチャンネルの低音域がフロントスピーカーから出力されます。
それぞれのスピーカーのクロスオーバー周波数は、
Full Band、40、50、60、70、80（THX）、90、100、110、120、130、150、200Hzから選択できます。お手持ちのスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。

- THX認証のスピーカーシステムを使用するときは、簡単スピーカー設定を行ってもこの設定で80Hz（THX）に設定し直してください。

1

AMPボタンを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「3. Speaker Setup」を選び、Enterボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して「Speaker Configuration（スピーカー環境）」を選び、Enterボタンを押す

スピーカーコンフィグレーション設定画面が表示されます。

4

▲/▼ボタンを押して「Subwoofer」を選び、◀/▶ボタンでサブウーファーの「有/無」を選ぶ

Yes：サブウーファーを接続している場合
No：サブウーファーを接続していない場合

5

▲/▼ボタンを押して「Front」を選び、◀/▶ボタンでフロントスピーカーのクロスオーバー周波数を選ぶ

ご注意

手順**4**で「No」を選択した場合は、「Full Band」に固定されます。

6

▲/▼ボタンを押して「Center」を選び、◀/▶ボタンでセンタースピーカーの設定をする

センタースピーカーを接続していない場合は「None」を選んでください。

ご注意

手順**5**で「Full Band」以外を選択した場合は、「Full Band」は選択できません。

7

▲/▼ボタンを押して「Surround」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドスピーカーの設定をする

左右サラウンドスピーカーを接続していない場合は「None」を選んでください。

ご注意

手順**5**で「Full Band」以外を選択した場合は、「Full Band」は選択できません。

8

▲/▼ボタンを押して「Surr Back」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドバックスピーカーの設定をする

サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は「None」を選んでください。

ご注意

- 手順**7**で「None」を選択した場合は、この項目は選択できません。
- 手順**7**で「Full Band」以外を選択した場合は、「Full Band」は選択できません。

9

▲/▼ボタンを押して「SurrBack Ch」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドバックスピーカーの数を設定する

1ch：接続したサラウンドバックスピーカーが1つの場合（SURROUND BACK SPEAKERS L端子に接続してください。）

2ch：接続したサラウンドバックスピーカーが2つの場合

ご注意

手順**8**で「None」を選択した場合は、この項目は設定できません。

⇨手順**10**に続く

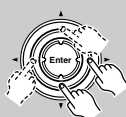
LFEのローパスフィルター設定

この項目は簡単スピーカー設定(☞36ページ)では自動で設定されていません。

LFE（低域効果音）信号のローパスフィルターを設定します。ローパスフィルターを設定すると、その設定値よりも低い周波数成分だけを通過させ、不要なノイズを削除することができます。

80Hz（THX）、90Hz、100Hz、110Hz、120Hzから選択できます。

- ＴＨＸ認証のスピーカーシステムを使用するときは、80Hz(THX)を選択してください。

10

▲/▼ボタンを押して「LPF of LFE」を選び、◀/▶ボタンで設定する

⇨手順**11**に続く

サブウーファーの設定

この項目は簡単スピーカー設定(☞36ページ)では自動設定されていません。

この設定は、サブウーファーをさらに強調させることができます。

サブウーファーを「Yes（有り）」にしていて、フロントスピーカーを「Full Band」に設定している場合のみ設定できます。

11

▲/▼ボタンを押して「Subwoofer Mode」を選び、◀/▶ボタンで設定する

Double Bass：サブウーファーを強調します。

LFE only(THX)：サブウーファーを強調しません。

12

Setupボタンを押す

設定が終了したら、Setupボタンを押します。メニュー画面が消えます。

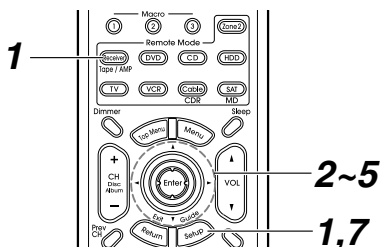
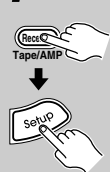
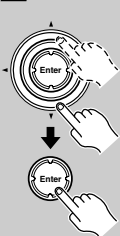
- メインメニュー画面に戻るには、Returnボタンを押してください。

！ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

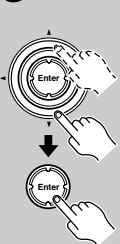
視聴位置からスピーカーまでの距離設定（スピーカーディスタンス）

簡単スピーカー設定（☞36ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。
距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

1

AMPボタンを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「3. Speaker Setup」を選び、Enterボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して「Speaker Distance」を選び、Enterボタンを押す

スピーカーディスタンス設定画面が表示されます。

3-3.Speaker Distance

a .Unit	: meters
b .Left	: 3.60m
c .Center	: 3.60m
d .Right	: 3.60m
e .Surround R	: 2.10m
f .SurrBack R	: 2.10m
g .SurrBack L	: 2.10m
h .Surround L	: 2.10m
i .Subwoofer	: 3.60m

ご注意

「2. Speaker Configuration（スピーカー環境）」の設定で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、選択できません。

4

▲/▼ボタンを押して「Unit（単位）」を選び、◀/▶ボタンで設定する単位を選ぶ

meters：距離をメートルで設定する。0.15m単位で0.3mから9mの範囲で設定できます。

feet：距離をフィートで設定する。0.5ft単位で1ftから30ftの範囲で設定できます。

5

▲/▼ボタンを押して「Left」を選び、◀/▶ボタンで距離を設定する

左フロントスピーカーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

6

手順5をくり返し、接続したすべてのスピーカーの距離を設定する

7

Setupボタンを押す

すべてのスピーカーの設定が終わったらSetupボタンを押します。メニュー画面が消えます。

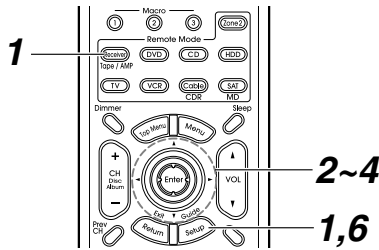
- メインメニュー画面に戻るには、Returnボタンを押してください。

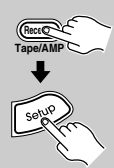
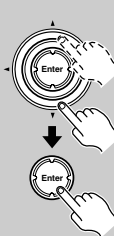
！ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

スピーカーの音量レベル調整（レベルキャリブレーション）

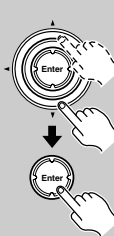
簡単スピーカー設定（☞36ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

各スピーカーからのテスト音の音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。
スタンバイ状態にしても記憶しています。
- ミューティング中やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

本機はTHX対応機種ですので、テスト音は標準レベルの0dB（Absolute Volume値の場合は82）で出力されます。通常お聞きになっている音量が小さい場合は、突然大きな音になりますのでご注意ください。

1

AMPボタンを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「3. Speaker Setup」を選び、Enterボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して「Level Calibration」を選び、Enterボタンを押す

レベルキャリブレーション設定画面が表示され、「ザー」というテスト音が左フロントスピーカーより出力されます。

```
3-4.Level Calibration
------------------------
a .Left          : 0dB
b .Center        : 0dB
c .Right         : 0dB
d .Surround R    : 0dB
e .SurrBack R    : 0dB
f .SurrBack      : 0dB
g .Surround L    : 0dB
h .Subwoofer     : 0dB
```

ご注意

「2. Speaker Configuration（スピーカー環境）」の設定で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、設定できません。

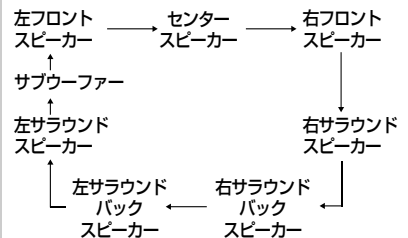
4

▲/▼ボタンでスピーカーを切り換え、◀/▶ボタンを押してテスト音を調整する

すべてのスピーカーのテスト音が同じ音量に聞こえるように調整します。
- −12dB〜+12dBの範囲で調整できます。
- サブウーファーは−15dB〜+12dBの範囲内で調整できます。

5

手順4をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテスト音を調整する

6

Setupボタンを押す

設定が終わり、メニュー画面が消えます。

!ヒント

リモコンのTest Toneボタンでテスト音を出して設定することもできます。
この場合、Level−/+ボタンでテスト音を調整し、CH Selボタンでスピーカーを切り換えます。

THXスピーカーの設定

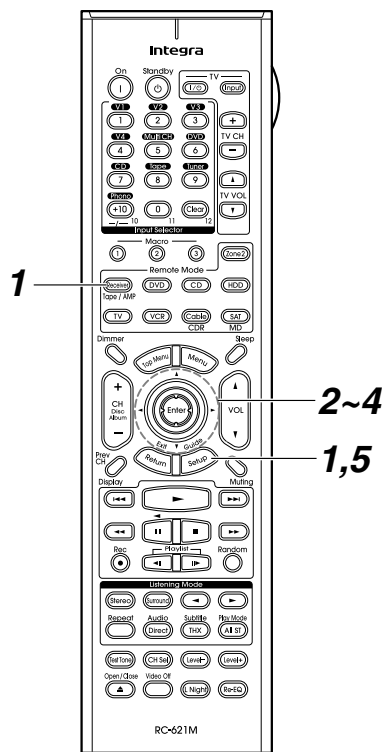
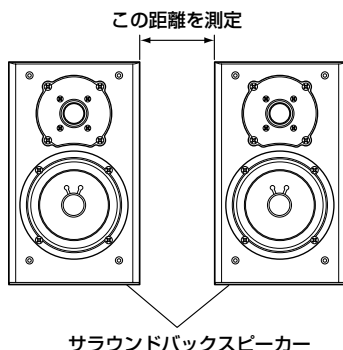
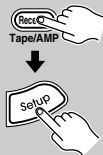
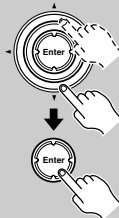
この項目は簡単スピーカー設定(☞36ページ)では自動で設定されていません。

THX準拠のスピーカーシステムを使う場合の設定です。THX Select 2 CinemaやTHX Music Modeなどのリスニングモードを聞くときに、この設定が効果を発揮します。

スピーカー環境の設定でSurrBack Chを 2chに設定しているときだけ設定できます。（☞59ページ）

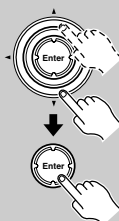
2つのサラウンドバックスピーカーをできるだけ間隔をあけずに配置し、その距離を測って設定します。（下図参照）

THXのASA*テクノロジーにより、最大の効果を発揮します。

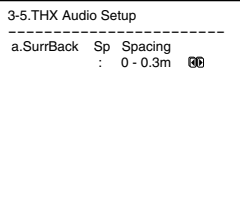
＊ASA（Advanced Speaker Array）

1

AMPボタンを押してから Setupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「3. Speaker Setup」を選び、Enterボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して「THX Audio Setup」を選び、Enterボタンを押す

3-5.THX Audio Setup
----
a.SurrBack Sp Spacing
: 0 - 0.3m

4

◀/▶ボタンで「SurrBack Sp Spacing」を設定する

0~0.3m（0~1ft）:
スピーカー間の距離が0～30cm（0～1ft)の場合（お買い上げ時の設定）

0.3~1.2m（1~4ft）:
スピーカー間の距離が30cm～1.2m（1～4ft)の場合

>1.2m（>4ft）:
スピーカー間の距離が1.2m（4ft)以上の場合

5

Setupボタンを押す

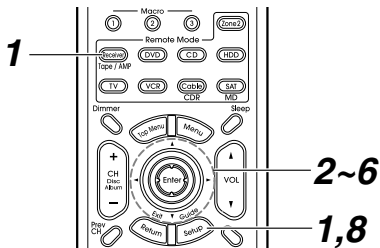
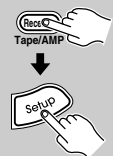
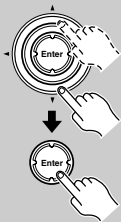
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、Returnボタンを押してください。

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

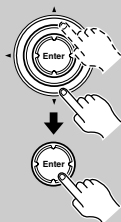
スピーカーの音場補正

簡単スピーカー設定（☞36ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整できます。各スピーカーの音量は61ページで調整できます。ここでは、それぞれのスピーカーの音域別で音量を調整します。

1

AMPボタンを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

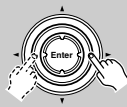
2

▲/▼ボタンを押して「3. Speaker Setup」を選び、Enterボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して「Equalizer Settings」を選び、Enterボタンを押す

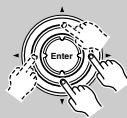
イコライザー設定画面が表示されます。

3-6.Equalizer Settings
a.Use Settings : Manual
b. Channel :Left
c. 80Hz : 0dB
d. 250Hz : 0dB
e. 800Hz : 0dB
f . 2.5kHz : 0dB
g. 8kHz : 0dB

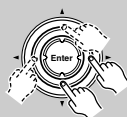
4

◀/▶ボタンを押して「Use Settings」を設定する

Off：すべての音域で同じ音量になります。
Auto：簡単スピーカーで設定された音量になります。
Manual：お好みで設定できます。

「Manual」を選んだ場合は、手順**5**に進みます。「Off」または「Auto」を選んだ場合は、手順**8**に進みます。

5

▲/▼ボタンを押して「Channel」を選び、◀/▶ボタンで「スピーカー」を選ぶ

3-6.Equalizer Settings
a.Use Settings : Manual
b. Channel :Left
c. 80Hz : 0dB
d. 250Hz : 0dB
e. 800Hz : 0dB
f . 2.5kHz : 0dB
g. 8kHz : 0dB

6

▲/▼ボタンで「調整したい音域（周波数）」を選び、◀/▶ボタンで調整する

−6dB〜+6dBの範囲で調整できます。

！ヒント

80Hzなど、低い周波数は低音域、8kHzなどの高い周波数は高音域を表します。

7

手順6をくり返し、接続したすべてのスピーカーを設定する

8

Setupボタンを押す

すべてのスピーカーの設定が終わったらSetupボタンを押します。メニュー画面が消えます。

● メインメニュー画面に戻るにはReturnボタンを押してください。

！ヒント

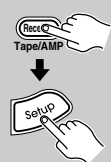
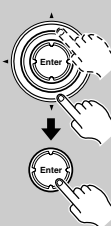
本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

ご注意

HDMI入力した176.4/192kHzの信号には効果がありません。

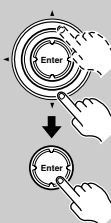
入力に名前をつける

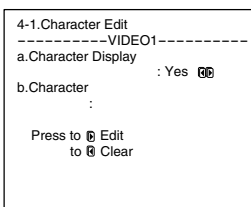
DVDやVIDEO 1などの各入力に名前をつけて表示させることができます。

1

AMPボタンを押してから
Setupボタンを押して、
「メインメニュー」を表示させる

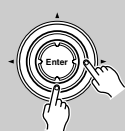
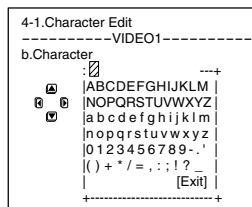
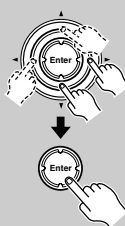
2

▲/▼ボタンを押して
「4. Input Setup」を選び、
Enterボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して
「Character Edit」を選び、
Enterボタンを押す

4

◀/▶ボタンで
「Character Display」を
設定する

Yes：入力につけた名前を表示します。
No：入力につけた名前は表示しません。
（お買い上げ時の設定）

5

▼ボタンを押して
「Character」を選び、▶ボタンを押して文字入力画面へ進む

6

▲/▼/◀/▶ボタンを押して入力したい文字を選び、Enterボタンを押す

Returnボタンを押すと、1つ前の文字に戻ります。
Enterボタンを押すと、次の文字に移動します。

文字を訂正するときは：

1.ReturnボタンまたはEnterボタンをくり返し押して、訂正する文字を選ぶ
2.▲/▼/◀/▶ボタンで正しい文字を選んで、Enterボタンを押す

10文字に満たないときは、「Exit」を選んでEnterボタンを押してください。

7

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、Returnボタンを押してください。

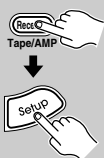
！ヒント

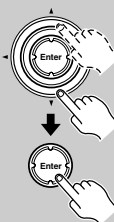
- 本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。
- マルチチャンネル入力はDVDと同じ名前になります。

■名前を消すときは

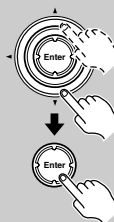
手順***5*** で「Character」を選び、◀ボタンを押してください。

お好みの設定をする

1

AMPボタンを押してから Setupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「7. Preference」を選び、Enterボタンを押す

プリファレンスセットアップメニューが表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して、設定したい「メニュー」を選び、Enterボタンを押す

```
7.Preference
-------------------------
1.Intelli Volume
2.Volume Setup
3.OSD Setup
4.OSD Position
5.12V Trigger A Setup
6.12V Trigger B Setup
7.12V Trigger C Setup
8.HDMI Setup
9.Lock Setup
```

4

▲/▼ボタンを押して設定したい「項目」を選び、◀/▶ボタンで選択する

Returnボタンを押すと、1つ前の画面に戻ります。

5

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

機器間の音量差を減らす（IntelliVolume）

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。この設定は、ゾーン2には効果がありません。
▲/▼ボタンで入力を選び、◀/▶ボタンで調整してください。
他の機器と比べて音量が大きい場合は◀ボタン、小さい場合は▶ボタンを押して調整します

- －12dB～＋12dBの範囲で調整できます。

ボリューム設定（Volume Setup）

Volume Display

ボリュームの表示方法を絶対値と相対値に切り換えることができます。

Absolute（絶対値）
MIN･1･2…99･MAXの範囲で表示します。

Relative（相対値）（お買い上げ時の設定）
－∞dB･－81dB･－80dB･・・・・･＋18dBの範囲で表示します。絶対値の音量82が相対値の0dBに相当します。

Muting Level

ミュート時の音量を聞いている音よりどれだけ下げるか設定しておくことができます。10dB単位で－∞dB、－50dB～－10dBの範囲で設定できます。お買い上げ時の設定は、－∞dBです。

Maximum Vol/Z2 Maximum Vol

音量が大きくなり過ぎないように、音量の最大値を設定することができます。
相対値表示の場合は、－32dB～＋17dBの範囲内で設定できます。（ゾーン2は、－32dB～－1dBの範囲内で設定できます。）
絶対値表示の場合は、50～99の範囲内で設定できます。（ゾーン2は、50～81の範囲内で設定できます。）
設定しないときは「Off」を選びます。

Power On Vol/Z2 Power On Vol

本機の電源を入れたときの音量を一定に設定しておくことができます。
相対値表示の場合は、－∞dB、－81dB～＋18dBの範囲内で設定できます。（ゾーン2は、－∞dB、－81dB～0dBの範囲内で設定できます。）
絶対値表示の場合は、Min･1･2…99･Maxの範囲内で設定できます。（ゾーン2は、Min･1･2…81･Maxの範囲内で設定できます。）
本機をスタンバイ状態にする前の音量をそのまま残したい場合は「Last」を選びます。

ご注意　「Maximum Vol」で設定した値より高く設定することはできません。

Headphones Level

スピーカーで聞くときとヘッドホンで聞くときの音量に差がある場合、ヘッドホンの音量を微調整しておくことができます。－12dB～＋12dBの範囲で調整できます。

OSDの設定（OSD Setup）

操作内容の表示を設定します。

Immediate Display

本機を操作したときに、操作内容を画面に表示するかどうかを設定します。（ただし、Onに設定しても、再生機器をCOMPONENT VIDEO入力端子、D4 VIDEO入力端子、HDMI入力端子に接続しているときは、操作内容は表示されません。）
より良い映像をお楽しみいただくために、THXでは、Offに設定することをお勧めします。

On：表示します。（お買い上げ時の設定）
Off：表示しません。

Monitor Type

操作内容の表示がテレビ画面からはみ出たり、伸びて映っている場合は、お持ちのテレビに合わせて設定してください。

4：3：ご使用のテレビが4：3のとき設定します。（お買い上げ時の設定）
16：9：ご使用のテレビが16：9のとき設定します。

Display Position

操作内容の表示をテレビ画面のどの位置に表示させるかを設定します。

Bottom：画面の下方に表示します。（お買い上げ時の設定）
Top：画面の上方に表示します。

OSDの位置（OSD Position）

画面に表示されたOSDメニューの位置を微調整できます。使用するテレビによっては、OSDメニューが中央に表示されず、メニューの一部が表示されないことがあります。
OSDメニューの位置調整には、▲/▼◀/▶ボタンを使用します。移動したい方向の▲/▼◀/▶ボタンを押すたびに、メニューが少しずつ移動します。
Enterボタンを押すと、お買い上げ時の設定にもどります。

12Vトリガー信号の設定（12V Trigger A/B/C Setup）

74ページをご覧ください。

HDMIの音声出力設定（HDMI Setup）

HDMI Audio Out

HDMI端子から音声出力を「する/しない」の設定ができます。本機のHDMI OUT端子とテレビのHDMI入力端子を接続していて、テレビのスピーカーから音声を聞きたいときなどに設定します。通常は「Off」にしておいてください。

Off：出力しません。（お買い上げ時の設定）
On：出力します。

ご注意
入力信号やテレビによっては、Onにしても音が出ない場合があります。

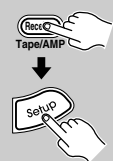
設定した内容をロックする（Lock Setup）

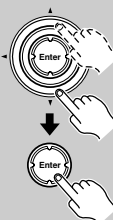
誤って設定を変更してしまわないように、設定したメニューにロックをかけることができます。

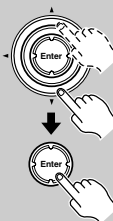
Locked：ロックをかけます。ロックされた項目は、設定できなくなります。（OSDメニューでは、ロックされた項目に（　）がつきます。）
Unlocked：設定操作にロックをかけません。（お買い上げ時の設定）

デジタル入力信号の設定

DTSやPCM信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、設定することをおすすめします。デジタル入力をDTSまたはPCMに固定することができます。

1

AMPボタンを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

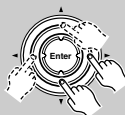
2

▲/▼ボタンを押して「2. Digital Input」を選び、Enterボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して、デジタル入力端子が設定されている入力を選び、Enterボタンを押す

Digital Format画面が表示されます。

2-1.Digital Format

a.DVD	: Auto
b.VIDEO 1	: Auto
c.VIDEO 2	: ----
d.VIDEO 3	: Auto
e.VIDEO 4	: Auto
f .TAPE	: ----
g.TUNER	: ----
h.CD	: Auto
i .PHONO	: ----

4

▲/▼ボタンを押して入力を選び、◀/▶ボタンでPCM、DTSまたはAutoを選ぶ

Auto：デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

PCM：AutoでCDなどのPCMの曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。PCM以外の音声が入力されても音は出ません。本機表示部のPCMインジケーターが点滅します。

DTS：AutoでDTS-CDを再生するとき、DTS信号を識別して読み取る間や、CDの早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS以外の音声が入力されても音は出ません。本機表示部のDTSインジケーターが点滅します。

5

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、Returnボタンを押してください。

!ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

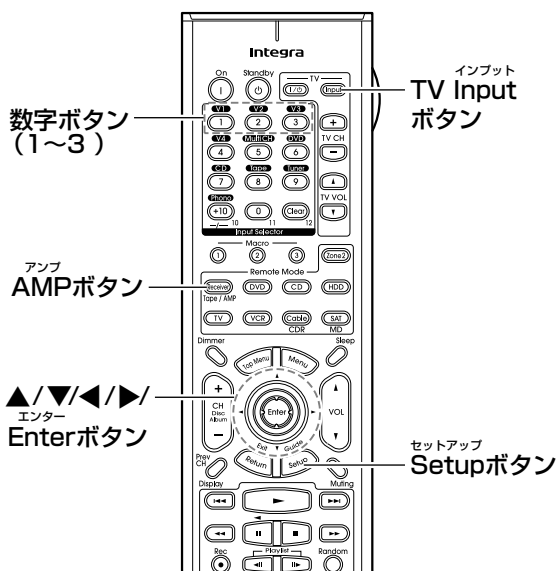
ご注意

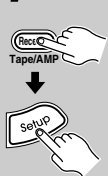
DTS対応のCDやLDを再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択すると、ノイズが出力されます。

リモコンの設定

インテグラ/オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のインテグラ/オンキヨー製品と区別をつけるために、リモコンIDを変更することができます。
お買い上げ時は、本体、リモコンともに「1」に設定されています。

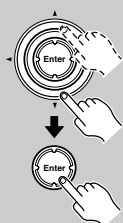
ご注意

リモコン、本体共に同じリモコンIDに設定する必要があります。

本機のリモコンIDを変更する

1

AMPボタンを押してから Setupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「8. Hardware Setup」を選び、Enterボタンを押す

3

▲/▼ボタンで「Remote ID」を選び、◀/▶ボタンで「1、2または3」の中から選ぶ

4

Setupボタンを押す

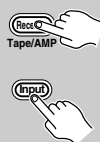
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、Returnボタンを押してください。

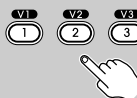
!ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

リモコンのリモコンIDを変更する

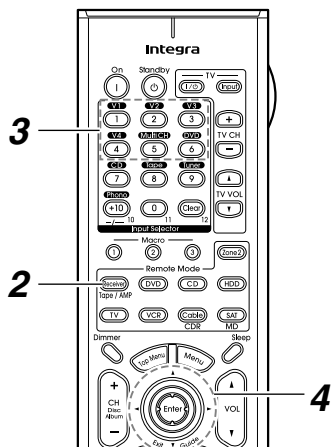
1

AMPボタンを押しながら、TV Inputボタンを押す

約4秒間、リモートインジケーターが点滅します。

2

点滅後、設定したいコードの数字ボタンを押す

1〜3から選べます。

映像と音声の再生にズレがあるとき

映像が音声より遅れて再生されるようなとき、この設定で映像信号と音声信号を同期させることができます。0〜250ms（ミリセカンド：千分の1秒）の範囲を1msステップで、音声の遅延を調整することができます。

1 調整したい入力を再生する

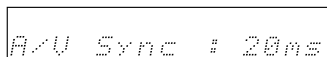
たとえばDVDの映像が音声より遅れている場合は、DVDを再生します。

2 リモコンのAMPボタンを押す

Tape/AMP

3 調整したい入力の入力切換ボタンを約4秒間押し続ける

本体の表示部が設定画面に切り換わります。

A/V Sync : 20ms

この操作は「DVD」、「Multi CH」、「Video 1」、「Video 2」、「Video 3」、「Video 4」ボタンで働きます。

4 ◀/▶ボタンで設定を調整する

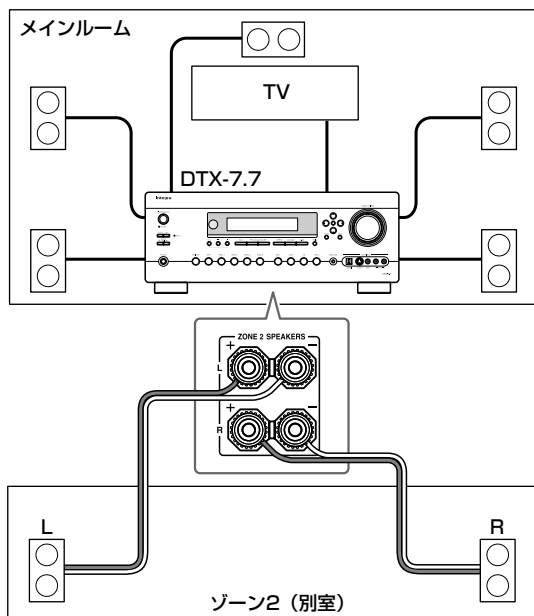
再生される映像を見ながら調整します。0〜250msの範囲を1msステップで調整できます。映像と音声が同期するように、音声の遅延を調整してください。

ゾーン2（別室）で音楽を鑑賞する

別室用のスピーカーやアンプを接続してゾーン2（別室）で異なるソースをお楽しみいただくことができます。
別室でお楽しみいただくには、2つの方法があります。

接続と設定のしかた

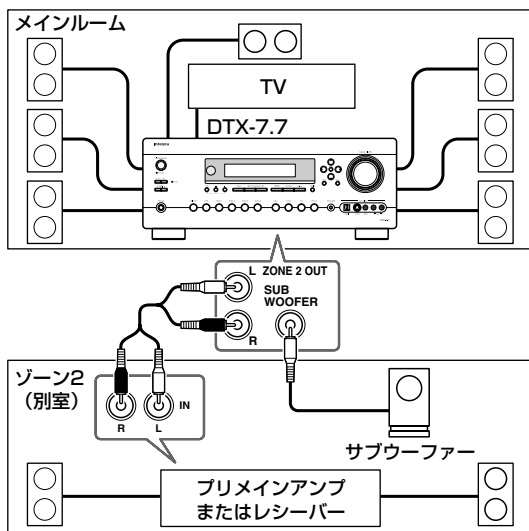
スピーカーだけを接続する場合

- メインルームで5.1チャンネル再生をしながら、別室で異なるソースを再生できます。
- 音量は本機で調整します。

1 別室で使用するスピーカーを本機のZONE 2 L/R SPEAKERS端子に接続する

2 セットアップメニューの設定をする

Powered Zone 2の設定を「Act」にします。（☞71ページ）

プリメインアンプまたはレシーバーを接続する場合

- メインルームで7.1チャンネル再生をしながら、別室で異なるソースを再生できます。
- 音量は別室で使用するプリメインアンプまたはレシーバーで調整してください。音量調節できないパワーアンプと接続するときは、本機で調整することもできます。

1 別室で使用するプリメインアンプまたはレシーバーとサブウーファーを本機に接続する

本機のZONE 2 OUT L/R端子にプリメインアンプまたはレシーバーの音声入力端子を接続し、ZONE 2 OUT SUBWOOFER端子に、アンプ内蔵のサブウーファーを接続してください。

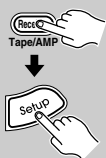
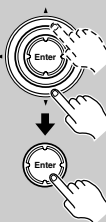
2 別室で使用するスピーカーをプリメインアンプまたはレシーバーに接続する

3 セットアップメニューの設定をする

音量調整できないパワーアンプと接続するときは、ZONE 2 Outの設定を「Variable」にすると、本機で音量を調整することができます。（☞71ページ）
プリメインアンプやレシーバーと接続するときは、お買い上げ時の設定のままでご使用いただけます。

Powered Zone 2の設定をする

ZONE 2 SPEAKERS端子にゾーン2用のスピーカーを接続したときは、この設定を「Act」にします。

1

AMPボタンを押してから、Setupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「8. Hardware Setup」を選び、Enterボタンを押す

```
8.Hardware Setup
-------------------------
a.PoweredZone2 :   NotAct
b.Zone2 Out    : Fixed
c.Remote ID          : 1
```

3

▲/▼ボタンで「Powered Zone 2」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

Not Act：ゾーン2スピーカーは働きません。（お買い上げ時の設定）

Act：ゾーン2スピーカーが働きます。
ゾーン2が「オン」になっているときは、サラウンドバックスピーカーが働きません。

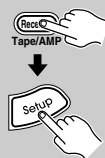
4

Setupボタンを押す

設定が終了します。

Zone 2 Outの設定をする

ZONE 2 OUT端子に音量調整機能の無いパワーアンプを接続したときは、この設定を「Variable」にします。

1

AMPボタンを押してから、Setupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「8. Hardware Setup」を選び、Enterボタンを押す

```
8.Hardware Setup
-------------------------
a.PoweredZone2 :   NotAct
b.Zone2 Out    : Fixed
c.Remote ID          : 1
```

3

▲/▼ボタンで「Zone 2 Out」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

Fixed：ZONE 2 OUT端子は出力の音量が固定されますので、ゾーン2（別室）の音量はゾーン2用のアンプで調整します。（お買い上げ時の設定）

Variable：ゾーン2（別室）の音量は本機で調整することができます。

4

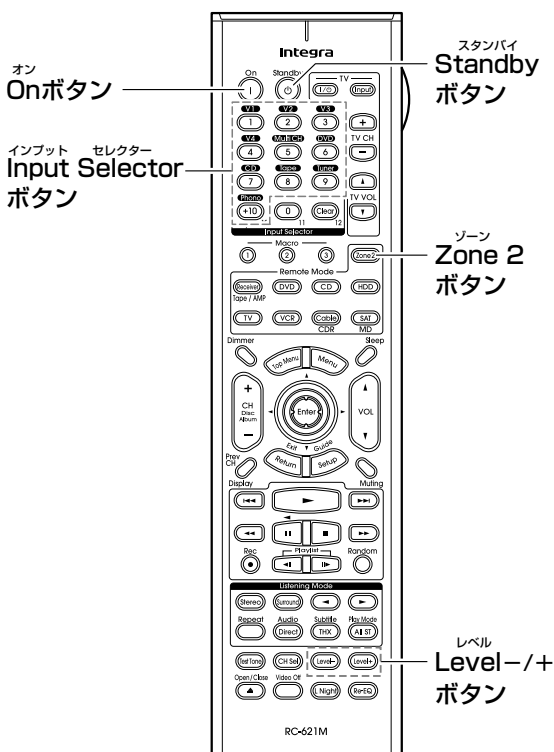
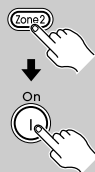
Setupボタンを押す

設定を終了します。

ゾーン2（別室）で音楽を鑑賞する

- ゾーン2では、デジタル信号の再生はできまん。アナログ信号のみ再生できます。
- ZONE 2 L/R SPEAKERS端子に接続したスピーカーを使用しているときは、メインルームでサラウンドバックスピーカーを使用するリスニングモード（Dolby Digital EXなど）は選べません。
- ゾーン2が働いているときは、連動機能は働きません。
- メインルームとゾーン2（別室）でラジオを聞くときは、異なるバンドは選べません。（どちらもFMまたはどちらもAMになります。）

リモコンで操作する

1

ゾーン2の電源を入れる

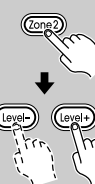
Zone 2ボタンを押してから、Onボタンを押します。

Zone 2インジケーターが点灯します。

2

ソースを選ぶ

Zone 2ボタンを押してから、Input Selectorボタンを押します。

3

音量を調整する

Zone 2ボタンを押してから、Level−/＋ボタンを押して調整します。

音量は、−∞dB、−81dB〜0dBの範囲で(Relative表示のとき）調整できます。(Absolute表示のときは、Min、1〜81、Maxの範囲で調整できます。）

ご注意

- プリメインアンプまたはレシーバーを接続している場合は、接続した機器側で音量を調整します。
- ゾーン2の音量を一時的に小さくするには、Zone 2ボタンを押してから、Mutingボタンを押します。
  解除するには、再度Zone 2ボタンを押してから、Mutingボタンを押します。

4

ゾーン2をオフにする

ゾーン2を使用しないときは、Zone 2ボタンを押してから、Standbyボタンを押してください。

本体で操作する

Zone2ボタン

Zone2 Offボタン

Zone2インジケーター

Zone2 Level▲/▼ボタン

1

Zone 2

本体の電源をオンにしてから、ゾーン2のソースを選ぶ

Zone 2ボタンを押してゾーン2の電源を入れます。
Zone 2ボタンをくり返し押して、ソースを選びます。
Zone 2インジケーターの点滅中に入力切換ボタンを押して、ソースを選ぶこともできます。

ゾーン2とメインルームのソースを同じソースにするには

Zone 2ボタンをくり返し押して、「Zone 2 Sel：Source」と表示させます。

2

Zone 2 Level ▼ ▲

音量を調整する

Zone 2 Level▲/▼ボタンを押して音量を調整します。
音量は、−∞dB、−81dB〜0dBの範囲で(Relative表示のとき）調整できます。（Absolute表示のときは、Min、1〜81、Maxの範囲で調整できます。）

プリメインアンプまたはレシーバーを接続している場合は、接続した機器側で音量を調整します。

3

ゾーン2をオフにする

ゾーン2を使用しないときは、Zone 2ボタンを押してから、Standby/Onボタンを押すか、Zone 2 Offボタンを押して「Off」にします。

ゾーン2の音質を調整する

ゾーン2のBass、Treble、Balanceを調整します。

Tone−/＋ボタン

Toneボタン

Zone2ボタン

1

Zone 2ボタンを押してからToneボタンをくり返し押して、「Bass(低音)」、「Treble(高音)」または「Balance（バランス)」を選ぶ

2

− ＋

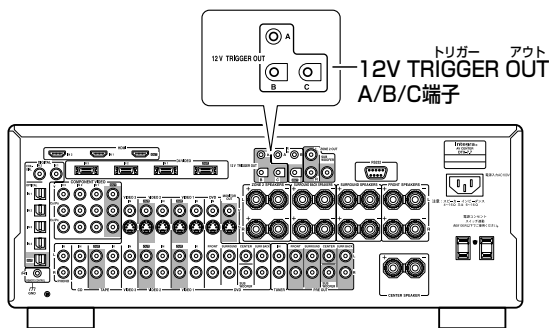
Tone−/＋ボタンを押して、調整する

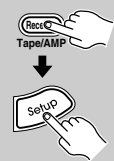
Bass、Treble：
お買い上げ時は「0」ですが、−10dBから＋10dBの範囲内で2dBずつ調整できます。

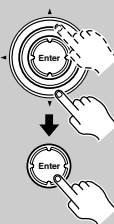
Balance ：
ゾーン2での左右のスピーカーのバランスを調整します。
左右とも0から＋10の範囲内で2ずつ調整できます。
バランスは、Powered Zone 2の設定が「Not Act」のときと、Zone 2 Outが「Fixed」のときは調整できません。

ゾーン2（別室）で音楽を鑑賞する

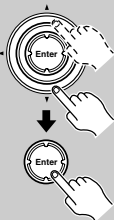
ゾーン2とメインルームの12V Trigger信号の設定をする

本機の12V TRIGGER OUT端子を、接続している機器の12V TRIGGER IN端子に接続しているとき、入力ごとにどの部屋で使うときにトリガー信号を出力させるのかを設定します。

接続には抵抗なしのミニプラグケーブルをご使用ください。

1

AMPボタンを押してから、Setupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「7. Preference」を選び、Enterボタンを押す

7.Preference
- 1.Intelli Volume
- 2.Volume Setup
- 3.OSD Setup
- 4.OSD Position
- 5.12V Trigger A Setup
- 6.12V Trigger B Setup
- 7.12V Trigger C Setup
- 8.HDMI Setup
- 9.Lock Setup

3

▲/▼ボタンで「12V Trigger A、BまたはC Setup」を選び、Enterボタンを押す

4

▲/▼ボタンで「Delay」または「入力ソース」を選び、◀/▶ボタンで設定をする

5

Setupボタンを押す

設定を終了します。

Trigger A/B/C Setup

12Vトリガー A/B/C端子の設定です。

- **Off**：12Vトリガーを使用しないときに選びます。
- **Main**：接続している機器をメインルームで使用するときだけトリガー信号を出力させたい場合に選びます。
- **Zone 2**：接続している機器をゾーン2で使用するときだけトリガー信号を出力させたい場合に選びます。
- **Main/Zone 2**：接続している機器をメインルームまたはゾーン2で使用するときトリガー信号を出力させたい場合に選びます。

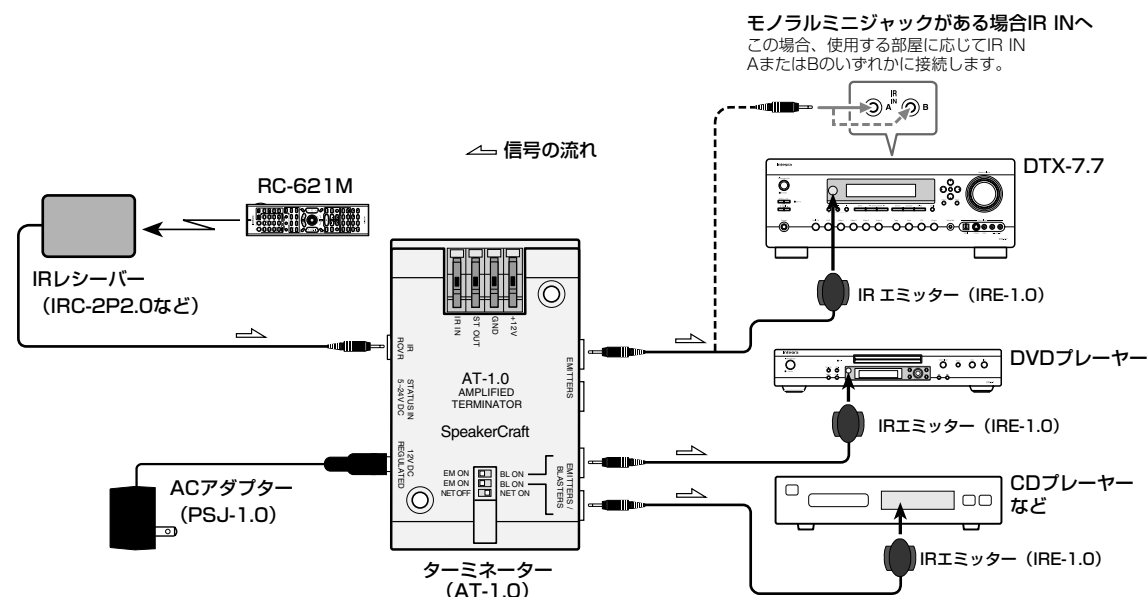
Delay

12Vトリガー接続をしている機器の電源が入るときに、機器によっては瞬間的に大容量の電流が流れる場合があります。これを防ぐため、メインルームまたはゾーン2の電源入力と本機からの12Vトリガー信号出力に時間差をつけることができます。また、電源入力を遅らせることで、不安なノイズ（ボコ音など）を避けることができます。

- **0 sec(秒)**：メインルームまたはゾーン2の電源入力に連動して同時にトリガー信号を出力する場合に選びます。
- **1 sec(秒)**：メインルームまたはゾーン2の電源入力から1秒後にトリガー信号を出力する場合に選びます。
- **2 sec(秒)**：メインルームまたはゾーン2の電源入力から2秒後にトリガー信号を出力する場合に選びます。
- **3 sec(秒)**：メインルームまたはゾーン2の電源入力から3秒後にトリガー信号を出力する場合に選びます。

リモコン信号が届かない場合は（マルチルームでリモコンを操作する）

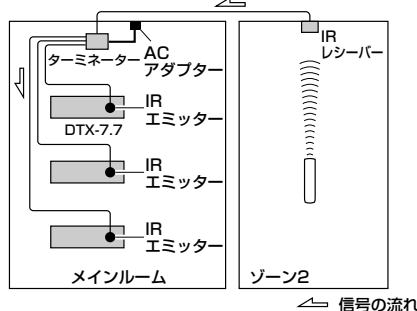
市販のマルチルームキットなどを使用して、本機にリモコン信号が届かない場所からでもリモコン操作をすることができます。ゾーン2（別室）でホームシアターを楽しんだり、機器をキャビネットに収納している場合などにご利用ください。
ここではスピーカークラフト社の赤外線コントロールシステムをご使用になった場合の例で説明します。
同セットには取扱説明書を同梱しておりますが、取り付けにあたっては壁内配線などを要する場合もございますので、同セット取り扱いのカスタムインストールができる販売店への依頼をお勧めいたします。
※マルチルーム用のキットによっては本機のIR IN OUT端子をご使用いただくことができます。その場合はマルチルームキットの説明書にしたがい、接続・設定をしてください。

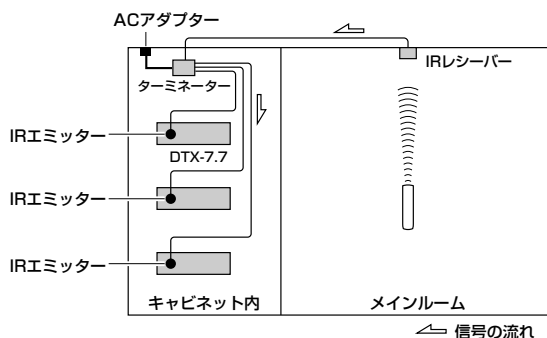
接続例

■ゾーン2（別室）で使用する場合

1. リモコンを使用する部屋にIRレシーバーを設置し、IRエミッターのエミッター側（赤外線を発射する部分）を機器のリモコン受光部に取り付けます。

！ヒント

モノラルのミニジャックケーブルがある場合は、IRエミッターを取り付ける代わりにミニジャックの片方をターミネーターに接続し、もう一方を本機のIR IN端子 に接続してもかまいません。

2. ターミネーターに、IRレシーバーとIRエミッターを接続し、ターミネーターのスイッチを適切な位置に合わせます。（システムに添付の取扱説明書等をご覧ください。）電源アダプターをターミネーターに接続します。

■キャビネットなどの中に入れて使用する場合

1. リモコン信号を受信しやすい場所にIRレシーバーを設置し、IRエミッターをキャビネット内に取り付けます。取り付けについての詳細は添付の取扱説明書等をご覧ください。
2. ターミネーターに、IRレシーバーとIRエミッターを接続し、ターミネーターのスイッチを適切な位置に合わせます。（システムに添付の取扱説明書等をご覧ください。）電源アダプターをターミネーターに接続します。

接続した製品を本機のリモコンで操作する

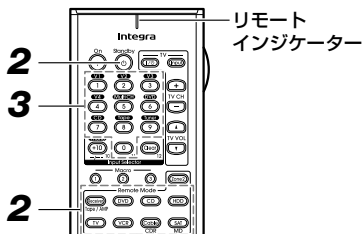
本機に付属のリモコン（RC-621M）で、他社の製品を操作したり、連続した操作を学習させることができます。操作するには、次の3つの方法があります。

- **他機（DVD、テレビ、ビデオなど）のリモコンコードを登録する**
- **他機のリモコンから指定した操作を学習させる**
- **マクロ機能を使って連続した操作を学習させる**

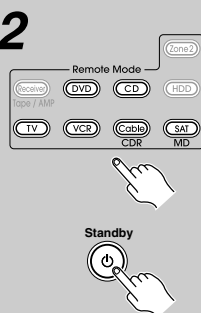
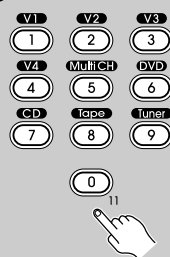
リモコンコードを登録する

他機のリモコンコードを本機リモコンの「Remote Modeボタン」に登録すると、本機のリモコンで他機を操作することができます。
リモコンコード表は、77、78ページをご覧ください。
それぞれのカテゴリーからコードを選んでください。

ご注意

- 他社のMDレコーダーとCDレコーダーのコードは、「CD」Remote Modeボタンに登録してください。
- Receiver（Tape/AMP）ボタンとHDDボタンには登録できません。

インテグラ/オンキヨー製品のコードを登録するときは…
RI接続用と非接続用の2種類のコード番号があります。
RI接続用のコード番号を登録したときは、本機のリモコン受光部にリモコンを向けて操作してください。
RI非接続用の場合はそれぞれの機器に向けて操作してください。

「DVD」… 5001　お買い上げ時の設定
　　　　5002（RI接続用）
「CD」… 6001　お買い上げ時の設定
　　　　6002（RI接続用）
「MD」… 6007
　　　　6008（RI接続用）
「CDR」… 6005
　　　　6006（RI接続用）

1 **登録する他機のメーカー別リモコンコード（4桁）を77、78ページのリモコンコード表で確かめる**

2 **登録したいRemote Modeボタンを押しながら、Standbyボタンを押す**

3 **30秒以内に、数字ボタンで4桁のリモコンコードを入力する**

リモートインジケーターが2回点滅したら、登録完了です。

4 **他機を操作する**

登録した機器に向けて操作してください。

!ヒント

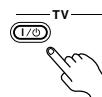
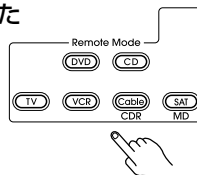
正しく動作しない場合は、もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある機器は、他のコードも試してください。
動作しない操作ボタンには、他機のリモコンから学習させることもできます。（☞81ページ）

Remote Modeボタンのお買い上げ時の設定（初期設定）への戻しかた

1. お買い上げ時の設定に戻したいModeボタンを押しながら、TV（I/⏻）ボタンを押します。
2. リモートインジケーターが点滅し終わってから、もう一度そのModeボタンを押すと、お買い上げ時の設定に戻ります。

リモコンをお買い上げ時の設定に戻すには

リモコンをお買い上げ時と同じ状態に戻すには、以下の操作をしてください。

1. AMPボタンを押しながら、Standbyボタンを押します。
2. リモートインジケーターが点滅し終わってから、もう一度AMPボタンを押します。
   リモートインジケーターが点滅し終わったら、設定完了です。

リモコンコード表

複数のコード番号があるときは、1つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。

DVDボタン

■DVDプレーヤー

ブランド名	コード番号
デノン	0517
日立	0600, 0691
日本ビクター（JVC）	0585, 0650
ケンウッド	0517, 0561
LG	0768
マランツ	0566
三菱	0548
インテグラ/オンキヨー	5001, 5002（RI）
パナソニック	0517, 0659, 1389
フィリップス	0530, 0566, 0673, 0881
パイオニア	0552, 0598, 0658, 0659
サムスン	0600
サンヨー	0697
シャープ	0657
ソニー	0560, 0891
トムソン	0549
東芝	0530
XBox	0549
ヤマハ	0517, 0566, 0572

■DVDレコーダー

ブランド名	コード番号
パナソニック	5006
パイオニア	5004
シャープ	5003
ソニー	5007
東芝	5005

CDボタン

■CDプレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	0184
デノン	0900
Harman/Kardon	0184, 0200
日立	0059
日本ビクター（JVC）	0099
ケンウッド	0708, 0653, 0055, 0064
マランツ	0653, 0056, 0184
オンキヨー	6001, 6002（RI）
パナソニック	0056
フィリップス	0653, 0184
パイオニア	0059, 0332
サンヨー	0206
シャープ	0888, 0064
ソニー	0517, 0027

■MDレコーダー

ブランド名	コード番号
ケンウッド	0708
シャープ	0888
ソニー	0517

■CDレコーダー

ブランド名	コード番号
ケンウッド	0653
マランツ	0653
フィリップス	0653

TVボタン

■テレビ

ブランド名	コード番号
エプソン	0860, 6004
富士通ゼネラル	0710, 0836
フナイ	0207, 0198, 0291
日立	0057, 0205, 1172, 0172, 1283, 0036, 0119, 0132, 0136, 0190, 0252, 0383, 0508, 0575, 0605
日本ビクター（JVC）	0490, 0080, 0398, 0680, 0710
LG	0087, 0057, 0205, 0064, 0135, 0741
三菱	0181, 0277, 0120, 0263, 0207, 0177, 1277, 0057, 0205, 0135, 0539, 0863
NEC	0181, 0183, 0078, 0057, 0205, 0036, 0197, 0482, 0524, 1731
オリオン	0263, 0490, 0064, 0347, 0543
パナソニック	0081, 0277, 0078, 0064, 0190, 0677, 1437
フィリップス	0081, 0027, 0078, 0057, 0205, 1481, 0064, 0119, 0135, 0401, 0583, 0717
パイオニア	0193, 0136, 0190, 0314, 0706, 0787, 0893
サムスン	0181, 0087, 0839, 0729, 0057, 0205, 0036, 0064, 0117, 0119, 0291, 0397, 0583, 0614, 0645, 0793, 0841
サンヨー	0181, 0207, 0131, 0235, 0366, 0826
シャープ	0120, 0057, 0677
ソニー	1127, 0027, 0677, 0861, 1532, 1678
トムソン	1474, 0136, 0314, 0587, 0652
東芝	0181, 0183, 0087, 1283, 0535, 0645, 0677, 0859, 1383, 1683, 1731

接続した製品を本機のリモコンで操作する

VCRボタン (VCR)

■ビデオデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	0064, 0027, 0334, 0375, 0379
富士通ゼネラル	0072, 0027
フナイ	0027
日立	0064, 0267, 0027, 0069, 0068
日本ビクター（JVC）	0072, 0094, 0068
LG	0064, 0072, 0069, 0507
三菱	0108, 0094, 0070, 0068, 0834
NEC	0062, 0064, 0075, 0131, 0094, 0068
オリオン	0211, 0375, 0379, 1506
パナソニック	0062, 0252, 0253, 0643, 1062, 1589
フィリップス	0062, 0108, 0645, 1108, 1208
パイオニア	0108, 0069, 0094
サムスン	0267, 0072, 0459
サンヨー	0074, 0267, 0131
シャープ	0075, 0834
ソニー	0062, 0059, 0060, 0027, 0663, 1259
トムソン	0087, 0094, 0068, 0347
東芝	0108, 0072, 0094, 0070, 0068, 0872

Cable/CDRボタン (Cable CDR)

■CDレコーダー

ブランド名	コード番号
オンキヨー	6005, 6006（RI）

■ケーブルテレビ

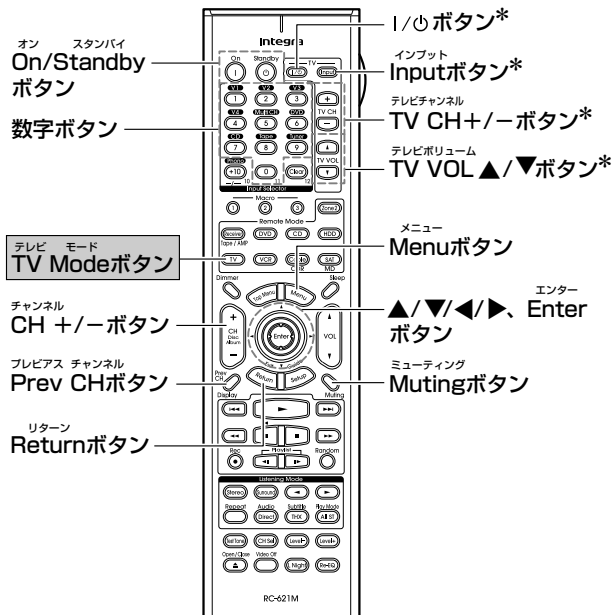
ブランド名	コード番号
パナソニック	0027, 0035, 0134
フィリップス	0332, 0344
パイオニア	0904, 1904, 0171, 0560
サムスン	0027, 0171

SAT/MDボタン (SAT MD)

■MDレコーダー

ブランド名	コード番号
オンキヨー	6007, 6008（RI）

■衛星放送チューナー

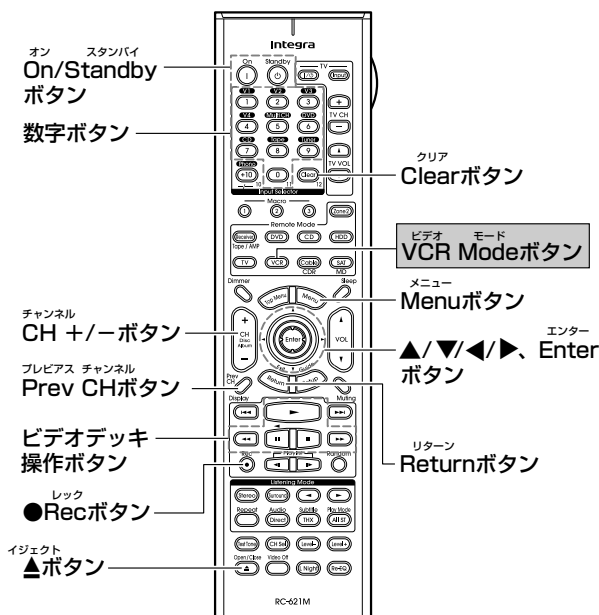
ブランド名	コード番号
日立	0846, 0482
ヒューマックス	0890, 1203
日本ビクター（JVC）	0802
三菱	0776
パナソニック	0274, 0728, 0874, 1347
フィリップス	1169, 0776, 1776, 0751, 1103, 0749, 0160, 0227, 0482, 0880
パイオニア	0880
サムスン	1303, 1136, 1044, 1319
ソニー	0666, 1666, 0874
トムソン	0482, 0880, 1073, 1318
東芝	0776, 1776, 0817

テレビを操作する

1. TV Modeボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

On/Standby	：テレビの電源ON/OFF
0、1〜9	：数字ボタン
Muting	：テレビのミューティング
CH +/−	：チャンネル選択
Prev CH	：1つ前のチャンネルに戻る
▲/▼/◀/▶	：テレビの設定メニュー操作
Enter	：テレビの設定メニュー操作
Menu	：テレビの設定メニュー操作
Return	：テレビの設定メニュー操作

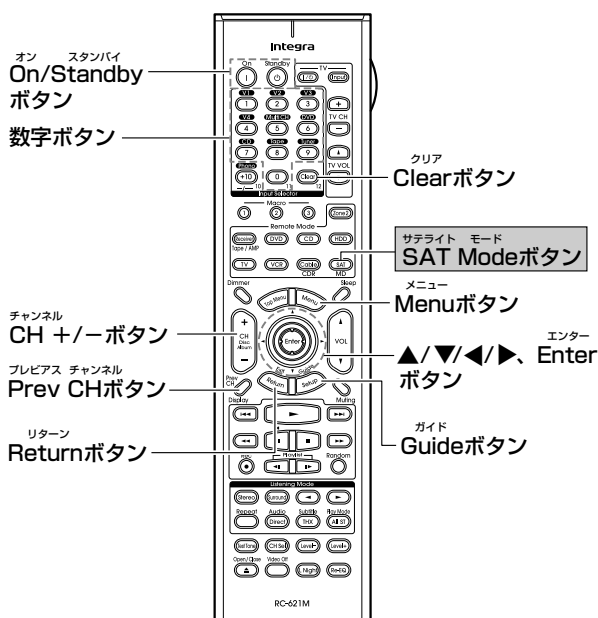
＊のついたボタンは、どのリモコンモードのときでもテレビを操作できます。

TV VOL ▲/▼	：テレビの音量調整
TV CH +/−	：チャンネル選択
TV I/⏻	：テレビの電源ON/OFF
TV Input	：テレビの入力切換

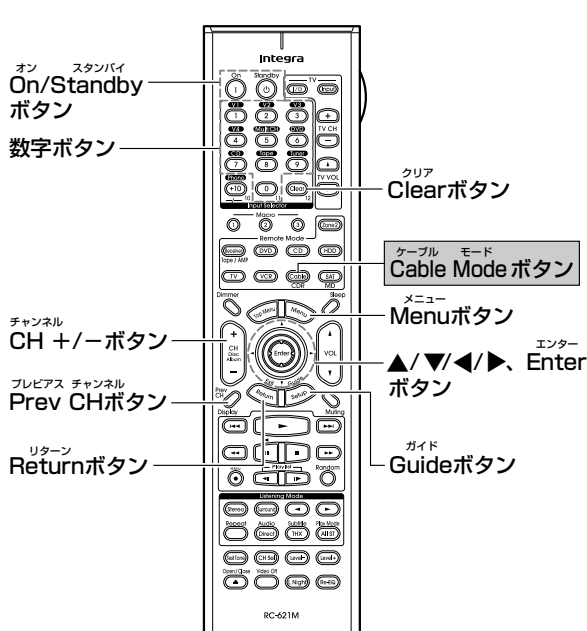
ビデオデッキを操作する

1. VCR Modeボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

On/Standby	：ビデオデッキの電源ON/OFF
CH +/−	：チャンネル選択
▶	：再生
■	：停止
◀◀	：巻戻し
▶▶	：早送り
II	：一時停止
●Rec	：録音
0、1〜9	：数字ボタン
Prev CH	：1つ前のチャンネルに戻る
▲/▼/◀/▶	：ビデオデッキの設定メニュー操作
Enter	：ビデオデッキの設定メニュー操作
Menu	：ビデオデッキの設定メニュー操作
Return	：ビデオデッキの設定メニュー操作
Clear	：設定を取り消す
▲	：ビデオテープを取り出す

接続した製品を本機のリモコンで操作する

BSチューナーを操作する

1. SAT Modeボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

On/Standby	：BSチューナーの電源ON/OFF
CH +/−	：チャンネル選択
0、1～9	：数字ボタン
▲/▼/◀/▶	： BSチューナーの設定メニュー操作
Enter	： BSチューナーの設定メニュー操作
Menu	： BSチューナーの設定メニュー操作
Return	： BSチューナーの設定メニュー操作
Clear	：設定を取り消す
Prev CH	：1つ前のチャンネルに戻る
Guide	：ガイドメニューを表示する

ケーブルテレビを操作する

1. Cable Modeボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

On/Standby	：ケーブルテレビの電源ON/OFF
CH +/−	： チャンネル選択
0,1～9	： 数字ボタン
▲/▼/◀/▶	： ケーブルテレビの設定メニュー操作
Enter	： ケーブルテレビの設定メニュー操作
Menu	： ケーブルテレビの設定メニュー操作
Return	： ケーブルテレビの設定メニュー操作
Clear	：設定を取り消す
Prev CH	：1つ前のチャンネルに戻る
Guide	：ガイドメニューを表示する

ご注意

機器やメーカーによっては、動作が異なったり、動作しない場合があります。動作しないボタンには、他機のリモコンから操作を学習させてください。(☞81ページ)

他機のリモコンから指定した操作を学習させる

他機のリモコンの操作を１つずつ転送し、本機のリモコンに学習させることができます。
76ページでリモコンコードを登録した後で、不足している操作や追加したい操作を1つずつ学習させると便利です。

たとえば、他機のCDプレーヤーのリモコンから再生機能を転送し、本機リモコンのCDモードの再生ボタンに学習させることができます。

ご注意

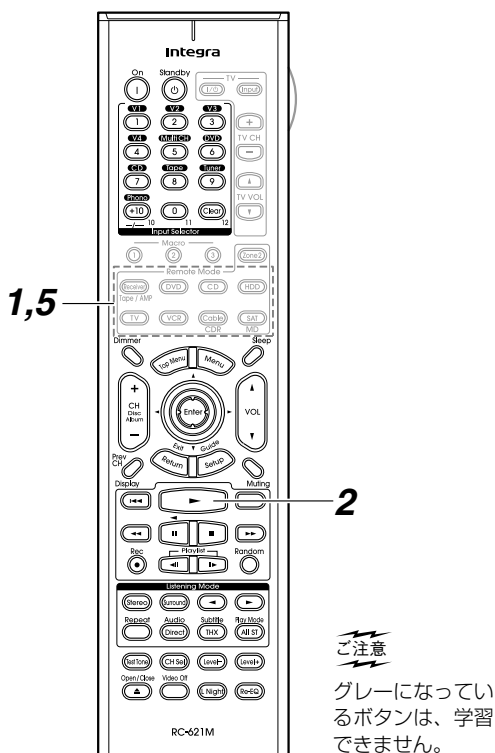
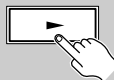
グレーになっているボタンは、学習できません。

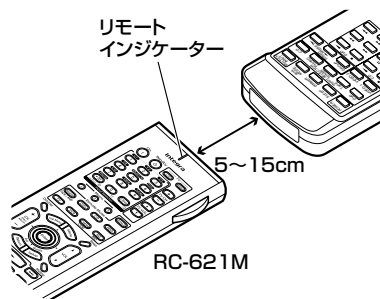
1

学習させたいRemote Modeボタンを押しながら、Onボタンを押す

2

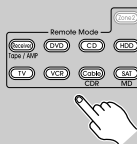
RC-621Mの学習させたい操作ボタンを押す

Remote Modeボタン、Macro 1〜3ボタン、TV I/⏻、TV Input、TV CH +/−、TV VOL▲/▼、Lightボタン以外のボタンから選んでください。

3

学習させる他機のリモコンボタンを押す

他機のリモコンと本機のリモコン（RC-621M）を5cm〜15cm離して置き、他機のリモコンボタンを本機のリモコンに向かって押し続けます。

正しく学習できるとリモートインジケーターが2回点滅します。

4

別の操作ボタンを学習する場合は、手順2、3をくり返す

5

学習を終了する場合は、手順1で押したRemote Modeボタンを押す

ご注意

- 本機のリモコンは、基本的に70〜90個の操作を学習できます。他機のリモコンによっては、ひとつのボタンで多くのエリアを使用する場合があります。その場合、学習できるエリアは70〜90個より少なくなります。
- 本機のリモコンは、インテグラ/オンキヨー製ＣＤプレーヤー、チューナー、テープデッキ、ＤＶＤプレーヤーのコードをすでに記憶しています。これらのボタンに他のコードを記憶させることもできますが、リセットすると元のコードに戻ります。
- コードが登録されているボタンに、新しいコードを上書きして記憶する時も同じ手順で操作します。
- 本機のリモコンはほとんどのリモコンと同様に赤外線を利用しています。しかし、リモコンによっては、転送システムの違いによってコードを転送できないものがあります。
- 電池切れなどの理由でリモコンコードが消えてしまった場合のために、他機のリモコンは大切に保管しておいてください。

接続した製品を本機のリモコンで操作する

マクロ機能を使って連続した操作を学習させる

マクロ機能とは

連続した操作を1つのボタンに学習させることができます。たとえば、リモコンを使って本機に接続したCDプレーヤーを再生するには以下のようなボタン操作が必要となります。

1. **Remote ModeボタンのAMPボタンを押す**

   リモコンをアンプモードにします。

2. **Onボタンを押す**

   本機の電源を入れます。

3. **Input SelectorボタンのCDボタンを押す**

   本機の入力をCDに切り換えます。

4. **Remote ModeボタンのCDボタンを押す**

   リモコンをCDモードにします。

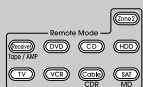
5. **▶ボタンを押す**

   CDプレーヤーを再生します。

これらの操作を下記の手順でマクロ学習させると、1つのボタンで操作することができます。

マクロを学習させる

MACRO1～3ボタンにそれぞれマクロを学習させることができます。1つのマクロに対して8つまでの操作が学習できます。

1

一番初めに学習させる操作のRemote Modeボタンを押しながら、Macro 1（または2、3）ボタンを押す

リモートインジケーターが点灯します。

例：

Remote ModeボタンのAMPボタンを押す

2

記憶させたい操作ボタンを操作順に連続して押す

例：

Onボタンを押す

↓

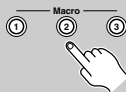
Input SelectorボタンのCDボタンを押す

↓

Remote ModeボタンのCDボタンを押す

↓

▶ボタンを押す

3

手順1で押したMacroボタンを押す

学習が完了します。

- 8つ目の操作を学習するとリモートインジケーターが点滅し、自動的に学習を完了します。8つよりも少ない操作を学習させるときは、最後にMacroボタンを押します。

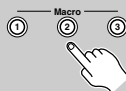
ご注意

- マクロを学習させた後、そこに含まれるボタンに他の操作を上書き学習させると、誤動作の原因になります。再度マクロ学習を行ってください。
- 9つ以上の操作を学習させることはできません。

- どのMacroボタンに何の操作を学習させたかをメモしておくことをおすすめします。

操作	マクロ1	マクロ2	マクロ3
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

マクロを実行する

1

操作したいMacroボタンを押す

操作を学習させたMacroボタンが使用できます。

マクロを消去する

1. **Remote ModeボタンのAMPボタンを押しながら、消去するMacroボタンを押す**
2. **もう一度Macroボタンを押して消去する**

困ったときは

まず下記の内容を点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
●文章の最後にある数字は参照ページ数です。

電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

- 保護回路が働いている可能性があります。電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音を出した瞬間に電源が切れる

- スピーカーケーブルがショートしていないか確認してください。

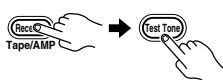
音声

音声が出力されない/小さい

音声信号の設定はされていますか？デジタル音声入力端子の設定を正しく行ってください。（41）

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの+/−は正しく接続されているか、スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。（19）
- 入力が正しく選択できているか確認してください。（44）
- ボリューム位置を確認してください。本機はお買い上げ時の設定では、基本的に−∞、−81、−80…+18まで調整できます。
- 表示部に“MUTING”と表示されている場合はリモコンのMutingボタンを押して解除してください。（45）
- ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプが必要です。
- DTSインジケーターやPCMインジケーターが点滅していないか確認してください。点滅している場合、それ以外の音声を出力しません。デジタル入力信号の設定で「Auto」にしてください。（67）
- リスニングモードによっては音声の出力されないスピーカーがあります。
- 簡単スピーカー設定で正しく測定されなかった可能性があります。「スピーカーの設定」を手動で行ってください。（58～63）
- HDMI入力した音声が出力されない場合は、プレーヤー側の出力設定や対応フォーマットを変更してください。

特定のスピーカーから音が出ない

テストトーンは出ますか？

リモコンのAMPボタンを押してからTest Toneボタンを押してテストトーンを出してください。CH Selボタンをくり返し押して、接続したすべてのスピーカーから個別にテストトーンが出ているか確認してください。
もう一度Test Toneボタンを押すと、テストトーンは止まります。

- 大きな音が出るのでご注意ください。

表示部にスピーカーの表示は出るが、テストトーンが出ない

- 音の出ないスピーカーの接続が正しくない可能性があります。
  スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。
  ケーブルが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。

テストトーンも出ず、表示部にも表示されない

- スピーカーの設定が正しくない可能性があります。
  「スピーカー環境」の設定を手動で行ってください。（58）

テストトーンは出るが、音が出ない

- 再生するソースによっては音が出にくいスピーカーがあります。
- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

表示と違うスピーカーから音が出る

- スピーカーの接続が正しくありません。それぞれのスピーカーが正しい端子に接続されているか確認してください。

困ったときは

リスニングモードによっては音が出ないスピーカーがあります

センタースピーカーからしか音が出ない

- テレビやAM放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをドルビープロロジックIIまたはドルビープロロジックIIxにすると、センタースピーカーに音が集中します。
- リスニングモードが「Mono」のとき、設定によってはセンタースピーカーからしか音が出ません。（55）

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」のときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ません。
- リスニングモードが「Mono」のとき、設定によってはセンタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ません。（55）

サラウンドバックスピーカーから音が出ない

- 再生ソースやリスニングモードによっては、サラウンドバックスピーカーの音が出にくい場合があります。
- ZONE 2 SPEAKERS端子に接続したスピーカーを使用しているときは、サラウンドバックスピーカーから音が出ません。

サブウーファーから音が出ない

- 再生ソースにサブウーファー音声要素(LFE)が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

希望する信号フォーマットで聴くことができない（Dolby Digital、DTSやAACのフォーマットにならない）

Dolby Digital、DTSやAACの音声を聴くためには、デジタル接続が必要です。

- デジタル音声入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。（41）
- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力がOFFになっていたり、PCMに設定されていることがあります。また、デジタル放送の番組によって出力が変化する機器もあります。

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

レイトナイト機能が働かない

- 再生ソースがドルビーデジタルか確認してください。

マルチチャンネル音声が出力されない

- マルチチャンネル対応のDVDプレーヤーを使用しているか確認してください。
- リモコンや本体の「Multi CH」ボタンを押してください。（46）

DTS信号について

- DTS信号を再生しているときは、本機のDTSインジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了してもDTSインジケーターが点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTS信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTS信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

HDMI入力音声が頭切れする

- HDMI信号は、他のデジタル音声信号に比べてフォーマット認識に時間がかかるため、音の出だしが遅れることがあります。

ゾーン2（別室）のスピーカーから音が出ない

- ゾーン2のスピーカーには、アナログ接続した音声しか出力されません。再生機器がアナログ接続されているか確認してください。

映像

映像が出ない

- TVなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 映像機器と本機をHDMI端子接続している場合は、本機とテレビもHDMI端子接続をしてください。
- 映像機器と本機をD端子接続している場合は、本機とテレビもD端子、コンポーネントまたはHDMI接続をしてください。（21）

- 映像機器と本機をCOMPONENT端子接続している場合は、本機とテレビもコンポーネント、D端子またはHDMI接続をしてください。（21）
- D入力端子とCOMPONENT入力端子を同じ系統で同時に接続しないでください。正しく映像が出力されません。（21）
- HDMI入力した映像が出ないときは、本機の表示部に「Resolution Error」と表示されていませんか？この場合、テレビがプレーヤーから入力した映像の解像度に対応していません。プレーヤー側で設定を変更してください。
- HDMI端子の設定やコンポーネントビデオ端子の設定により、VIDEO端子やS VIDEO端子に接続した機器の映像をHDMI端子、D端子やコンポーネント端子で接続したTVなどのモニターに変換することができますが、ビデオデッキなど映像機器の信号に乱れが多い場合は、テレビで映像が乱れたり映像を表示しなくなる場合があります。この場合はHDMI端子、D端子やコンポーネント端子で接続したTVなどのモニターに変換せず、VIDEOまたはS VIDEO端子で接続してください。（39、40）

OSD画面表示が出ない

- HDMI OUT端子とテレビを接続しているときは、OSD画面は出ません。
- ご使用のテレビなどのモニター側の設定を確認してください。

テレビに操作内容が表示されない

- 再生機器をCOMPONENT VIDEO入力端子、D4 VIDEO入力端子、HDMI入力端子に接続しているときは、操作内容は表示されません。（66）
- 「お好みの設定をする」の「OSD Setup」で「Immediate Display」を「On」にしてください。（66）

リモコン

リモコン操作ができない

- **本機を操作するときは、はじめにAMP（アンプ）（Receiver（レシーバー）/Tape（テープ））ボタンを押してください。**
- 電池の極性（＋/－）が正しく入っているか確認してください。（16）
- 電池を3本とも新しいものと交換してみてください。リモコン電池が消耗していると、一部のボタンが働かない場合があります。（16）
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。
- 本体のリモコン受光部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光）が当たっているとリモコン操作ができない場合があります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると正常に機能しない場合があります。

RI専用リモコンコードを使ったインテグラ/オンキヨー製他機器の操作ができない

- インテグラ/オンキヨー製他機器とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RIケーブルだけでは正しく連動しません）
- もう一度、RI専用リモコンコードを入力し直してください。（76）
- RI専用リモコンコードを入力したときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。（例：TAPE端子にMDレコーダーやCDレコーダーを接続した場合）（43）

インテグラ/オンキヨー製機器（RIなし）や他メーカー機器の操作ができない

- もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある場合は、他のコードも試してください。動作しない操作ボタンには、他機のリモコンから学習させることもできます。（81）
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。
- リモコンをそれぞれの機器の受光部に向けて操作してください。
- 製品によっては動作しない場合もあります。

リモコンの学習操作ができない

- リモコン送信部が正しく向き合っていることを確認してください。（81）
- 学習できないリモコンを学習させようとしていませんか？コードを転送できないもの、1つのボタンで複数の指示を出すリモコンは学習できないことがあります。（81）

録音/録画

録音ができない

- 録音機器側で、デジタルやアナログなどの録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。

その他

ヘッドホンを接続すると音が変わる

- 「Direct」、「Mono」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo」になります。

スピーカーの距離設定が希望通りにならない

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。

本体表示部が暗い/Master（マスター） Volume（ボリューム）のまわりのライトが消える

- Dimmer（ディマー）機能が働いていませんか？Dimmer（ディマー）ボタンを押して、表示部の明るさを変えてください。（45）

音量調整が＋18dB（99）以下で終わる

- 各スピーカーの音量調整を行うと、音量最大値が変わることがあります。

多重音声の言語を切り換えたい

- 「6. Audio Adjust」の「Multiplex」設定で主音声と副音声を切り換えます。（55）

本機をスタンバイ状態にしているのに天板が熱くなる

- Zone 2インジケーターは点灯していませんか？ゾーン2が「オン」の状態で本機をスタンバイ状態にしても、ゾーン2の電源は「オン」になったままです。Zone 2 Offボタンを押して、ゾーン2を「オフ」にしてください。

メモリー保持について
本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、お客様が行ったスピーカーの設定や音響効果に関する設定などを停電時などに保護するためのものです。本機の主電源を切った状態でメモリーが保持できるのは約2週間です。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音･録画できることを確認の上、録音･録画を行ってください。

すべての内容をお買い上げ時の設定内容に戻すには
電源を入れた状態でVideo 1 ボタンを押したままStandby/Onボタンを押してください。
表示部に「Clear」が表示され、スタンバイ状態になります。

用語集

音声フォーマット

サラウンド（Surround）
ドルビーデジタルやDSPの音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）
ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから5.1チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Videoの標準音声、米国DTVの標準音声として採用されています。

ドルビーデジタルEX（Dolby Digital EX）
映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー、左右側面と背面の3つのセクション（左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド）に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の5.1チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です。

ドルビープロロジックII（Dolby Pro Logic II）
ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。ステレオ音源を5.1チャンネルであるかのような立体音場で楽しむことができます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビープロロジックIIx（Dolby Pro Logic IIx）
ドルビープロロジックIIをさらに改良したマトリックスデコード技術。ステレオ音源を7.1チャンネル再生するため、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

DTSデジタルサラウンド（DTS Digital Surround）
米国のDTS社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常4:1程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期してCD-ROMに記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド
(DTS-ES Extended Surround)
従来のDTS5.1chシステムにセンターバックサラウンド（CS）チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ESには「DTS-ESディスクリート6.1ch」と「DTS-ESマトリックス6.1ch」の2種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来のDTS5.1ch対応機器での再生も可能です。

DTS-ES　ディスクリート (DTS-ES Discrete)
5.1チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応したDTSデジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した6.1チャンネル音声を再生するDTSシステム。

DTS-ES　マトリックス (DTS-ES Matrix)
映画館におけるDTS-ESと同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して6.1チャンネルとする方式のDTSシステム。マトリックスデコーダーとしてNeo:6に対応した機器を使用します。

DTS96/24
DTS96/24フォーマットソースに記録された拡張用データを使用して、5.1チャンネル再生するDTSシステム。サンプリング周波数96kHz、量子化ビット数24ビットの高音質で、きめ細やかな音声を再現します。

Neo:6
DTS社によって開発された、デジタル・アナログを含む全ての2チャンネルソースを6チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「Cinema」モードと音楽に適した「Music」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックスのセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

MPEG-2 AAC
AAC(Advanced Audio Coding)は、AT&T社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット（Fraunhofer IIS）、そしてソニー株式会社の4社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISOとIECの共同管轄の下に、MPEG-2規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来のＭＰＥＧ音声との後方互換性がないので、従来のMPEG音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

THX
ルーカスフィルム(Lucasfilm)社が提唱する劇場用音響の品質規格。映画制作者のニュアンスを劇場で忠実に伝えきるために、レベルやノイズ/残響音/音響機材/スピーカーの設置位置など厳格な品質基準が設けられています。全世界で5,000を超える劇場が認可され、音響品質の高い映画館の代名詞とさえ言われます。

THXセレクト2 (THX Select 2)
8〜12畳程度のリスニングルームを想定して新たに制定された規格カテゴリー。音圧やパワーといった項目の規格が幾分か緩和されています。映画再生に適したTHX Select 2 Cinemaモード、マルチチャンネル音楽再生に適したTHX Musicモード、また、ゲームソフトに適したTHX Gamesモードが用意されています。

THXサラウンドEX (THX Surround EX)
ルーカスフィルム社が、ドルビーデジタルサラウンドEXをホームシアター用再生システムとしてライセンスを行っている方式。映画館と同様にデコードされた左右サラウンドチャンネル信号からマトリックスデコーダーによってサラウンドバックチャンネル信号を取り出します。それぞれの処理にはホームTHXで定められた厳しい性能規格が適用されます。

用語集

音声

アナログ
一般的な再生機器に装備されているL/R（白/赤）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、CDプレーヤー、DVDプレーヤーなどに装備されています。
ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声を聴くときやデジタル録音するときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光（OPTICAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にOPTICAL端子がある場合に使用できます。
音質は同軸デジタルと同等です。

同軸（COAXIAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号でＲＣＡタイプのピンコードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にCOAXIAL端子がある場合に使用できます。
音質は光デジタルと同等です。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換する時の精度。44.1ｋHzは1秒間に44100回、96ｋHzは1秒間に96000回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

LFE（Low Frequency Effect）
ドルビーデジタルやDTSの低周波数効果音のこと。
一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つで5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この6本のスピーカーを使って再生することを5.1chサラウンドと言います。

7.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー2つで7ch（7チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この8本のスピーカーを使って再生することを7.1chサラウンドと言います。

映像

コンポジット
映像の入出力を行う標準的な信号。テレビやビデオデッキには赤・白・黄の丸い端子が装備されていますが、その黄色端子が映像を意味します。コンポジット信号を入出力するには黄色のピンコードを使用します。

Ｓビデオ
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）、同期信号などを複合した形で扱う信号。
コンポジット信号より良い映像を楽しめます。接続にはＳビデオコードを使用します。テレビにＳ端子がある場合使えます。

コンポーネント
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）を2つに分けた色差信号をそれぞれ独立して扱う信号。
Ｓ信号よりも良い映像を楽しめます。接続には専用のコンポーネントケーブルを使用します。テレビにコンポーネント端子がある場合使えます。画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。

D端子
ケーブル1本で簡単にコンポーネント接続でき、より高品位な映像が楽しめます。テレビにD端子がある場合使えます。
D1～D4までの解像度のランクがあり、D4がもっとも高画質です。画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器のアスペクト比など、制御信号を送ることができます。

HDMI
28ページ参照。

主な仕様

アンプ部

定格出力
全チャンネル
135W(8Ω, 20Hz～20kHz,全高調波歪率0.08%以下, 1ch駆動時)

実用最大出力
全チャンネル
200W（6Ω 1kHz 1ch駆動時 JEITA）

全高調波歪率
0.08%（1kHz 定格出力時）

ダンピングファクター
60（フロント, 1kHz 8Ω）

入力感度/インピーダンス
200mV/47kΩ（LINE）
2.5mV/47kΩ（PHONO MM）

出力電圧/インピーダンス
200mV/470Ω（REC OUT）

PHONO最大許容入力
70mV（MM, 1kHz, 0.5% ）

周波数特性
5Hz～100kHz/＋1dB－3dB（Direct Mode）

トーンコントロール最大変化量
＋10dB, －10dB, 50Hz（BASS）
＋10dB, －10dB, 20kHz（TREBLE）

SN比
106dB（LINE, IHF-A）
80dB（PHONO, IHF-A）

スピーカー適応インピーダンス
4Ω～16Ωまたは6Ω～16Ω

映像部

入力感度・出力電圧/インピーダンス
1Vp-p/75Ω（Y）
0.7Vp-p/75Ω（P_b/C_b、P_R/C_R）
0.28Vp-p/75Ω（SビデオC）
1Vp-p/75Ω（コンポジット）

コンポーネント映像周波数特性
5Hz～50MHz

総合

電源・電圧
AC100 V, 50/60Hz

消費電力
570W

待機時電力
0.1W

最大外形寸法
幅435×高さ174×奥行き429mm

質量
13.1kg

映像入力
HDMI　1,2
D4　1,2,3
コンポーネント　1,2,3
Sビデオ　DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4
コンポジット　DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4

映像出力
HDMI　OUT
D4　OUT
コンポーネント　OUT
Sビデオ　MONITOR OUT, VIDEO1, VIDEO2
コンポジット　MONITOR OUT, VIDEO1, VIDEO2

音声入力
デジタル　5（光）、2（同軸）
アナログ　DVD, VIDEO1, VIDEO2,VIDEO3, VIDEO4, TAPE, TUNER, CD、PHONO
マルチチャンネル 7.1ch（DVD）

音声出力
デジタル　1（光）
アナログ　TAPE,VIDEO1,VIDEO2
マルチチャンネルプリ出力　7
サブウーファープリアウト　1
スピーカー出力　7
ゾーン2出力　ZONE 2 L/R/SUBWOOFER
ヘッドホン出力　1

RS232端子　1
IR IN/OUT　2/1
12Vトリガー出力　3

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

高調波抑制規格 JIS C61000-3-2 適合品

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より3年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名　DTX-7.7
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ONKYO®

オンキヨー ご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。
万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

■ 製品についてのご相談、カタログのご請求

お客様ご相談窓口	コールセンター　受付　9:30～17:30（土・日・祝、弊社休業日を除く） ＊ WEB　:　http://www.jp.onkyo.com/support/ ＊ TEL　:　050－3161－9555　　＊ FAX　:　072－831－8124 ＊ 郵便　:　〒572-8540　大阪府寝屋川市日新町２－１ オンキヨー株式会社　コールセンター

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページ。　→ http://www.jp.onkyo.com/

快適なオーディオライフをサポートするセレクトショップ。　→ http://www.e-onkyo.com/

修理のご依頼は、取扱説明書の「困ったときは」、「故障かな?と思ったときは」または「故障?と思ったときは」の項目をご確認のうえご依頼ください。
転居されたり、贈物でいただいたものの故障でお困りの場合は、下記へご相談ください。

■ 修理についてのご相談、ご依頼

修理窓口	首都圏サービスセンター　受付　9:30～17:30（土・日・祝、弊社休業日を除く） ＊ TEL　:　050－3161－9555（コールセンター）　＊ FAX　:　03－5819－2940 ＊ 住所　:　〒130－0004　東京都墨田区本所２丁目16－5　6階
	大阪サービスセンター　受付　9:30～17:30（土・日・祝、弊社休業日を除く） ＊ TEL　:　050－3161－9555（コールセンター）　＊ FAX　:　072－831－8124 ＊ 住所　:　〒572-8540　大阪府寝屋川市日新町２－１

2006年6月現在　お客様ご相談窓口・修理窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。
（ http://www.jp.onkyo.com/support/ で最新の名称、所在地、電話番号をご覧いただけます）

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　　(　　)

メモ：

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555　受付時間　9：30〜17：30
（土·日·祝日·弊社の定める休業日を除きます）

G0609-1

SN 29344336